

# 静岡県立美術館年報

## 令和 3 年度

ANNUAL REPORT OF

SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2021



# 静岡県立美術館年報

令和 3 年度

ANNUAL REPORT OF

SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2021



# 目次

自己評価システムの体系	5
令和3年度 美術館の評価活動	6
【基本方針A】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	
【重点目標1】収集方針に従い持続的に作品を収集します	
新収蔵品	9
収集品点数一覧	14
【重点目標2】コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	
収蔵品展	16
移動美術展	17
図書資料の収集・整理	18
館藏品等の貸し出し	19
美術作品の補修	24
保存活動	25
【基本方針B】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	
展覧会活動 展覧会一覧	27
観覧者数一覧	28
ストーリーズ～作品について学芸員が知っていること	29
忘れられた江戸絵画史の本流 — 江戸狩野派の250年	30
江戸狩野派の古典学習 — その基盤と広がり	32
国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 — 天地創造の神話	33
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	
(調査研究活動)	
紀要の発行	35
研究活動	36
研究会	37
各種資料整理	40
博物館実習	41
【基本方針C】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及プログラムを開発します	
(一般向け)	
ギャラリーツアー	42
実技・鑑賞講座	43
(子ども向け)	
実技・体験	45
学校連携普及事業(美術館教室)	47
【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	
講演会	50
美術講座	51
対外活動	52
ロダン館展示・イベント	54
【重点目標3】地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	
美術館ボランティア・広報サポーター	56
友の会活動	58
【基本方針D】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	
【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます	
広報活動(ホームページを含む)	64
デジタルアーカイブによる情報発信	66
美術館ニュース「アマリリス」	69
【重点目標2】観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	
新たな広報チャンネルの開拓	71
【基本方針E】環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます	
【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます	
施設利用状況(年度別)	72
令和3年度県民ギャラリー利用状況	73
【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます	
来館者のアクセス満足度	74
【重点目標3】運営基盤を強化します	
■付帯資料	
令和3年度主要記事	75
(展覧会 出品目録)	
ストーリーズ～作品について学芸員が知っていること	76
忘れられた江戸絵画史の本流 — 江戸狩野派の250年	80
江戸狩野派の古典学習 — その基盤と広がり	84
国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 — 天地創造の神話	85
収蔵品展	91
移動美術展	93
(管理運営)	
関係法規	96
組織・名簿	105
歳入・歳出決算	106
建築・設備概要	107
利用案内	112
奥付	



# 自己評価システムの体系

## 使命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

## 基本方針

A	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
B	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
C	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
D	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
E	環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます

## 重点目標

1	収集方針に従い持続的に作品を収集します
2	コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます
1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します
2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します
1	質の高い芸術教育と普及プログラムを開発します
2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します
3	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します
1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます
2	観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます
1	館内施設を充実させ、満足度を高めます
2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます
3	運営基盤を強化します

## 評価指標

1	作品購入件数・価格
2	作品寄贈件数・価格
3	収蔵品の公開件数
4	収蔵品展のみの観覧者数
5	ロダン館の観覧者数
6	収蔵品に関する調査研究の発表回数
7	コレクションを活用した教育普及プログラム数
8	修復したコレクションの件数・費用
9	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
10	展覧会の来館者数
11	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
12	作品やテーマに興味を持った人の割合
13	展覧会に対する外部評価【定性】
14	調査研究の発表回数
15	内部セミナー・研究会・研修の回数
16	他の美術館や大学と連携した取組件数
17	調査研究に関する外部評価【定性】
18	学校教育と連携した取組数 うち特別支援学校と連携した取組数
19	鑑賞系プログラム数
20	webを活用したプログラム数
21	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
22	講演会等の開催件数
23	学芸員のフロアレクチャー等の数
24	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
25	地域住民等と連携した取組数
26	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】
27	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
28	デジタルアーカイブによる情報発信件数
29	ホームページのアクセス件数
30	facebook、インスタグラム、ツイッターのビュー数
31	facebook、インスタグラム、ツイッターのエンゲージメント等の件数
32	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
33	教育機関への情報発信数
34	広報手法における新たな取組状況に関する美術館職員のレポート【定性】
35	美術館利用者数
36	鑑賞環境に対する満足度
37	レストランに対する満足度
38	ミュージアムショップに対する満足度
39	来館者のアクセス満足度
40	運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】

## 令和3年度 美術館の評価活動

### ■ 美術館自己評価 総括

#### A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

##### 【成果】

- ・収集方針に即した日本画、西洋絵画、現代美術の優品を収集することができた。購入予算の見通しは厳しいが、美術館および担当学芸員の日頃の真摯な活動が、所蔵者の信頼を得、作品の寄贈を賜った。
- ・年度後半が休館となる中、移動美術展などを通して収蔵品の公開機会を確保した。
- ・収蔵品展のみの観覧者数はふるわなかったが、収蔵品による企画展「ストーリーズ」を通して、多くの方にコレクションをご覧いただくことができた。作品の収集や調査研究の歴史をひもとく同展を通して、コレクションの価値の発見と発信という点で大きな成果を挙げた。
- ・コレクションの保存・修復には計画的に取り組んでいる。平成30年度に寄贈いただいた「輞川図巻」の3ヵ年にわたる計画的な修理を無事終え、令和4年度のシンポジウム開催に結び付けることができた。調査研究に基づく作品収集と適切な修理が、貴重な文化財の後世への継承につながった好例である。
- ・「収集—コレクションの持続性」を筆頭に8方針から成る5ヵ年計画を策定した。

##### 【課題】

- ・寄附金を元にした4年に渡る1,000万円/年の購入予算の最終年となり、令和4年度の購入予算はゼロとなった。収集方針に則った作品の購入を継続していくことは、コレクションを基盤とした館運営のために必須であり、購入予算の確保は切実な課題である。
- ・コレクションにまつわる展示、保存、教育普及、調査研究といった諸活動は県立美術館の基盤を成すものである。重点目標2の充実を図り、継続的、効果的にコレクションの魅力を発信していくことで、作品収集への理解につなげていく。

#### B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

##### 【成果】

- ・当館のこれまでの活動に根差しつつ、それをさらに深化、発展させた3本の自主企画展を開催。「静岡県立美術館でなければ開催できなかった」との評価を得るなど（『忘れられた江戸絵画史の本流』）、日頃の調査研究に基づいた当館独自の特色ある企画展を発信することができた。

- ・「ストーリーズ」展は収集活動の検証という展で有意義であった。
- ・開館35周年記念として特別版の移動美術展を浜松で開催、県立美術館コレクションを大規模に、かつ幅広く紹介することができ、西部地区における当館および当館コレクションの魅力の発信に有益だった。
- ・作品やテーマに興味を持った人の割合は、目標を上回り高水準を維持した。
- ・コロナ禍においても適切な対策を取って無事開館を続けることができた。

##### 【課題】

- ・展覧会の来館者数は目標を大きく下回った。コロナ禍による県外からの来館者の減少や予約制導入による観覧者数の頭打ちなど諸要因が考えられる。コロナ禍における展覧会開催の意義・目的を改めて確認した上で、観覧者数目標値の設定とその達成方法について、基本方針Dの取組みと連動させながら検討していくことが重要である。
- ・移動美術展を機に浜松市美術館や静岡文化芸術大学と連携することができた。今後の継続的な連携・協力関係の構築が課題である。
- ・充実した展覧会活動の基盤となる学芸員の調査研究体制の整備と維持について、引き続き、重要課題として取り組んでいく必要がある。

#### C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

##### 【成果】

- ・重点目標1については、webを活用したプログラムについては開発に着手できなかったが、学校教育との連携や鑑賞系プログラムについては目標を上回ることができた。
- ・重点目標2については、目標に達しなかったものの、講演会や館長講座、フロアレクチャー等は実施できている。しかし、館内空間を生かした催事については、コロナの状況により1事業が中止となった。
- ・重点目標3については、コロナ禍によるイベント中止や工事休館の影響もあったが、ボランティア活動の一部や館内レストラン企業、近隣文化関係団体と連携した取組は実施した。

##### 【課題】

- ・webの活用はコロナ禍において一層強く求められているが、当館ではまだ対応できる範囲は広くはない。引き続き情報収集するとともに、リモート対応の範囲の拡大や、新しいプログラムの検討も必要と考えられる。



- ・地域との連携については、これまでの関係団体との連携を維持するとともに、新たな連携を模索していく。

#### D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

##### 【成果】

- ・デジタルアーカイブに関しては、基本システムが完成し、公開することが出来た。
- ・観光業等との連携に関しては、コロナ禍においてはイベントの中止が相次ぎ、大変厳しかったが、その中でも教育機関への情報発信を行うなど、新たなチャンネルを構築し始めた。

##### 【課題】

- ・デジタルアーカイブに関しては、作品作家情報の精度向上のほか、図書情報の追加や現代美術関連情報の週及入力など、今後も継続して内容の充実にも努める必要があり、そのための予算確保が課題となる。
- ・現在の広報は、各職員が業務の一部として実施している。戦略的に広報を行うには、専門的な知識を有した人材の活用が求められる。

#### E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます

##### 【成果】

- ・エントランスホールでは、特定天井の改修工事と照明を更新した。照明については、間接照明を増やすなど、エントランスの環境を改善した。また、2階展示室の照明の更新、壁の塗替えなどを行い、作品を展示・鑑賞する環境を改善した。
- ・時間制予約の導入による来館者の分散、J R草薙駅からバスの増便など、来館者の満足度を高める取り組みも実施した。
- ・「古代エジプト展」は、当初予定になかった文化庁補助金の交付を受けるなど収入の確保に努めた。

##### 【課題】

- ・新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言の影響などにより、「美術館利用者数」は目標を達成することができなかった。今後もコロナ禍での開館が続くが、感染防止対策を徹底した上で、安心して来館していただける環境を整備する必要がある。
- ・「来館者のアクセス満足度」は、目標を下回った。公共交通機関については、バスの運行本数の問題があり、自家用車については、収容台数と利便性の問題がある。
- ・運営基盤の強化を図るため、引き続き、収入の確保や業務の効率化に取り組む。また、企業との連携を強化する必要がある。

#### ■前史

平成13年度より館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、あわせて利用

者の満足度調査を行った。翌年度は、ベンチマークスの改訂作業を進めるとともに、利用者アンケート調査等を行い、指標の現状値を把握したうえで業務改善に取り組んだ。

これらの成果を踏まえ、平成15年度には「静岡県立美術館評価委員会」が設置された。2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に評価委員会による最終報告「提言：評価と経営の確立に向けて」が出された。これを受けて、同年4月よりミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始め、平成18年度には、前年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

使命－基本方針－重点目標の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定して自己点検を行い、業務改善につなげる仕組みであり、おおよそ3年ごとに調整を加えながら現在まで継続して取り組んでいる。

#### ■令和3年度の活動

- ・評価シートにもとづく自己点検評価および外部評価  
引き続き、自己評価システムに基づいて自己点検評価を行い、設置者による取り組みとあわせて第三者評価委員会による評価を受けた。

令和3年度静岡県立美術館第三者評価委員会  
7月16日（金）（オンライン開催）

- ・県立美術館の令和2年度自己評価結果について
- ・設置者の取り組みについて
- ・令和2年度第三者評価委員会での主な意見と対応状況について

本委員会において、評価シートの見直し方針を館長より報告した。主たる見直し内容は、「使命」の文言の修正および「基本方針」へのコレクションの形成と活用に関する事項の追加である。

この方針に基づいて見直し作業を行い改訂版評価シートを作成、令和3年度自己評価については改訂版を用いて実施した。

##### ・研究活動評価

展覧会および学芸員の調査研究に関する定性的な評価を行うため、研究活動評価委員会を設置しており、利用者アンケートでは把握しきれない学術面での達成について、下記5名の委員から評価を受けた。

##### (1) 研究活動評価委員

- 金原 宏行【日本画・日本洋画】／名都美術館学芸参与
- 潮江 宏三【西洋絵画・現代美術】／京都市立芸術大学名誉教授
- 榊原 悟【日本画】／岡崎市美術博物館・おかざき世界子ども美術博物館特任館長、群馬県立女子大学名誉教授
- 山梨絵美子【日本洋画】／千葉市美術館館長

## (2) 評価活動記録

- ①委員会開催 6月21日(月)  
令和2年度 研究活動評価について  
令和3年度 研究活動評価について  
今後の研究活動についての意見交換
- ②「ストーリーズ」展の視察、展覧会および図録に対する評価・提言 4月30日(金)  
評価委員：金原委員、潮江委員、山梨委員  
※新型コロナウイルス感染状況に鑑み、潮江委員、山梨委員については図録のみ評価いただいた。
- ③「忘れられた江戸絵画史の本流」展の視察、展覧会および図録に対する評価・提言 6月21日(月)  
評価委員：金原委員、榊原委員
- ④『静岡県立美術館紀要』第37号掲載論文の評価  
評価委員：(南論文) 潮江委員、栗田委員  
(浦澤論文) 金原委員、榊原委員

### (参考) 静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱 (設置)

第1条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員(以下「委員」という。)を置く。

#### (職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項

#### (組織)

第3条 委員は5名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

#### (委嘱)

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

#### (任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

#### (委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

#### 附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。


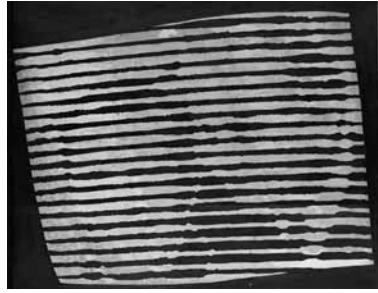

## 令和3年度 新収蔵品

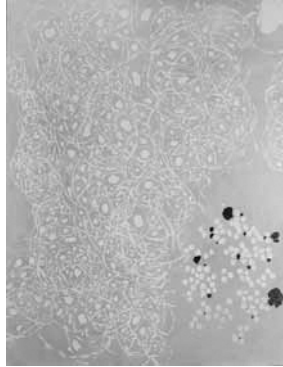


当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。


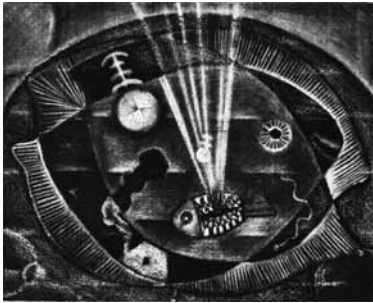
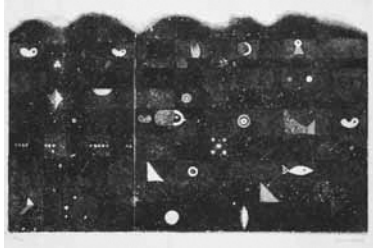
- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とする国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモチーフとした作品

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	作品概要
1 アントニオ・ カナレ (カナ レット)	ランタンのあ るボルティコ	1744年頃	紙、エッチン グ	29.7×42.8	購入	故郷ヴェネツィアを主題とする都市景 観画で知られる作家による版画作品。 ランタンが吊り下げられた古いアーチ の向こうに、凱旋門や古代ローマの遺 跡と思われる建築物が広がる眺めは、 実景ではなく想像上の光景と思われ、 丹念な描写を重ねることで、海辺の町 の静かな佇まいを描き出している。本 作を含む版画集は、カナレットのコレ クターでもあった当時の駐ヴェネツィ ア英国領事に献上された。
2 ルイ・ジャン・ デプレ フランチェス コ・ピラネー ジ	ポッツォーリ のセラピス神 殿	1781年?	紙、アウトラ イン・エッチ ング、手彩色	46.7×66.2	購入	フランス人ルイ・ジャン・デプレの素 描を元にイタリア人フランチェスコ・ ピラネージが彫版し、手彩色が施され た、軽やかで鮮明な水彩が印象的な作 品。南イタリアの古代港湾都市ポッツォ ーリに現存する壮大な遺跡を舞台に、画 面中央にグランドツアーの旅行者たち を配する構成によって、18世紀当時 の南イタリアで起こった考古学への熱気 が伝わる一点である。
3 狩野探幽	王冕原本 梅図	墨 1664-1674 (寛 文4-延宝2) 年	絹本墨画	101.1×33.0	購入	狩野探幽が元の画家・王 冕の墨梅図を模し、自ら の「筆峯大居士」印を捺 した直模作品である。幕 末狩野派による原本の模 本があり、原本は幕府所 蔵だったことが分かる。 探幽は、賛を含めて原本 を忠実に模している。王 冕の墨梅図にみる美しく 伸びやかな筆遣い、月の 微光を感じさせる墨の濃 淡表現などを、模写を通 じて習得したことがうか がいが知れる一点である。



No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	作品概要
4 狩野立信	(倣日観) 葡萄図	19世紀半ば-後半 (江戸時代後期-明治初期)	絹本墨画	60.6×90.6	購入	幕末維新期に活躍した狩野立信による、南宋から元初の僧侶画家である日観に倣った葡萄図である。日観は水墨で葡萄図を描くことを得意としており、日本にその作品が数多く伝わっている。江戸狩野派は日観に倣う葡萄図を倣古図において数多く描いており、本作はその一例と言え、本図は「日観原本葡萄図(模本)」(東京国立博物館)の図様を用いた作品である。巧みな筆墨表現によって奥行きや葡萄の立体感を描き出した、立信の優品である。 
5 齊藤司郎	(作品名不詳)	1968 (昭和43)年頃	合板、塗料	130.0×162.2	購入	近くから見ると黒地に灰色の塗料で斜め方向の縞模様が描かれているように見えるが、離れて見ると米国36代大統領ジョンソン(右)と同37代大統領ニクソン(左)の肖像が浮かび上がる。だまし絵的な要素のある作品である。齊藤は1960年代後半に東京を拠点に同世代の表現者との親交を深め、静岡の前衛グループ「幻触」に参加した。本作は、1968年に東京画廊、村松画廊で開催された「トリックス・アンド・ヴィジョン展」に出品された。 
6 中西夏之	韻-H	1960 (昭和35)年	合板、ペイント、エナメル、砂、紐、石膏	131.5×163.2×9.5	太田正樹氏寄贈	中西の最初期にあたる1959~60年に制作を手掛けた絵画シリーズ「韻」の1点。合板の上にコテを使って塗料を盛り上げた厚みのある支持体に、スプレーガンや筆で描いた黒と白の二重のT字の形が、画面を覆う。砂やエナメル、紐などの物質が用いられている点で、1960年前後に流行したアンフォルメルの影響がうかがえる一方で、そうした顔料によって形成される絵画の下地は、描きこまれたT字型の連鎖を下支える構造にもなっている。 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	作品概要
7 中西夏之	グレーの中の 白い旋回-Ⅲ	2011 (平成23) 年	キャンヴァス、 油彩	227.0×172.0	太田正樹氏 寄贈	<p>ライトグレーのキャンバスの地色の画面に満ちるように、旋回する白い線と斑点が描かれ、画面右下の余白に密集する白の斑点に混じって紫の斑点がわずかに描かれている。同シリーズⅠ、Ⅱは、構図は類似しているが、線の方向や粗密、配置のバランスに違いがある。中西の絵画シリーズは3~10点程の連作のものが多く、シリーズごとに区切りがあるのではなく、先行するシリーズに連鎖するように後続するシリーズが生み出されている</p> 
8 中村宏	人面動物	1960 (昭和35) 年	紙、鉛筆、水 彩	26.8×17.9	原雄太郎氏 寄贈	<p>本作の制作年は、初期の「ルポルタージュ絵画」から「観念絵画」へ移り変わる頃に当たる。四本足の体に、長い首を持ち、人間の顔をした生き物が描かれる。口からは舌を出し、臀部からは糞をしている。中村作品においては、異なるモチーフを組み合わせることや、対象をデフォルメすることは見られるが、こうした想像上の異形のモチーフは珍しい。基本的には鉛筆で描かれているが、陰影をつけるため、水彩も併用されている。</p> 
9 中村宏	記号2	1986 (昭和61) 年	キャンヴァス、 アクリル	45.5×53.2	原雄太郎氏 寄贈	<p>本作は、「タプロオ機械」シリーズに含まれると考えられる。中村は、「タプロオ機械」シリーズでは、窓枠のような形や、流れる煙や粒子のような形を描き、動きや時間を表現した。本作は、当館所蔵の《早来迎機》よりも2年早い1986年作となり、同シリーズの最初期にあたる。窓枠のような形や、煙や粒子のような形は他の作品とも共通するが、画面中央に位置する赤いリングのモチーフは独特である。</p> 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	作品概要
10 中村宏	告示(2)	1996(平成8)年	キャンヴァス、アクリル	91.0×65.1	原雄太郎氏寄贈	作者の色彩(黄色)への関心は、「黄色法則」、「限界表示」、後期の「タブロオ機械」などのシリーズとも共通するものである。本作では、進入禁止を示す、黒と黄の縞模様で覆われた、比較的浅い奥行きが表されている。一方で、水色と黄色の線が画面を横切るように描かれている。絵画的な約束事である遠近法を利用し、鑑賞者の視線を奥へと誘導しながらも、視線を阻むという、矛盾するような仕掛けが設けられている。
						
11 駒井哲郎	消えかかる夢	1951(昭和26年)	紙、アクアチント、メゾチント	12.5×15.5	日比野秀男氏寄贈	1949年から始まる「夢」のシリーズには眼球のような形が多くあらわれるが、こうした眼球への固執にはルドンからの影響がみられる。駒井にとってルドンは、1934年に雑誌で銅版画3点をはじめて見て以来、晩年まで重要な作家であり続けた。1951年に制作された本作では、眼球のような形状の中に煙突から煙が立ち上る家や光線を放つ魚など詩的で幻想的なイメージが描かれている。駒井哲郎銅版画作品集(限定版)188/212 美術出版社、1973年に収録。
						
12 駒井哲郎	岩礁にて	1970(昭和45)年	紙、エッチング	24.0×35.5	日比野秀男氏寄贈	青い色彩が印象的な本作には、海の中を思わせるような魚や、幾何学的模様が浮遊する詩情豊かなイメージが描かれている。空間に具象の形態や幾何学的な形が浮遊するイメージは、1950年に制作された「夢」シリーズや、『小さな幻影』などにも見られる。色面空間の中に具象、抽象を問わず多様な形が浮遊するイメージは、駒井が長く追及したモチーフのひとつであった。『駒井哲郎集』(限定版)157/500 筑摩書房、1970年に収録。
						

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	作品概要
13 駒井哲郎	樹	1971 (昭和46)年	紙、エッチング	14.0×8.5	日比野秀男氏寄贈	フランスから帰国後の1957年に創作した《樹木 ルドンの素描による》を起点として、またブレダンの《枝》にみられる狂気的一面も継承して、1950年代後半より、樹木をモチーフにしたエッチングを多数発表するようになる。本作も、その流れの中で制作された樹木をモチーフにしたシリーズの一つと考えられる。樹木は晩年まで重要なモチーフのひとつとなった。「駒井哲郎版画作品集」(限定B版)、68/100、美術出版社、1979年に収録。
						
14 駒井哲郎	流れ	1973 (昭和48)年	紙、エッチング	15.0×14.5	日比野秀男氏寄贈	溪流の風景を緻密に描写した銅版画作品。銅版画は駒井の原点であり、帰結点でもあった。1970年代に入り駒井は、一時離れていた銅版画による風景を制作するようになり、改めて銅版画らしい銅版画に取り組んだ。銅版画の良さである黒と白の対比が際立つ作品である。『駒井哲郎銅版画作品集』(限定版)188/212 美術出版社、1973年に収録。
						

■収蔵品点数一覧 (令和3年度末現在)

購入作品数

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計		
											点数	金額(百万円)	
昭和55				5		5					5	74	
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287	
57	9	5	3		3	2					22	563	
58	10	6	2	1	60		1				80	483	
59	3	10			27		2				42	597	
60	7	10	2		5		11				35	669	
61	4	4	1		16		2				27	240	
62	3	6			85		2				96	242	
63	5	3			1		7				16	499	
平成元	5	2			3		3		33		46	392	
2	2	1		3	43		5		13		67	598	
3	1	8	2		268		9				288	675	
4	3	4			4		12				23	768	
5	5	3	2		68		13			3	94	557	
6	8	8	1		27		1			4	49	395	
7	4	8	1	1	152						166	397	
8	3	2	4							4	13	137	
9	5	4	1		2						12	146	
10	5	4	1		52						62	120	
11	4	3	2		37						46	88	
12	1	3	2							1	7	46	
13	2	1	1		9		1				14	39	
14	3	4	1		9						17	45	
15	7	2									9	52	
16	3	2			60		1				66	56	
17	2				22					7	31	41	
18			2				2				4	6	
19		1								1	2	30	
20	1	1			1						3	13	
21	1										1	20	
22	1	1			1						3	12	
23	1										1	5	
24		1			1						2	5	
25											0	0	
26	1										1	16	
27											0	0	
28					2						2	3	
29		1			1						2	0	
30	1	1			2						4	10	
令和元	1	2									3	10	
2	4										4	10	
3	2	1			2						5	10	
合計	点数	131	126	32	12	1,021	7	75	1	46	20	1,471	8,356
	金額	1,720	2,842	311	68	371	80	2,811	3	8	142		



寄贈作品数

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
昭和55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
平成元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5											0
6					1						1
7											0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2			1	36
24	3				13					1	17
25	2	10							2		14
26	4	8			24		3			2	41
27		1			2						3
28	6	4			23		1			4	38
29		1							5	1	7
30	3	1								3	7
令和元		1			10					5	16
2		2								1	3
3		3	1		4					1	9
計	221	132	20	93	344	340	14	8	18	72	1,262

## 収蔵品展

第7展示室において当館の所蔵品・寄託品による収蔵品展を開催し、下記2つのテーマ立てにより計48点の作品を展示した。

無料でご利用いただける本館1階エントランスの名品コーナーにおいても常時3点の作品を展示し、多くの方に鑑賞いただいた。

### ■収蔵品展スケジュール

4月6日（火）～5月16日（日）

新収蔵品展

6月29日（火）～9月5日（日）

構図をめぐる一縦に積む／横に広げる／奥に進む

※5月18日（火）～6月27日（日）は「特別展示 江戸狩野派の古典学習－その基盤と広がり」展を開催。

「江戸狩野派の古典学習－その基盤と広がり」はp.32を参照。

### ■出品目録

pp.91－92を参照

## 移動美術展 静岡県立美術館超名品展 風景と人間

主 催：浜松市、静岡県立美術館、中日新聞東海本社、  
テレビ静岡

協 賛：セキスイハイム東海

会 場：浜松市美術館

会 期：令和3年11月13日（土）～12月19日（日）

休館日：毎週月曜日

### ■概要

静岡県立美術館は、これまで当館所在地より遠方の施設でコレクションを公開する機会を設けてきた。令和3年度は、9月6日から年度末まで当館が工事休館のため、この機会を利用し、通常よりも内容を拡充して実施した。会場選定は、募集によるのではなく、浜松市美術館に打診して前年度に決定している。企画内容については、木下直之館長監修の下、「天」「地」「人」の3章に小テーマを加えて構成し、「超名品」66点を出品した。また、木下館長と浜松市美術館とで、浜松市美術館の所蔵品と木下館長の収集品やフィールドワークによる「木下直之館長超私的企画「浜松の人・浜松を歩く」」を企画し、1階の小スペースを使い同時開催した。

関連事業については、木下館長による講演会1本だけであるが、連携イベントとして静岡文化芸術大学による公開講座シンポジウムに当館も主催として加わり、木下館長及び移動美術展担当学芸員が登壇した。

### ■関連事業

- ・講演会「風景と人間、それとも人間の風景か」

日 時：11月20日（土）14：00～15：30

場 所：浜松市美術館2階講座室

講 師：木下直之（当館館長）

### ■連携イベント

- ・静岡文化芸術大学公開講座シンポジウム「ミュージアムは誰とつながるのかー過去・現在・未来ーコレクションの地域社会における意義を考えるー」

日時：11月14日（日）14：00～16：00

場所：静岡文化芸術大学講堂

講師：木下直之（当館館長）、植松篤（当館上席学芸員）、増井敦子氏（浜松市美術館学芸員）、田中裕二氏（静岡文化芸術大学准教授）、司会・立入正之氏（静岡文化芸術大学教授）

主催：静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センター、  
静岡県立美術館、中日新聞東海本社

協力：浜松市美術館

### ■出品目録

pp. 93-95を参照



▲チラシ

## 図書資料の収集・整理

### ■収集

令和3年度の新たな受入により、当館蔵書は102,227冊となった。その累計内訳は、刊行図書45,166冊、美術雑誌24,080冊、美術館等刊行物32,981冊である。

### ■分類・整理

令和3年度に行った作業は、以下のとおりである。

#### ①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、データベースに入力、配架した。

#### ②定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、データベースに入力後、配架した。

#### ③図書目録の公開

これまでにコンピューターに入力してきた図書目録を、デジタルアーカイブ公開に合わせて新たなデータベースへ移行させ、校正を行った上で、インターネットから検索可能とした。

### ■閲覧

当館には、来館者の図書利用のための閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を配架して自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。閲覧室のパソコンから収蔵図書の検索が可能となっており、利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧することができる。

## 館藏品等の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
1	渡辺省亭	十二ヶ月花鳥図	東京藝術大学大学美術館、東京新聞、NHK、NHKプロモーション	渡辺省亭一欧米を魅了した花鳥画	2021/3/27－ 2021/5/23	東京藝術大学 大学美術館	2021/3/17－ 2021/7/21
2	クロード＝ ジョゼフ・ ヴェルネ	嵐の海	パナソニック汐留美術館	クールベと海	2021/4/10－ 2021/6/13	パナソニック 汐留美術館	2020/9/1－ 2021/6/23
3	アシル＝エ トナ・ミシャ ロン	廃墟となった墓を見 つめる羊飼	パナソニック汐留美術館	クールベと海	2021/4/10－ 2021/6/13	パナソニック 汐留美術館	2020/9/1－ 2021/6/23
4	アントワー ヌ＝ルイ・ パリー	ライオンと蛇	パナソニック汐留美術館	クールベと海	2021/4/10－ 2021/6/13	パナソニック 汐留美術館	2020/9/1－ 2021/6/23
5	クロード・ ロラン	笛を吹く人物のいる 牧歌的風景	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
6	クロード・ ロラン	嵐	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
7	クロード・ ロラン	エウロペの掠奪	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
8	レンブラン ト・ファン・ レイン	三本の木	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
9	アントニオ・ カナル(通 称カナレッ ト)	ドーロ風景	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
10	ウジェーヌ・ イザベイ	サン＝ネクターの 教会堂(古きフラン スのピトレスクでロ マンティックな旅)	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
11	ウジェーヌ・ イザベイ	サン＝ネクターの 教会堂後陣(古きフ ランスのピトレスク でロマンティックな 旅)	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
12	ウジェーヌ・ イザベイ	ポリニャックの城楼 (古きフランスのピ トレスクでロマンティ ックな旅)	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
13	ウジェーヌ・ イザベイ	ポリニャックの城楼 (古きフランスのピ トレスクでロマンティ ックな旅)	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
14	カミーユ・ ピサロ	ライ麦畑、グラット＝ コックの丘、ポント ワーズ	町田市立国際版画美術館	映える風景を探して	2021/4/24－ 2021/6/27	町田市立国際 版画美術館	2021/4/14－ 2021/7/7
15	イサム・ノ グチ	クロノス	東京都美術館、朝日新聞 社ほか	イサム・ノグチ 発見 の道	2021/4/24－ 2021/8/29	東京都美術館	2021/4/14－ 2021/9/8
16	小林清親	本町通夜雪	府中市美術館	映えるNIPPON	2021/5/22－ 2021/7/11	府中市美術館	2021/5/12－ 2021/7/21
17	小林清親	高輪牛町朧月景	府中市美術館	映えるNIPPON	2021/5/22－ 2021/7/11	府中市美術館	2021/5/12－ 2021/7/21
18	小林清親	神田八雲神社暁	府中市美術館	映えるNIPPON	2021/5/22－ 2021/7/11	府中市美術館	2021/5/12－ 2021/7/21
19	小林清親	日本橋夜	府中市美術館	映えるNIPPON	2021/5/22－ 2021/7/11	府中市美術館	2021/5/12－ 2021/7/21
20	五姓田義松	富士	府中市美術館	映えるNIPPON	2021/5/22－ 2021/7/11	府中市美術館	2021/5/12－ 2021/7/21

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
21	平木政次	富士	府中市美術館	映えるNIPPON	2021/5/22- 2021/7/11	府中市美術館	2021/5/12- 2021/7/21
22	渡辺省亭	十二ヶ月花鳥図	岡崎市美術館、中日新聞ほか	渡辺省亭—欧米を魅了した花鳥画	2021/5/29- 2021/7/11	岡崎市美術館	2021/3/17- 2021/7/21
23	香月泰男	冬島	宮城県立美術館	生誕110年 香月泰男展	2021/7/3- 2021/9/5	宮城県立美術館	2021/6/24- 2022/6/8
24	狩野元信印	富士曼荼羅図	富士山世界遺産センター	富士山の表口の歴史と信仰	2021/7/10- 2021/8/9	富士山世界遺産センター	2021/7/1- 2021/8/19
25	中村岳陵	婉膩水韻	長野県信濃美術館ほか	森と水と生きる	2021/8/28- 2021/11/3	長野県信濃美術館	2021/8/18- 2021/11/13
26	香月泰男	冬島	神奈川県立近代美術館	生誕110年 香月泰男展	2021/9/18- 2021/11/14	神奈川県立近代美術館 葉山	2021/6/24- 2022/6/8
27		富士参詣曼荼羅図	九州国立博物館、西日本新聞社、TVQ九州放送	海幸山幸	2021/10/9- 2021/12/5	九州国立博物館	2021/9/30- 2021/12/15
28	カール・ア ンドレ	鉛と亜鉛のスクエア	DIC川村記念美術館	ミニマル／コンセプチュアル：ドロテ&コンラート・フィッシャーと1960-70年代美術	2021/10/9- 2022/1/10	DIC川村記念美術館	2021/9/30- 2022/6/8
29	狩野探幽	一ノ谷合戦・二度之懸図屏風	都城市立美術館	日本美術の源流—雪舟・狩野派から近代美術	2021/10/30- 2021/12/5	都城市立美術館	2021/10/20- 2021/12/15
30	狩野芳崖	寿老人図	都城市立美術館	日本美術の源流—雪舟・狩野派から近代美術	2021/10/30- 2021/12/5	都城市立美術館	2021/10/20- 2021/12/15
31	難波田龍起	ミクロの世界	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
32	児島善三郎	箱根	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
33	坂田一男	祭壇の男	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
34	ユベール・ロバール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーリ	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
35	アシル＝エ トナ・ミシャ ロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼いの	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
36	ヨーハン＝ バルトール ト・ヨンキ ント	オンフルール近郊の街道	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
37	クロード・ モネ	ルーアンのセヌ川	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
38	須田国太郎	筆石村	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
39	田村一男	北越大雪	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
40		富士曼荼羅図	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
41		富士三保松原図屏風	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
42	谷文晁	富士山図屏風	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
43	椿椿山	山海奇賞図巻	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
44	狩野永岳	富士山登龍図	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
45	司馬江漢	駿州薩陀山富士遠望図	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
46	歌川貞秀	大日本富士山絶頂之図	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22
47	歌川芳幾	富士山北口女人登山之図	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13- 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/8- 2021/12/22

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
48	平木政次	富士	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
49	五姓田義松	富士	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
50	和田英作	富士	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
51	石川直樹	Mt. Fuji #38	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
52	石川直樹	Mt. Fuji #41	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
53	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
54	佐伯祐三	ラ・クロッシュ	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
55	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	メリ街道、ラ・フェルテ＝ス＝ジュアル付近	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
56	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
57	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
58	長谷川潔	南仏風景	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
59	柏木俊一	道	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
60	北川民次	山村初春（高草山風景）	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
61	金山平三	千曲川（信濃路の春）	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
62	鳥海青児	張家口	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
63	曾宮一念	スペインの野	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
64	野口謙蔵	虹の風景	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
65		曾我物語 富士巻狩・仇討凶屏風	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
66	菊池容斎	蒙古襲来之図	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
67	鳥海青児	はにわ	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
68	ポール・ゴーガン	家畜番の少女	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
69	オーギュスト・ロダン	パオロとフランチェスカ	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
70	オーギュスト・ロダン	女のケンタウロスのトルソと絶望する若者	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
71	石田徹也	飛べなくなった人	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
72	石田徹也	燃料補給のような食事	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
73	石田徹也	無題 6	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
74	伊藤隆史	現代人A	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
75	伊藤隆史	現代人	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
76	鶴田吾郎	余の見たる曾宮君	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
77	曾宮一念	自画像	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
78	加藤泉	無題	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
79	郭徳俊	クリントンと郭	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
80	郭徳俊	ブッシュ2001と郭	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
81	郭徳俊	オバマと郭	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
82	小谷元彦	胸いっぱいのお愛を (Single/girl)	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
83	森村泰昌	批評とその愛人(1) ～(7)	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
84	ジュリアン・ オピー	歩いているティナ	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
85	宮島達男	LIFE (complex system) - no.1	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
86	河原温	J A N. 24, 1982. “Sunday.” “TODAY” Series No.6, 1982.	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
87	河原温	J A N. 21, 1988. “Thursday.” “TODAY” Series No.1, 1988.	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
88	河原温	A P R. 2, 1988. “Saturday.” “TODAY” Series No.12, 1988.	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
89	森万里子	Higher Being I	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
90	清川泰次	天と地と - 56	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
91	中村宏	早来迎機・1	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
92	前田守一	作品CB- 1「暗愚」	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
93	柳澤紀子	水邊の庭I	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
94	柳澤紀子	水邊の庭IX	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
95	秋野不矩	たむろするクーラー	県美展実行委員会	静岡県立美術館超名品展 風景と人間	2021/11/13－ 2021/12/19	浜松市美術館	2021/11/ 8－ 2021/12/22
96	香月泰男	冬島	新潟市美術館	生誕110年 香月泰男 展	2021/11/27－ 2022/ 1/23	新潟市美術館	2021/ 6/24－ 2022/ 6/ 8
97	池大雅	蘭亭曲水・龍山勝会 図屏風	名古屋市博物館ほか	大雅と蕪村一文人画の 大成者	2021/12/ 4－ 2022/ 1/30	名古屋市博物 館	2021/11/24－ 2022/ 2/ 9
98	森田安次	水	独立書人団	第70回記念独立書展 創立70周年記念特別展 示	2022/ 1/ 5－ 2022/ 1/17	国立新美術館	2021/12/ 1－ 2022/ 1/31
99	森村泰昌	装置 批評とその愛 人D	3331 Arts Chiyoda	オルタナティブ！小池 一子展	2022/ 1/21－ 2022/ 3/21	3331 Arts Chiyoda	2022/ 1/11－ 2022/ 3/31
100	カール・ア ンドレ	鉛と亜鉛のスクエア	愛知県美術館	ミニマル／コンセプチュ アル：ドロテ&コンラ ート・フィッシャーと 1960－70年代美術	2022/ 1/22－ 2022/ 3/13	愛知県美術館	2021/ 9/30－ 2022/ 6/ 8
101	香月泰男	冬島	練馬区立美術館	生誕110年 香月泰男 展	2022/ 2/ 6－ 2022/ 3/27	練馬区立美術 館	2021/ 6/24－ 2022/ 6/ 8



No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
102	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	bunnkamura、東京新聞	ミロ展—日本を夢見て	2022/2/11— 2022/4/17	bunnkamura	2022/2/1— 2022/9/14
103	海老原喜之助	かせ	熊本県立美術館ほか	エビハラがいた時代	2022/2/25— 2022/3/30	熊本県立美術館	2022/2/15— 2022/4/10
104	建部綾足	梅鳥図	板橋区立美術館、東京新聞	建部凌岱展 その生涯、酔たるか醒たるか	2022/3/12— 2022/4/17	板橋区立美術館	2022/3/2— 2022/4/27
105	楳取魚彦	梅花図	板橋区立美術館、東京新聞	建部凌岱展 その生涯、酔たるか醒たるか	2022/3/12— 2022/4/17	板橋区立美術館	2022/3/2— 2022/4/27
106	楳取魚彦	酒泉狸々図	板橋区立美術館、東京新聞	建部凌岱展 その生涯、酔たるか醒たるか	2022/3/12— 2022/4/17	板橋区立美術館	2022/3/2— 2022/4/27
107	カール・アンドレ	鉛と垂鉛のスクエア	兵庫県立美術館	ミニマル／コンセプチュアル：ドロテ&コンラート・フィッシャーと1960 - 70年代美術	2022/3/26— 2022/5/29	兵庫県立美術館	2021/9/30— 2022/6/8

## 美術作品の補修

### 令和3年度の修復作品

- ・《輞川図巻》クリーニング、裏打ち、表具
- ・フランチェスコ・ピラネージ《ポッツォーリのセラピス神殿》マット装
- ・カナレット（ジョヴァンニ・アントニオ・カナル）  
《ランタンのあるポーチコ》マット装
- ・ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ《サンタンジェロ橋とカステル・サンタンジェロ》、《『ローマの景観』より）ヒンジ付け直し
- ・サミュエル・パーマー《疲れた農夫》ヒンジ付け直し
- ・駒井哲郎《岩礁にて》マット装
- ・駒井哲郎《樹》マット装
- ・中村宏《人面動物》マット装
- ・齊藤司郎 タイトル不詳 クリーニング、補正、充填、補彩、裏面金具取付
- ・丹羽勝次《箱シリーズ'68》固着、クリーニング、整形、補強、補填、補彩
- ・依田寿久《無題》本紙クリーニング、テープステインの除去、還元処置、変形修正、マット装
- ・狩野周信《西湖図》環取り付け、紐および上下裂交換
- ・狩野典信《虎図》軸首新調
- ・狩野養信《旭日に鶴図》軸首新調、中性紙箱新調
- ・狩野養信《倣狩野元信 富士三保松原図》中性紙箱新調
- ・狩野立信・雅信《閻魔笛吹童子図》軸首新調
- ・狩野探雪《富士山図》軸首新調
- ・狩野探信守道《円相倣古図》中性紙箱新調
- ・狩野探水守常《西王母図》中性紙箱新調
- ・前村洞和《東方朔図》中性紙箱新調
- ・狩野探玄守明《張良図》中性紙箱新調
- ・狩野柳雪《鍾馗図》中性紙箱新調
- ・狩野柳伯定信《山水図》中性紙箱新調
- ・久隅胖幽《富嶽竹取図》軸首新調、掛緒、巻緒新調、中性紙箱新調
- ・清原雪信《山水図》掛緒、巻緒新調
- ・久隅胖幽《虎図》中性紙箱新調
  
- ・プロムナード彫刻メンテナンス（ジョージ・リッキー  
《四つの巡回する斜線 菱形Ⅱ》洗浄、グリスアップ、  
トニー・スミス《アマリリス》、柳原義達《道標・鳩》、  
佐藤忠良《みどり》、掛井五郎《蝶》、船越安武《杏》  
洗浄、ワックス塗布)

## 保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる、作品の保全活動は、美術館の持つ重要な役割の一つである。しかしながら、老朽化による不具合が建物の各所に生じ、この機能への障害がしばしば生じている。防水、配管、電気等の基本的な設備が、思いがけない故障によって脅かされ、緊急の対応によって事なきを得ることが多くなった。

今年度は大規模な修繕が行われ、建物一部の防水工事や各種警報装置の更新、エントランスホールの吊り天井更新工事等と共に、エントランスホールの照明更新、本館展示室のスポットライト更新及びライティングレールの更新、展示室壁面の再塗装等を行なった。

従来のエントランスホールは、節電のためにハロゲン灯具をそのままLED灯具に置き換えてあり、グレアが多かったため、美術品鑑賞に向かう前の空間として、望ましいものではなかった。また、建物の構造も表現出来ていなかったため、ホールが本来持っていたポテンシャルを生かしてはいなかった。

ダウンライトの灯数を減らしつつライン照明を導入することで、ホールの光環境は大幅に改善した。一部、改善すべき点はあるものの、お客様によりお楽しみ頂ける空間となった。

展示室で用いる作品照明用のスポットライトはLED灯具とし、モデュレックス製スポットライト（青色励起、演色性はRa98、R9が95、R11が98、R12が86）を255台、カッターとしてアイティーエル製スポットライト（紫励起、演色性はRa97、R9が99、R11が94、R12は97）を10台、それぞれ導入することが出来た。

これらの大規模修繕により、建物の機能を、部分的ではあるが、今日的な水準にアップデートすることが出来た。また、これまでに重ねられた小規模な修繕によって生じていた電気配線上の混乱も、この機会に大きく修正された。

今後、予算的に厳しい状況が予想されるが、作品鑑賞と作品保存に必要なメンテナンスを、何らかの形で進めていきたい。

そして今年度も、新型コロナの防疫が大きな課題となった。

各展覧会や実技室イベントでの対策は、担当者が原案を立案、学芸総務両課の職員によるコロナ対策チームと、監視業務に当たるミュージズスタッフ責任者とでこの案を検討し、さらに館内の意見を聴取した後、管理職等の承認を経て実施した。

入館時検温用サーモグラフィーの維持管理、入場制限時の人員整理、展覧会への日時指定導入の検討等は、総務課が主導した。

今年度は9月5日（日）に古代エジプト展が終了した後、工事休館に入ったため、お客様を対象とした防疫対策は不要となった。

### 展示室等殺虫

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のブンガノンによる殺虫処理は例年通り行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫等への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ブンガノン炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

作品に虫菌害が発生した際、有害要因を物理的に排除するだけでなく、薬剤等による処理が必要となる場合がある。

菌害の場合、燻蒸用薬剤ならば、主成分が酸化エチレンの薬品（商品名エキヒュームS）が適切かと考えている。資料に適性があるなら、夏期の日照を利用した熱処理も試行しつつある。

環境や人体への影響が少ない殺虫処理方法である窒素置換法による低酸素濃度殺虫は、必要となる事態が無かったため、今年度の実績は無かった。

収蔵庫等で虫菌害が発生した場合にも、当該個所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガスの開放を入念に行なう必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品への小規模燻蒸に留め、清掃や環境の改善で対応することを、可能な限り目指したい。

### 環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度は4回の館内調査を行なった。また屋外の生物環境の調査を、昨年度に引き続き実施した。館内に侵入する恐れのある生物の生息状況や、リスクになり得る建物周囲の状況を確認した。

館内の作品収納環境は、必ずしも望ましい状態ではなくなりつつある。点数が増え、収納場所が無くなっていくことで、通気を確保し難くなり、取り扱いに必要な空間の確保も難しくなりかねない。作品の収集は美術館本

来の機能であり、これを維持していくためにも、収蔵庫機能の改善は、必須の課題である。

高気密のキャビネットと調湿剤、ガス吸着剤との併用による作品収納スペースの拡張は、概ね順調に進んでいるが、ガス吸着剤の交換を視野に入れ、庫内空気環境の変動を注視している。

#### 普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けている。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行なわれている。

#### 防災

今年度も、職員による大規模な防災訓練は実施出来なかった。

静岡県博物館協会事務局としては、会員各館で実施している新型コロナ対策を書き込むためのスレッドを引き続き活用、情報を共有した。

全国美術館会議東海ブロックでは、愛知、三重、岐阜の各県と共に、防災についての協議を継続している。

#### 主な保存活動の経過

5月24日（月）～31日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第1回目

7月初旬

豪雨に際し、静岡県博物館協会事務局として、連絡網による安否確認を実施。被害はほぼ報告されなかったが、熱海の土石流災害発生時、MOA美術館が駐車場を警察、消防、自衛隊に対策拠点として提供。

8月中旬

豪雨に際し、静岡県博物館協会事務局として、連絡網による安否確認を実施。

8月16日（月）～24日（火）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第2回目

9月17日（金）～19日（日）

ブンガノンによる展示室等殺虫業務

11月4日（木）～11日（木）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第3

回目

2月7日（月）

工事終了に伴い、学芸課職員により本館収蔵庫を清掃。

3月7日（月）～14日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第4回目

展覧会活動 展覧会一覧

	企 画 展						収 蔵 品 展
	1	2	3	4	5	6	7
4 APRIL	4/6（火）～5/16（日） ストーリーズ～作品について <sup>わたしたち</sup> 学芸員が知っていること						4/6（火）～5/16（日） 新収蔵品展
5 MAY	5/22（土）～6/27（日） 忘れられた江戸絵画史の本流—江戸狩野派の250年						5/18（火）～6/27（日） 特別展示 江戸狩野派の古典学習 —その基盤と広がり
6 JUNE	7/10（土）～9/5（日） 国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展—天地創造の神話						6/29（火）～9/5（日） 構図をめぐって —縦に積む／ 横に拡げる／ 奥に進む
7 JULY	9/6（月）～2022/4/1（金） 設備改修工事のため全館休館						
8 AUGUST							
9 SEPTEMBER							
10 OCTOBER							
11 NOVEMBER							
12 DECEMBER	移動美術展 11/13（土）～12/19（日） 静岡県立美術館超名品展 風景と人間 会場：浜松市美術館						
1 JANUARY							
2 FEBRUARY							
3 MARCH							

## 観覧者数一覧

展覧会		会期		観覧者 見込数	観覧者数							
		期間	日数		一般	高校・大学	小・中学	70歳以上	未就学児	招待・減免	実績数	対見込
企 画 展	ストーリーズ	4/6～5/16	36	人 10,000	人 2,340	人 572	人 437	人 329	人 96	人 1,724	人 5,498	% 55.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	5/22～6/27	32	10,000	1,952	408	274	673	46	2,308	5,661	56.6
	古代エジプト展	7/10～9/5	51	63,000	18,277	2,026	3,479	2,200	595	4,754	31,331	49.7
	小計		119	83,000	22,569	3,006	4,190	3,202	737	8,786	42,490	51.2
収蔵品展		4/1～9/5	138	6,000	1,186	(注1) 785	-	269	-	379	2,619	43.7
合計			138	89,000	23,755	3,791	4,190	3,471	737	9,165	45,109	50.7
移動美術展	浜松市	11/13～12/9	32	12,000	-	-	-	-	-	-	8,138	67.8

(注1)「未就学児・小・中学生」の観覧者数を含む。

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成16年度	146,706
昭和62年度	174,031	平成17年度	129,768
昭和63年度	214,156	平成18年度	222,608
平成元年度	229,258	平成19年度	184,535
平成2年度	233,904	平成20年度	190,669
平成3年度	190,361	平成21年度	101,792
平成4年度	173,665	平成22年度	264,207
平成5年度	218,921	平成23年度	126,626
平成6年度	410,182	平成24年度	163,533
平成7年度	245,028	平成25年度	139,428
平成8年度	178,701	平成26年度	94,664
平成9年度	127,299	平成27年度	110,310
平成10年度	153,099	平成28年度	146,498
平成11年度	107,977	平成29年度	157,323
平成12年度	146,833	平成30年度	73,452
平成13年度	207,340	令和元年度	113,362
平成14年度	170,390	令和2年度	137,276
平成15年度	184,095	令和3年度	45,109
		累 計	6,258,852

# ストーリーズ～作品について<sup>わたしたち</sup>学芸員が知っていること

主催：静岡県立美術館

会期：令和3年4月6日（火）～5月16日（日）

## ■概要

開館35周年を迎える静岡県立美術館のコレクションを中心に、日本画、日本洋画、現代美術の作品を取り上げ、所蔵館の学芸員ならではの視点から作品のみどころを紹介した。作品の来歴、出品歴、作品収蔵前後の調査、展示を通じて発見したこと、資料や関係者へのインタビューなどで分かったことなどを、パネル、写真、映像を用いて作品とともに展示した。作家同士、作家とコレクター、作家と批評家との人的交流や、制作の背景などについて言及した作品もあった。出品点数は、借用作品も併せ92点。

## ■関連事業

- 講演会「名品を手に入れる 静岡県立美術館蔵 草間彌生《無題》(No.White A.Z)を中心に」

日時：4月11日（日）14：00～15：30（開場 13：30）

場所：当館講堂

講師：石坂泰章氏（サザビーズジャパン代表取締役会長兼社長）

- 美術講座「石田徹也の作品は海外でどのように紹介されたか」

日時：4月29日（木）14：00～15：00

場所：当館講座室

講師：川谷承子（当館上席学芸員）

- 美術講座「和田英作と曾宮一念 二つの絶筆」

日時：5月2日（日）14：00～15：00

場所：当館講座室

講師：泰井良（当館上席学芸員）

- 美術講座「野島青茲《塑像》—3人の作家をめぐる物語」

日時：5月8日（土）14：00～15：00

場所：当館講座室

講師：石上充代（当館学芸課長）

- 館長美術講座「作品について館長（わたし）が知っていること」

日時：5月9日（日）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：木下直之（当館館長）

## ■図録

発行：静岡県立美術館

編集：石上充代、川谷承子、泰井良、植松篤、西畑春佳

執筆：石上充代、川谷承子、泰井良

デザイン：望月一弘（Jicca design）

印刷・製本：株式会社 山田写真製版所

仕様：H19.5×14.8×1.3cm 264頁

内容：ごあいさつ

1章 「名品」の軌跡

2章 徳川ゆかりの画家、近代を生きる

3章 二人の画家 静岡への想い 和田英作、曾宮一念

4章 語り継ぎたいエピソード

5章 掛井五郎と静岡

6章 石田徹也とその足跡

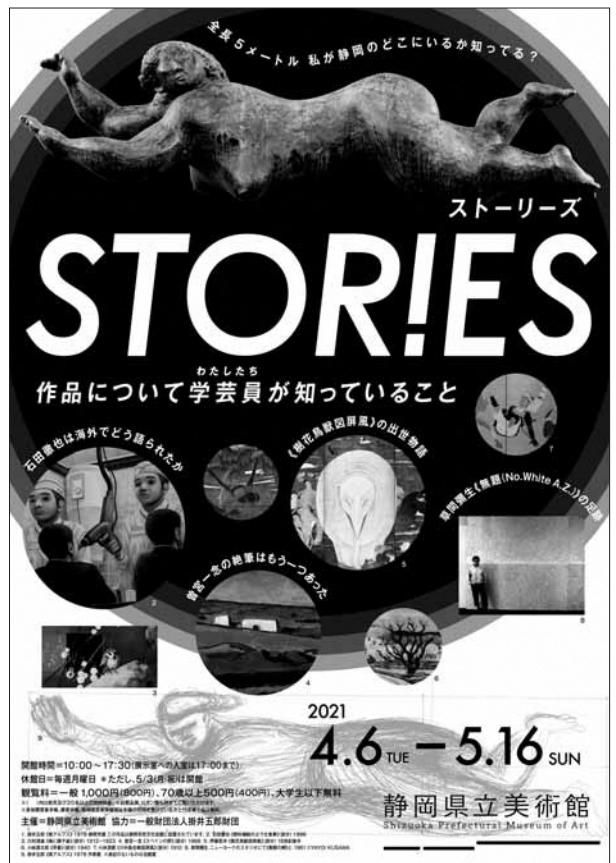
作家略歴

出品作品リスト

主要参考文献リスト

## ■出品目録

pp. 76-79を参照



▲チラシ

# 忘れられた江戸絵画史の本流－江戸狩野派の250年

主催：静岡県立美術館  
会期：令和3年5月22日（土）～6月27日（日）  
前期：5月22日（土）～6月6日（日）  
後期：6月8日（火）～6月27日（日）

## ■概要

近年、江戸絵画人気は高く、さまざまな画家が紹介されているが、江戸絵画史の本流を形成した江戸狩野派の作品は、最も活躍した数人の画家を除いて、ほとんど知られていない。江戸狩野派は巨大な組織で、江戸時代に将軍家や大名の依頼を受け、江戸画壇の中心で活躍した主要な画家だけでも、100人を優に超える。そこで、本展では、個人コレクターが所蔵する2000点を超える江戸狩野派作品を選び、80名の江戸狩野派の主要画家による作品112点（うち1点は当館所蔵作品）を紹介した。個人コレクターの所蔵作品111点のうち、3点を除く作品が初公開となり、知られざる江戸狩野派の世界の一端が明らかになった。展示では、江戸狩野派様式を築いた中心的な奥絵師の当主だけでなく、民間画壇に接触し、江戸狩野派の画風に多様性をもたらした表絵師の当主の作品にも注目し、彼らの幅広い展開をご覧いただいた。

会期中、コロナ禍のなかで、感染症対策を行ったうえで、展覧会の開催に併せた特別講演会、当館館長の講演会をはじめ、学芸員によるフロアレクチャーや、「江戸狩野派総選挙」などのイベントを行い、ご来場者の方々に展覧会をお楽しみいただいた。また、会期中、ニコニコ美術館で展覧会を紹介いただいたことで、図録の売上が伸び、国内外からの反響を得た。

## ■関連事業

- ・特別講演会「江戸時代絵画の底流－江戸狩野の復権」  
日時：5月30日（日）14：00～15：30  
場所：当館講堂  
講師：並木誠士氏（京都工芸繊維大学特定教授・美術工芸資料館館長）
- ・館長美術講座「江戸絵画の表と奥について」  
日時：6月6日（日）14：00～15：30  
場所：当館講堂  
講師：木下直之（当館館長）
- ・美術講座「巨大組織・江戸狩野派の厚みと広がり－その魅力の深層に迫る」  
日時：6月13日（日）14：00～15：30

場所：当館講堂  
講師：野田麻美（当館上席学芸員）

- ・フロアレクチャー  
日時：5月29日（土）、6月26日（土）各日14：00～15：00  
場所：当館企画展示室
- ・わくわくアトリエ「紙工作 ミニ屏風づくり」  
日時：5月23日（日）13：00～15：30  
場所：当館実技室  
講師：おおいしももこ氏（イラストレーター）
- ・実技講座「倣古図に学ぶ一模写・金箔貼り講座」  
日時：6月12・13日（土・日）各日10：00～16：30  
場所：当館実技室  
講師：鈴木強氏（日本画家）

## ■図録

編集：野田麻美  
発行：静岡県立美術館  
執筆：野田麻美  
デザイン：川添英昭  
制作・印刷：ライブアートブックス  
仕様：A4版、202頁（「江戸狩野派の古典学習」展と併せて1冊で刊行）  
内容：ごあいさつ

- 図版 第一章 基盤形成－奥絵師の活躍  
第二章 全国展開－江戸狩野派早期の傍流の実力者たち  
第三章 巨大化と多様化－表絵師の体制確立と展開  
第四章 変化と飛躍－奥絵師様式の刷新  
第五章 江戸狩野派の終焉？－江戸後期表絵師の躍動

論文「巨大組織・江戸狩野派の二五〇年－奥絵師と表絵師に関する諸問題」  
画家解説・作品解説  
系図  
落款・印章  
主要参考文献  
作品目録

## ■出品目録

pp. 80－83を参照



狩野派の世界 2021

国内最大級の江戸狩野派コレクション

忘れられた  
江戸絵画史の  
本流  
—江戸狩野派の250年—

2021  
5.22(土)  
前週: 5月22日(土)～6月6日(日)  
後週: 6月8日(火)～6月27日(日)  
6.27(日)

開館時間: 10:00～17:30(入館は17:00まで) 休館日: 祭連日曜日  
観覧料: 一般1200円(10歳以下600円、70歳以上600円)、大学生以下無料 主催: 静岡県立美術館  
\*10歳未満の子供は必ず大人同伴、年齢別料金適用、中学生、高校生は別途料金(中学生以下は1000円、高校生は1500円)  
\*本展覧会期間中は、本館の常設展示室(第一・第二)も休館となります  
\*本展覧会期間中は、本館の常設展示室(第三・第四)も休館となります  
\*本展覧会期間中は、本館の常設展示室(第五・第六)も休館となります  
\*本展覧会期間中は、本館の常設展示室(第七・第八)も休館となります  
\*本展覧会期間中は、本館の常設展示室(第九・第十)も休館となります

静岡県立美術館  
Shizuoka Prefectural Museum of Art

一挙初公開

予約優先制(土日祝のみ)

▲チラシ

# 江戸狩野派の古典学習—その基盤と広がり

主催：静岡県立美術館  
会期：令和3年5月18日（火）～6月27日（日）  
前期：5月18日（土）～6月6日（日）  
後期：6月8日（火）～6月27日（日）

## ■概要

本展は、「忘れられた江戸絵画史の本流」展に併せ、本館展示室7を会場として開催した、江戸狩野派の古典学習に焦点をあてた特別展示である。本展では、江戸狩野派の古典学習の多様な実態を、彼らの模本や倣古図によって紹介した。また、それらの制作を基に、古典様式のエッセンスを援用し、時代の潮流にあわせてその表現を刷新した江戸狩野派のすぐれた作品を紹介することで、江戸狩野派作品の本質に迫ることを試みた。

本展は収蔵品展スペースを使った展示であるが、借用作品を中心に構成された展示であり、狩野探幽の傑作《臨画帖》（個人蔵、重要文化財）を中心に、江戸狩野派の代表的な模本や倣古図、本画を並べることで、江戸狩野派の模本、倣古図の魅力を紹介した。

## ■関連事業

「忘れられた江戸絵画史の本流」展と共通

## ■図録

編集：野田麻美

発行：静岡県立美術館

執筆：野田麻美

デザイン：川添英昭

制作・印刷：ライブアートブックス

仕様：A4版、62頁（「忘れられた江戸絵画史の本流」展と併せて1冊で刊行）

内容：ごあいさつ

図版 第一章 古典名画を写す—江戸狩野派の縮図・模本・直模作品

第二章 古典名画に倣う—江戸狩野派の模古図とその展開

論文「江戸狩野派による模本と倣古図に関する一考察—狩野常信・栄信・養信ほか『唐絵手鑑』の分析を中心に」

作品解説

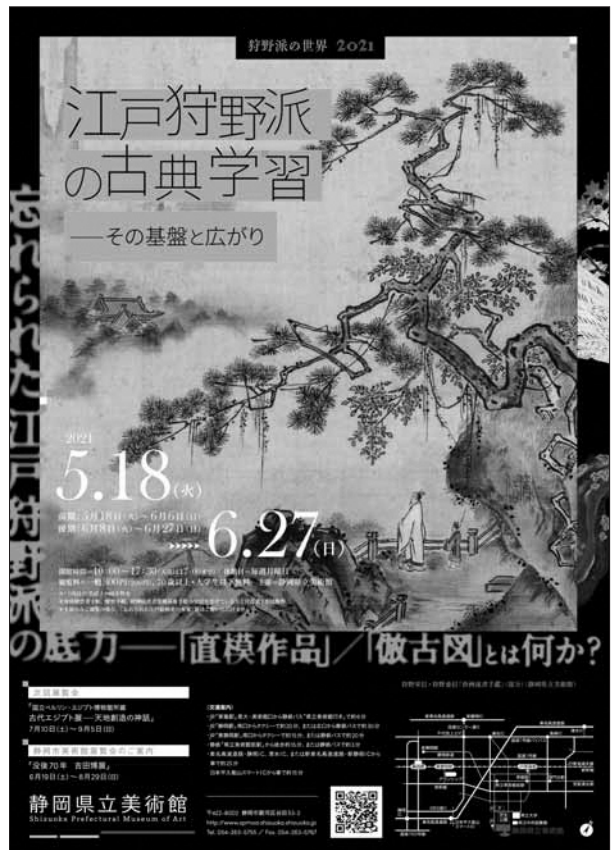
特別出品作品 図版

主要参考文献

作品目録

## ■出品目録

P. 84を参照



▲チラシ

# 国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 一天地創造の神話

**主催**：静岡県立美術館、ベルリン国立博物館群エジプト博物館、静岡朝日テレビ、朝日新聞社、東映

**後援**：ドイツ連邦共和国大使館

**協力**：ルフトハンザカーゴAG

**協賛**：野崎印刷紙業

**監修**：近藤二郎氏（早稲田大学文学学術院教授・早稲田大学エジプト学研究所所長）

**会期**：令和3年7月10日（土）～9月5日（日）

**休館日**：毎週月曜日（但し8月9日（月）は開館）

**夜間開館日**：8月14日（土）、15日（日）、21日（土）、22日（日）、28日（土）、29日（日）、9月4日（土）、5日（日）は午後7時まで開館

## ■概要

古代エジプト人達は、原初の海「ヌン」から世界は生まれ、そして終末の日に再び世界は飲み込まれると信じていた。その巨大なサイクルの中で万物は、生まれ、やがて滅んでいく…… そんな壮大な世界観の中に、ファラオの役割や人々の一生を位置付けていたのである。本展では、古代エジプト人の「天地創造と終焉の物語」を、ドイツ・ベルリンにある、「ベルリン国立博物館群エジプト博物館」のコレクションから選りすぐった約130点の作品でご紹介し、今日もなお我々をひきつけてやまない、不思議な神話の世界をお楽しみ頂いた。

## ■関連事業

- ・特別講演会「古代エジプト人の思想と宗教」  
日時：7月10日（土）14：00～15：30  
場所：当館講堂  
講師：近藤二郎氏（早稲田大学文学学術院教授・早稲田大学エジプト学研究所所長、本展監修者）
- ・ワークショップ「切り絵でデザイン ○○神」  
日時：7月25日（日）12：30～15：30  
場所：当館実技室  
講師：福井利佐氏
- ・館長美術講座「古代エジプトの肖像をめぐる話」  
日時：8月1日（日）14：00～15：30  
場所：当館講堂  
講師：木下直之（当館館長）

- ・学芸員スライドトーク  
日時：8月7日（土）、14日（土）14：00～  
場所：当館講堂  
講師：新田建史（当館上席学芸員）
- ・ワークショップ「ヒエログリフをスクラッチでかこう」  
日時：8月11日（水）～15日（日）中止  
場所：当館エントランスホール
- ・ワークショップ「ころころローラーでヒエログリフをかこう」  
日時：8月21日（土）～22日（日）中止  
場所：当館実技室

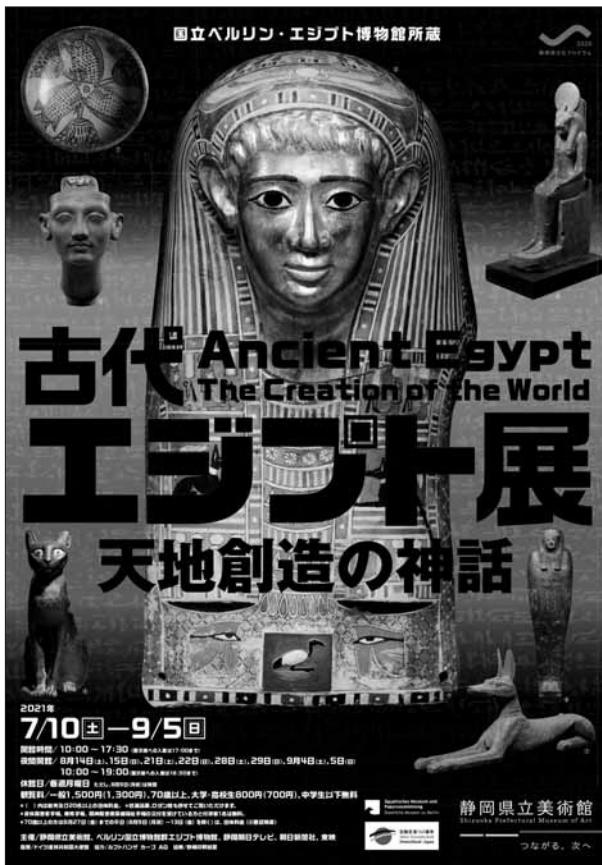
## ■図録

- 監修：ベルリン国立博物館群エジプト博物館  
オリビア・ツォーン、リャオ・イーティーン（廖怡婷）、近藤二郎
- 編集：朝日新聞社  
編集協力：小川智史  
発行：朝日新聞社、東映  
デザイン・制作：竹田麻衣子、斎藤茜  
校正：田宮宣保  
印刷・製本：野崎印刷紙業  
仕様：28.0×22.5cm 200頁  
内容：「古代エジプトと神々の世界」オリビア・ツォーン  
「古代エジプトと古代日本の創世神話について」近藤二郎  
「ベルリン博物館島におけるエジプト博物館とパピルス・コレクションについて」リャオ・イーティーン（廖怡婷）  
プロローグ すべては海から始まった  
カイロ博物館とは 吉村作治
- 第1章 天地創造と神々の世界
- 1：天地創造 コラム1 ヘルモポリス創世神話とは
  - 2：オシリス神話
  - 3：神々の多様性 コラム2 人間の創造
- 第2章 ファラオと宇宙の秩序
- 1：王権とマアト
  - 2：庶民信仰
  - 3：太陽信仰
  - 4：アマルナ時代
- 第3章 死後の審判
- 1：死者の復活

- 2：死後の生活
- エピローグ オシリスの予言
- 古代エジプト王朝年表
- 古代エジプト地図
- 用語解説
- 古代エジプトの神々
- 出品リスト
- 主要参考文献

■出品目録

pp. 85-90を参照



▲チラシ

## 紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要を創刊し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。したがって研究テーマは主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に基づき、広く美術および美術館をとりまく諸問題まで取り扱う。成果品は、例年のように、全国の研究機関及び研究者に配布した。

第37号

■判型 29.7×21.0cm

■頁数 110ページ

■発行日 令和4年3月31日

■内容

□カラー□絵 3つ折り 計18ページ、2つ折り 計4ページ

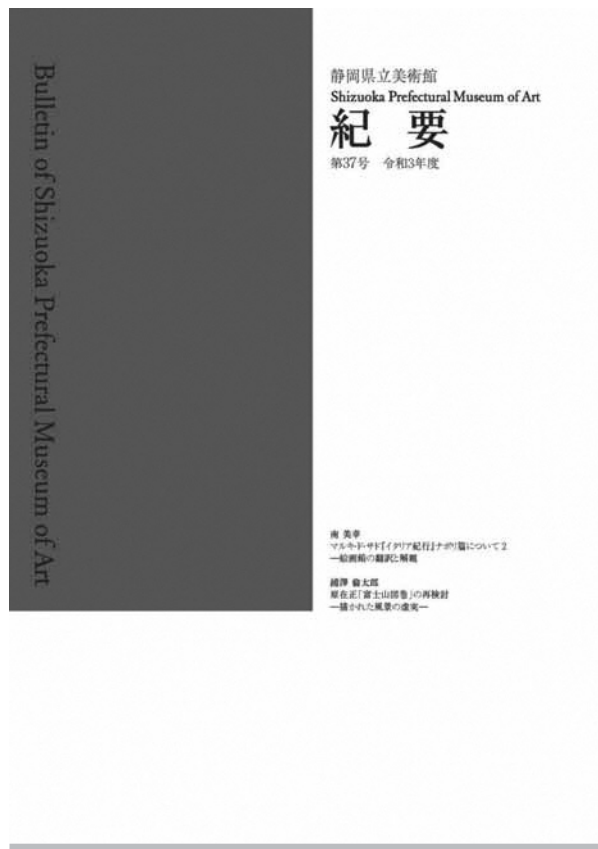
□論文

・南美幸

「マルキ・ド・サド『イタリア紀行』ナポリ篇について2—絵画館の翻訳と解題—

・浦澤倫太郎

「原在正「富士山図巻」の再検討—描かれた風景の虚実—



(表紙)

## 研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・書籍執筆・口頭発表等）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌・ニューズレターなどへの寄稿や、一般向け講演、館内研究会、図録の作品解説などは除いている。

### ■石上充代

- ・論文「研究ノート 木村武山《羽衣》における天女の図像について」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第143号、令和3年10月）

### ■南美幸

- ・論文「マルキ・ド・サド『イタリア紀行』ナポリ篇について 2—絵画館の翻訳と解題」（『静岡県立美術館紀要』第37号、令和4年3月）

### ■野田麻美

- ・論文「研究ノート 真贋論の行方—添帖のこと」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第141号、令和3年4月）
- ・論文「巨大組織・江戸狩野派の250年—奥絵師と表絵師に関する諸問題」（『忘れられた江戸絵画史の本流—江戸狩野派の250年』静岡県立美術館、令和3年5月）
- ・論文「江戸狩野派による模本と倣古図に関する一考察—狩野常信・栄信・養信ほか『唐絵手鑑』の分析を中心に」（『江戸狩野派の古典学習—その基盤と広がり』静岡県立美術館、令和3年5月）
- ・論文「狩野探信守道・狩野探淵守真ほか『摹宋元画冊頁』（ボストン美術館）について」（『美術史論叢』38号、東京大学美術史学研究室、令和4年3月）
- ・論文「江戸時代〈庭園画史〉序説—江戸・関西画壇における庭園画様式の成立と展開」（『研究論集19 近世庭園の研究—安土桃山・江戸時代—』奈良文化財研究所、令和4年3月）

### ■植松篤

- ・論文「研究ノート 白髪一雄《屋島》について」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第142号、令和3年7月）

### ■貴家映子

- ・口頭発表「東海圏の美術館におけるボナール作品—その多様性と研究の可能性について」（シンポジウム「日本の美術館とナビ派—地方美術館から考える研究の可能性」主催：一橋大学大学院言語社会研究科、令

和3年12月13日）

### ■浦澤倫太郎

- ・論文「研究ノート 温泉と絶景—熱海本陣・今井半太夫家と画家たちの交遊—」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第144号、令和4年1月）
- ・論文「原在正「富士山図巻」の再検討—描かれた風景の虚実—」（『静岡県立美術館紀要』37号、令和4年3月）

## 研究会

6月

キッチンとは何か 石子順造の「キッチン論」

川谷承子

本発表では、石子順造が1970年代に論じた「キッチン論」について考察し、その理論の意図を探るとともに、1977年に石子没後の文化状況下において「キッチン論」が提起した問いについて整理した。1980年代、欧米では「美術史の終焉」をめぐる複数の言説により、従来の美術の歴史考察のモデルの休止・開放が表明され、同時代の日本では「美術の制度論」をめぐる複数の著作が発表された。こうした1980年代の状況を踏まえて「キッチン論」の読み直しをはかるならば、1960年代に最先端の現代美術を批評する活動を通して後に石子が到達したキッチンとは、「近代の美術の制度から漏れ出たもの」であり、「芸術」「メディア」という発想ではとらえきれないものであったと定義することが出来る。石子の「キッチン論」とは、制度としての芸術に対する疑念を、1980年代に噴出した、美術史の終焉論、制度論に先駆けて提起したものであった。芸術に対するメタ批評であり、最終的には芸術の範疇に回収されたポップ・アートに対し、石子は「キッチン論」の先、俗信論などより生活の具体性に即した俗なる表現へと、知のベクトルを下降させていった。こうした石子の関心のあり様から、現在の芸術を論じる視点を獲得することができないか、その道筋を今後も探っていきたい。

7月

掛川藩御抱絵師・村松以弘の画業

浦澤倫太郎

掛川藩の御抱絵師・村松以弘（1772—1839）の画業を取り上げた。以弘は掛川生まれで月僊や谷文晁に絵を学んだと言われる。同じ遠州出身の福田半香や平井頼斎らに教え、遠州画壇の祖と位置づけられてきた。その一方で、後続の半香らに比較して、論じられる機会は限定的であった。

そこで本発表では、改めて以弘の画業を総体的に示すことを目標とした。まず現存作例にうかがわれる文晁との関係性や月僊からの影響を確認した。更に文献等も参照し、以弘の御抱絵師としての事績を振り返るとともに、以弘作品に着賛した石川依平、以弘が挿絵を提供した版本を執筆した中村乗高など地元の国学者との交流にも言及した。

広い画域を備えた以弘であるが、その中でも実景図を多いことは特筆に値する。特に全4巻33図からなる伊豆半島各地の風景を描いた画巻「伊豆沿海真景」（ニュー

ヨーク・パブリック・ライブラリー蔵）は、規模の大きさからも代表作の一つに目される。藩儒・松崎慊堂による序文と以弘自身の跋文により、同地の風景を見たいという藩主の意向を受け、伊豆に赴いて取材し、2年以上を経て完成させたことが判明する。

本発表後半では本作について、以弘の実景図制作の実態を示す重要作として注目した。各図を分析し、題材となった場所が伊豆半島南部の幕府直轄領に加え、西部の掛川藩領に集中していることを指摘した。そして、この画題選択には、制作を命じた藩主の意向や、領内の地誌の編纂が進められていた当時の掛川藩の機運が反映されていると推測した。

9月

ロダン館を中心とした照明環境改善について

新田建史

当館ロダン館は温湿度管理が難しく、自然光が流入する等、絵画作品等の展示に不向きである上、耐震対策を入念に施した彫刻作品は、展示替えが著しく困難である。このため、ロダン館活性化が謳われる際には、イベントの開催や、作家了解の上での現代美術作品の一時的な展示が中心となってきた。だが、上述の制限があっても、照明環境の改善であれば着手可能である。この前提に基づき、本館からブリッジギャラリー、ロダン館、ロダン館1階展示室へと至る動線上の輝度分布を調査し、分析したところ、輝度の落差が観覧者の視覚に対して大きな負担を掛けており、立体作品の認識、鑑賞に悪影響を与えていることが分かった。このことから、試験的にブリッジギャラリー照明方法を変更し、その結果を研究会席上で発表した。

10月

鍛冶橋狩野家における中国絵画学習の問題—狩野探信守道・探淵守真ほか《摹宋元画冊頁》（ボストン美術館）の考察

野田麻美

本発表では、近年ボストン美術館で見出された狩野探信守道・探淵守真ほか《摹宋元画冊頁》について紹介した。

本作は、江戸狩野派の鍛冶橋家7代目・8代目当主の狩野探信守道・探淵守真らによる中国絵画の模本を72図貼り込んだ大部な画帖であるため、本発表では、まず、模写した画家名、画題、原本の情報等を集約した全図の一覧表を作成し、それを基に、本作の基礎情報をまとめた。

次に、本作のなかで最も多くの図を描いた探信守道の模本について分析し、現状模写を試みている点や、原本が絹本でも紙本に写す図が大半である点など、探信守道の模写の技法について、いくつかの特色を指摘した。また、その技法が鍛冶橋家の画家に受け継がれていることを、探信守道の息子である探淵守真の図を中心に分析することで明らかにした。

そのうえで、探信守道と狩野栄信の模本の比較を行い、栄信の模本では復元模写が試みられており、絹本にメリハリのある筆墨表現、鮮やかな彩色を用いる点に特徴があること、山水画においては馬夏様式を強調するような筆墨、彩色表現を用いることなどの特徴を指摘した。

最後に、本作にみる鍛冶橋家における古典学習の意義を述べ、探信守道没後における鍛冶橋家の模本制作の展開や、明治から大正期における鍛冶橋家の画家の古典認識についても言及した。

11月

中村貞以《朧》について

石上充代

1934年、第21回院展に出品された標題作について考察し、「庭園画」として理解すべき作品であることを指摘した。

本作は、朧月に照らされた趣深い庭園を舞台として、椅子に腰かける若い女性を描いた二曲一双の屏風である。制作直後の作家自身の言葉によって、京都市八幡の松花堂庭園に取材したものであることが明らかになっている。昭和初期における茶人・松花堂昭乗の顕彰活動や、文化財として新たに価値づけられた庭園の整備・保護運動の盛り上がりを受け、当時、松花堂庭園は高く評価され、注目を集める存在であった。歴史的、文化的な背景を備えた名園を描くことが、本作の重要な意義であったと考えられる。それを証するように、庭園に配された女性は、月から身を隠すような位置に置かれ、ひっそりと樹木を眺めるようであり、画面内での存在感は抑えられている。「見られる人」でなく、庭園を「見る人」としての役割を果たしているといえよう。シックな着物に似合わない無骨な庭下駄も、女性が庭を見るためにここにいることをさりげなく示している。

風景を描くことはごく稀であった貞以にとって、朧月に浮かび上がる限定的な景物のみを描写する手法は、風景表現の際のひとつの工夫でもあったろう。美人画の名手として知られる貞以の作品ではあるが、「美人画」ではなく「庭園画」として捉え、分析していくことが、本作理解のためには不可欠であり、その点で貞以の画業に

おける異色作と位置付けられる。

1月

《ポッツォーリのセラピス神殿》について

南美幸

2021（令和3）年度に新規取得した作品に関する内容。ルイ・ジャン・デプレの素描に基づき、フランチェスコ・ピラネージが彫版、さらに手彩色が施された本作は、ナポリより少し西に位置する古代の港湾都市ポッツォーリに現存する、長らくセラピス神殿と誤認されてきたマケルム（古代ローマの市場および建物）の遺跡を主題とする。1783年、デプレとフランチェスコは「彩色された様々な風景のカタログ」と題した告知案内書において、本作やすでに刊行済みの作品を含む48点の手彩色版画の出版を宣伝した。本発表では、第一に、この告知案内書の内容を紹介するとともに、本作を含むシリーズの制作・刊行開始時期に関して推測した。第二に、現在の遺跡の様子や本作のエスキースと比較しながら、古代遺跡と当時の人物を巧みに組合せて当世風にアレンジした構成および優れた彩色技術が本作の特徴であり、それらはピラネージよりもデプレの持ち味である点を指摘した。最後に、二番目に指摘した特徴的な構成や彩色版画の利点（廉価で複数制作が可能かつ色彩を楽しめ、お土産として持ち運びが容易）を活かし、共同計画である本連作の販売戦略を練り主導したのは、出版者としての側面も併せ持つフランチェスコだったのではないかという仮説を述べた。

1月

天地耕作について

植松篤

浜松市を拠点に、1988年から2003年にかけて活動した美術グループ「天地耕作」（あまつちこうさく）について発表した。同グループは、浜松市出身の、村上誠（1954-）、村上渡（1958-）、山本裕司（1960-）の3名により結成され、主に野外において制作される大がかりなインスタレーションを発表した。本発表では、彼らの活動を概観するとともに、作品が提供するいくつかの問題圏について言及した。

彼らの自然物などを使った作品は、いわゆるアースワークと理解されることもある。一方で、作品は、私有地に設置され鑑賞者が限られている場合や、非公開のものがあり、鑑賞という観点からは独特であった。1991年からは造形物にパフォーマンスも伴うようになり、こちらも未公開のものがある。実見した鑑賞者が少ない一方、天地耕作は経過を伝える通信や記録集を発行し、その活動



の周知を行った。

当時の文脈を振り返ると、静岡における現代美術の歴史において、天地耕作の活動は、地域の芸術家達による活発な展覧会企画の環境から発芽したと言えるだろう。中でも、当館が写真やマケット等を所蔵する川俣正の《袋井駅前プロジェクト1988》への参加が、グループ結成の契機になったとも述懐されている。様々な企画に関わる中、当初ニューペインティングの動向の影響下にいた3名の作風は、自然素材を取り入れるようになり、天地耕作へと結実したのであった。

## 2月

### 静岡県立美術館実技室と他の都道府県立美術館の新型コロナウイルスまん延防止策とその後について

奥村祐喜

今年度実技室が実施したプログラムで新型コロナウイルスの感染を防ぐためにとった対策を、衛生面・密の回避・ICT等の活用・鑑賞の工夫・学校との連携・人的制限・中止や禁止・各プログラムのより安全性の確保等のジャンルに分け、それらの内容を説明しながらその対応策の数を図化した。

また、「令和3年度 都道府県立美術館副館長等事務責任者会議 研究協議資料」から他の都道府県立美術館がどのような対策をとっており、アフターコロナの中でこれからどのような対策をとろうとしているのかを項目に分け、こちらも数量を図化することでその対策を検証した。

それらを比較すると、コロナ感染防止のために同じような視点やジャンルで対応していた。ただし、その方法やアイデアは多岐にわたっていることも伺えた。

その中でも、衛生対策や人的制限、密の回避などの対策は共通して多かった。また、今後のウィズコロナ・アフターコロナ対策では、ICTを活用して来館しなくても講座やワークショップを行えるようにしたり、動画制作に関心を寄せたりしている美術館が多く見られた。

これらからこれまでの実践を基に、今後の美術館が目指す方向性をより明確にしていくことで、コロナの収束後でも、どの対応策を残したり、変化させたりするべきか検討しやすくなると考えた。

## 3月

### ケル=グザヴィエ・ルーセル作版画集『風景』について 貴家映子

19世紀末フランスの前衛芸術家グループ・ナビ派の一員であるケル=グザヴィエ・ルーセルの版画集『風景』

を取り上げた。本作は、画商ヴォラールによりナビ派の画家たちに注文され、12点組100部限定出版で計画された一連の多色刷リトグラフ集に位置づけられる。先に刊行されたドニ、ヴェイヤール、ボナールの版画集の売れ行きが芳しくなく、6点のみ（のちに追加で1点）が100部印刷され、残りの5点については1～3点の試し刷りのみが確認されている。

まず、先行研究ならびに作品の実見調査をふまえて各画面の特徴を明らかにした。転写紙を用いて再現したとされるパステル画風の質感に加えて、思い通りの彩色効果をねらって、地を描画することで図を浮かび上がらせる、あるいは、石板表面に傷をつけて質感を表すといった手法が観察できた。このことは、ルーセルが、リトグラフという媒体が課す制限のなかで独自の表現を模索していた可能性を示唆しており、今後は、版画技法を実際に検証することや、同時代史料から作者の版画学習の実態を明らかにすることから考察を深めたい。

また、表現方法や主題の点で一定の統一が見られる他のナビ派作例と比較することで、本版画集が未完に終わった要因として作者自身の葛藤があった可能性にも触れた。こうした特徴を積極的に評価していくためにも、晩年のリトグラフ作品や、同時代の風景版画集との比較に基づく、さらなる検証が課題である。

## 各種資料整理

### ■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル
- (2) 館藏品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館藏品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

市販のデータベースソフト「桐」を使用していたが、今年度にデジタルアーカイブを創設したことに伴い、いずれもI. B. Museum SaaSへ移行させた。詳細は「デジタルアーカイブによる情報発信」(p.66) 参照のこと。

### ■館藏品等のフィルム・デジタル画像作成整理

#### (1) 館藏品のフィルム

新収藏品については、美術品写真の専門家による写真撮影を、年度内にまとめて行なっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジフィルムを写真原板として、受入番号順にフォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。また必要に応じてフィルムスキャナーを用いてデジタル化も行っている。

#### (2) 館藏品のデジタル画像

ポジフィルムと並行してデジタル画像も撮影している。データは課内で共有され、研究、各種刊行物・広報物の作成、講演会や研究会等に活用されている。

#### (3) その他

館藏品の他、寄託品などについても、様々な形で撮影され、個別に整理されている。

### ■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料（美術館宛の個展案内状など）については、ボランティアの資料整理グループが整理を行なっている。これらは作家ごとに分類・保存され学芸員の研究などに活用されている。

今年度はこれまで入力されてきたデータをI. B. Museum SaaSに移行させた。詳細は「デジタルアーカイブによる情報発信」(p.66) 参照のこと。

### ■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、企画展毎に整理収納されている。

### ■コンピューターによる各種データ管理

これまで、館藏品や図書などのデータベース管理には、

## 博物館実習

開館当初より、当館は博物館実習の場と機会を提供してきた。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、様々な面で従来の実習のあり方を変更したが、本年度も受け入れ条件や実施期間および実施内容等について、同様の影響を被った。

まず実習生の受入条件については、下記のとおりとし、3大学4名の学生を受け入れた。

- (1) 県内出身もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学・美術史学、または美術教育・制作、アートマネジメント等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けられること。
- (4) オンラインによるリモート実習となっても差し支えないこと、またその際の不足分については大学側で補完の用意があること。

実施期間は、当初8月9日（月・振替休日）から13日（金）までの5日間を予定したが、12日（木）までの4日間に短縮した。

実習方法については、本年度も来館による対面実習とオンラインによるリモート実習を準備したが、結果としてリモートによる実習のみとし、対面でなければ実施できない内容についてはやむを得ず割愛し、不足する実習時間および内容については大学における補完を求めた。

カリキュラムは、例年どおり当館の学芸課および総務課職員による講義・見学・実習を計画していたが、リモートによる開催となったため、施設見学、作品の取り扱いや実技室プログラムの補助体験などの実習は割愛し、講義のみを行なった。このほか、「社会における美術館の役割」というテーマで、大学における博物館学の授業や、美術館を訪れた個人的経験等にもとづき、社会における美術館の役割に関する考察を踏まえ、美術館が社会に支持されるためにはどうあるべきかを述べる、実習前のレポート提出と発表および同様のテーマでの実習後のレポート提出を条件とした。

実習自体は時間・内容ともに短縮せざるを得なかったものの、当館での博物館実習を通して、各学生が美術館活動について理解を進め、その役割について様々な考察の機会を得たことをうかがうことができたと思われ、博物館実習の意義が確認できた。

### ■カリキュラム

- 1時限目 9：30～10：25
- 2時限目 10：30～11：25
- 3時限目 11：30～12：25
- 4時限目 13：30～14：25

8月9日（月・振替休日）

- 1～2時限 オリエンテーション  
【演習】課題発表（村上）
- 3時限 【講義】美術館の災害対策（新田）

8月10日（火）

- 1時限 【講義】県立美術館の概要（泰井）
- 2時限 【講義】保存、IPMの基礎（新田）
- 3時限 【講義】展覧会のできるまで（村上）
- 4時限 【講義】収蔵品企画展「ストーリーズ」とコレクションの活用（川谷）

8月11日（水）

- 1時限 【講義】文化施設の行政評価（泰井）
- 2時限 【講義】美術館におけるデジタルアーカイブと情報公開（浦澤）
- 3時限 【講義】美術館の広報について（川谷）

8月12日（木）

- 1時限 【講義】学校教育と美術館（奥村）
- 2時限 【講義】当館のボランティア活動（植松）
- 3時限 【実習】めぐりアート静岡 近隣施設との連携の事例（植松）

※（ ）内は当館担当者名

## ギャラリーツアー

ギャラリーツアーは、ギャラリーツアーグループに所属する当館ボランティア1名がナビゲーター役を務めて、収蔵品展とロダン館の作品を、参加者とともに対話形式で約30分間鑑賞する活動である。

開館年から平成21年度まで行われてきた「ギャラリートーク」のスタイルを改変して、平成22年度より実施してきた。

平成30年度にボランティア再募集を行い15名で活動を開始した。令和4年3月31日時点で13名が在籍している。前期から継続しているメンバーもいる一方で、新たに参加したメンバーが約半数を占める。

ツアーを行うほかに、2カ月に一度、定例会と勉強会を開催し、ナビゲーション技術の向上を目指している。

令和3年度はコロナウイルス感染症対策のため、ツアーはすべて取りやめとなった。定例会と勉強会は5月、6月、7月に行ったが、8月以降3月までは、コロナウイルス感染者数増加に伴い中止した。

### (1) 「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えるとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

### (2) ギャラリーツアー班の役割

収蔵品展、ロダン館のギャラリーツアーのガイドを行う。一方的に作品を解説する従来のギャラリートークのスタイルから、双方向的に対話しながら鑑賞するスタイルへ変更。作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

### (3) ギャラリーツアー登録ボランティア

13名（令和4年3月31日現在）

### (4) 実施日および研修日

実施日

毎月第1土曜日（13：30～、14：30～）

毎月第3土曜日（13：30～、14：30～）

※休館期間は除く。館内の別のイベントと重なる際は休止となる場合がある。

研修日

原則、企画展開幕後の最初の休館日に、ミュージスタッフらと合同で収蔵品展について研修を行っている。ギャラリーツアー班個別では、2カ月に一度、活動日

にあわせ定例会と勉強会を実施している。定例会では日々の活動や今後の活動計画について話し合い、司会や書記は各メンバーによる輪番制である。勉強会も輪番制で1年に1度、各自担当し、ツアーの模擬練習などを行っている。

### (5) ギャラリーツアー本番までの流れ

- ①ツアーで取り上げる作品について、文献等で各自自主学習を行う。
- ②学芸員による研修会に参加。また実作品を前に、ボランティア同士でディスカッションや予行演習を行う（勉強会）。
- ③本番ツアー。ナビゲーター役1名の他、補助に1名つき、参加者の誘導などを行う。終了後は、活動日誌に記入。

### (6) 令和3年度 ギャラリーツアー実施実績

新型コロナウイルス感染症対策のため、実施せず。

## 実技・鑑賞講座

### ■ちよこっと体験講座

平成22年度に試験的に行ったイベントを平成23年度から実施し、来館の方が気軽に参加できるようにエントランスまたはレストラン前の通路にて、申し込み不要・参加費無料・約15分の創作体験を行っている。

土曜日と日曜日を含む5日間を基本とし、本年度は2回計画した。5月は所蔵作品の展覧会と絡め、ロダン彫刻「考える人」をお湯で柔らかくなるプラスチック粘土で制作する体験を実施した。その際新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自作のシールドを机に設置し、制作後の机・椅子等の消毒した。

また、次回の展覧会のチラシや実技室の各講座の募集チラシを配布することで、実技室の活動や展覧会に興味をもっていただく工夫をした。

8月には、同じく展覧会に絡めたスクラッチ体験を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止した。かわりに、来館された方がご家庭で制作を行えるよう、材料と説明書を無料で配布した。

実施日	内容	人数
5月1日～5日	ミニ考える人づくり (お湯で柔らかくなる粘土で考える人を制作 無料)	383
年間5日間実施		383



### ■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う、②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることをめざし、展覧会にできるだけ合わせられるように関連づけて実施している。

今年度は2回計画した。6月は静岡県出身の日本画家の鈴木強氏を講師に招き、開催中の展覧会と絡めた講

座を行った。参加者は展覧会鑑賞と学芸員による解説を受けた後、動植物や風景画が描かれた出品作品の模写や、日本画の金箔貼りや砂子蒔きを用いた制作などを行った。

コロナ対策としては、参加者を8名に限定し、道具等の共有を無くすなどの工夫で対応した。

一方で、8月に予定していたローラーを使った講座は感染症拡大により中止となった。

実施日	内容 <インストラクター>	人数
6月12日 6月13日	倣古図に学ぶ～模写・金箔貼り講座～ <鈴木強氏（日本画家）>	8
年間2日間実施		8



### ■創作週間

創作週間は高校生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動にそれぞれ取り組んだりしていた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画については、曜日固定でインストラクターを配し、利用者への指導、相談、助言をお願いした。4月には、「創作週間スペシャル」と題し、デッサンの基礎として道具の使い方や姿勢などの習得を目的としたワークショップを、講師に田村明彦氏を迎え、実施した。しかし、8月の創作週間は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止を余儀なくされた。

開室日数：21日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下文氏（日本画家）、藤田泉氏  
（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）、  
田村明彦氏（アステール総合美術研  
究所）

利用者数：171名



#### ■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、創作週間を行う週に毎月2日間、金・土曜日に実施している。

参加者は継続して参加されている方が多い中、新たな参加者や個人的に参加する学生たちの姿も見受けられた。

今年度は9月から全館休館のため4月から8月までの実施予定であったが、8月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止を余儀なくされた。

実施日数：8日

実施時間：10：00～16：30

参加者数：182名



## 実技・体験

### ■ねんど開放日

ねんど開放日は、実技室内で1 t 近い水粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらう平成13年度から続くプログラムである。

3歳以上の親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、自由な創作を楽しんでもらうことに重点をおいている。

昨年度からふじのくに電子申請サービスを利用した事前申込制とし、応募多数の場合は抽選制で結果をメールで返送する形をとっているため、当日の混雑はない。また、SNSやホームページで申込開始・終了時間も事前周知した結果、リピーターの増加傾向とともに、応募件数が飛躍的に上がり、1日最大16組の参加数に対し、90組を超える応募件数になることもあった。

昨年度から猛威を振っている新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実技室を9つのエリアに仕切り、中央を粘土置き場にして参加者が1か所に集中しないようにした。

創作場所は粘土置き場周りの8か所で、1区画に1組最大5名、1回の参加者数を最大40名とし、密を避けるために定員を半分にしている。また1日2回（午前1回、午後1回）に減らし、粘土で汚れた手足を洗うための移動の動線を一方通行に制限することや、集団で洗っていたらいをその組ごと専用のタライに分けるなどの対策を講じていったため、インストラクター、助手、ボランティアの協力がさらに欠かせないものとなっている。

実施に関しては前週に県から発令される警戒レベルによって開催の可否を決めていった結果、今年度計画していた5日中、2日の実施となった。

実施日数：2日（1日2回で4回実施）

実施時間：午前の部 10：00～11：45

午後の部 13：00～14：45

インストラクター：増田洋子氏（美術作家）

場 所：当館実技室

参加者数：91名



### ■えのぐ開放日

えのぐ開放日は、3歳以上の親子で自由に楽しく絵を描いてもらう平成17年度から始まったプログラムで、基本は屋外で行い、高温・雨天時は室内で行う。

ねんど開放日と同様、ふじのくに電子申請サービスを活用し、周知した結果、応募件数が飛躍的に上った。

またねんど開放日と同様、より広々としたスペースで楽しんでもらうことや、安全面等を考え、40名程度の定員に限定して計画していたが、新型コロナウイルス感染症まん延のため今年度は実施することはなかった。

実施日数：0日

実施時間（予定）：午前の部 10：30～12：00

午後の部 13：45～15：15

インストラクター：増田洋子氏（美術作家）

### ■わくわくアトリエ

わくわくアトリエは、平成26年度から始まった「いろんな素材をかたちに！」をテーマとした大人から小学生を対象としたプログラムである。

今年度は、版画家が実物投影機を利用して実演する紙版画、屏風の構造を作るところから始めるミニ屏風づくり、インストラクターがリモートによって自宅から実技室の参加者へ制作の指導・講評を行った切り絵といった、その時々の実技室の状況下で最も効果的な視覚的アプローチや、できるだけわかりやすい制作プロセスの解説を心掛けた。また新型コロナウイルス感染症対策として、一人につき一台の作業台に限定（小学3年生以下は保護者同席可）や制作道具の共有を無くし、鑑賞時間も密にならずに全体を鑑賞できるようにしたことで、さまざまな素材を用いて制作する面白さを発見できることに加え、安心して体験できるプログラムとなるよう心掛けた。

インストラクターに、さまざまな講師を招き、企画展

と関連づけた内容にした。参加者は先に企画展を観覧し、今回のプログラムとのつながりを理解してもらったうえで制作をめざした。

実施日数：3日

実施時間：10：15～15：50の間で1回開催

場 所：当館実技室

参加者数：計36名

実施日	内 容 ＜インストラクター＞	人数
4月24日	切って・貼って・描いて！版画を 摺ってみよう ＜藤田泉氏（版画家・当館インス トラクター）＞	12
5月23日	紙工作ミニ屏風づくり ＜おおいしももこ氏（イラストレー ター）＞	12
7月25日	切り絵でデザイン〇〇神！ ＜福井利佐氏（切り絵作家）＞	12
年間3日（計3回実施）		36





## 学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムである。実技や鑑賞、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、学芸員やエデュケーショナルスタッフがお手伝いするものである。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、年度当初より「美術館の秘密を探れ!」「ボランティアスタッフとの鑑賞」の実施計画はなかった。

### ■ねんど教室

幼児、児童、生徒を対象に、水粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へ、個人制作から共同制作へと繋げていく造形遊びの考え方を取り入れたプログラムである。インストラクターが中心となって進める。

今年度も多数の応募があり、4月当初は計画通り抽選を行ったが、新型コロナウイルス感染症が拡大したため、実施日の前の週の金曜日に県から発表される警戒レベルが5を超えた時には中止とした。

実施したときには新型コロナウイルス感染症対策として、

- ・1日1回1団体（午前のみ）に限定する。
- ・ねんど回収時に密にならないようにし、雑巾がけは一方方向で向かい合わせにならないようにする。
- ・定員削減（70名→35名）
- ・道具の共有をしない。
- ・接触を伴うプログラムは実施しない。

などの対策を講じて実施した。また、プログラム終了後に美術館とこのプログラムのつながりを持たせるため、ロダン館へ向かい、ロダン彫刻を鑑賞して終了とした。

インストラクター：細澤詩織氏、品川綾香氏

場 所：当館実技室

参加者数：85名

月日	団体名	人数
7月1日	静岡市立大里東小学校	30
7月2日	あゆみ第2こども園	31
7月8日	静岡市立小河内こども園	8
7月9日	MEKイングリッシュ・プリスクール	16
年間日数	合計人数	85
4日	団体数	4



### ■えのぐ教室

幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に行い、学年が上がるにつれて少しずつ難易度を上げていくが、どの年齢に対しても、全身を使い、楽しく描くことを重視しているプログラムである。天候が良ければ屋外テラスで行うこともあったが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべて中止を余儀なくされた。

### ■音のかけらワークショップ

当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

現代アート鑑賞のための重要なコンテンツではあるが、ワークショップ実施のために、プログラム実施に実技室以外での場所と準備時間が必要となること、プログラム自体のユニバーサルデザイン化、作者の制作意図とプログラムとの整合性など、今後の利用について再検討が必要である。

今年度は、特別支援学校1校から申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止の申出があり、行われなかった。

### ■ロダン館ななふしぎ

ロダン館の彫刻作品を楽しみながら鑑賞するプログラムである。7枚のカードに書かれたクイズを解き、回答後新型コロナウイルス感染症拡大防止で密を避けるため、別室で実技室担当者が作品解説をしながら答え合わせをしていく。

答え合わせ時の解説では、鑄造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。

月日	団体名 学年	人数
7月13日	静岡市立清沢小学校	7
年間日数	合計人数	7
1日	団体数	1



### ■美術館の秘密をさぐれ！

美術館を誰もが楽しく鑑賞できる展示の工夫や作品保護などについて、当館スタッフがナビゲーターとなり館内を案内するプログラムである。普段は見るができない美術館の裏側や施設の特徴や工夫を紹介しながら、美術館が多くの人によって支えられていることに気づくことができる内容である。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初から中止とした。

### ■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象とした、ロダン館彫刻作品のスケッチ・デッサン・クロッキープログラム。描く行為によって、通常の観覧以上に細部に眼を向けることとなり、より深い鑑賞体験となる鑑賞プログラムである。

月日	団体名	人数
6月5日	静岡市立清水第七中学校美術部	17
6月26日	静岡市立清水第七中学校美術部	34
7月13日	静岡市立清沢小学校	6
7月29日	静岡市立清水第七中学校美術部	14
12月8日	静岡県立浜松江之島高等学校	20
年間日数	合計人数	91
5日	団体数	5



### ■ボランティアスタッフとの鑑賞

学校向けギャラリーツアープログラム。

当館の教育普及活動は、美術館の作品を生かした鑑賞系プログラムの充実に力を入れている。その一環として、来館1ヶ月前までに学校からの依頼に応じて、当館ボランティア（学校グループ）に連絡を取り、都合のつくボランティアに鑑賞の手伝いをお願いしている。

「ロダン館ななふしぎ」「美術館の秘密をさぐれ」等のプログラムと「ボランティアスタッフとの鑑賞」プログラムを併用実施することも多い。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため年度当初から中止となったが、ボランティアの皆様には内覧会に出席していただき、展覧会内容の周知に協力いただくとともに、今後には備え美術作品の見識を深めていただいた。

### ■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れるプログラム。また、当館主催の夏期研修会、県内各地区の図工美術科教員の研究会に参加し、講師を務めている。（令和3年度中止）

### ■出張美術講座

美術館職員が学校に出向き、美術館の概要や企画展、収蔵品展、ロダン館の紹介やレプリカ教材（屏風、掛軸、西洋画、考える人等）を使って鑑賞授業を行ったり、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行い、その中で鑑賞のマナーやレプリカを通して作品の見どころ解説なども行った。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現地に赴かず、リモートによって本来修学旅行で行

く予定であった施設等の説明や映像で紹介する講座も行った。

月日	団体名	人数
9月8日	不二聖心女学院高等部（リモート）	70
11月11日	静岡県立静岡南部特別支援学校	6
12月1日	静岡市立富士見小学校	89
1月13日	静岡県立清水南高等学校	20
年間日数	合計人数	185
4日	団体数	4

### ■粘土・レプリカ・当館資料の貸出、授業協力

児童・生徒を引率して当館主催のねんど教室に参加するのは、授業時間数や距離・費用等で難しいが、自校で同様の造形遊び体験を実践したいという教員のために、粘土貸出を行っている。

また、学校の図画工作科・美術科の鑑賞分野の教材として使用できるように、当館の収蔵品を用いたレプリカ等の教材貸出、当館で制作したブロンズ彫刻の鋳造工程を解説したVTRなどの資料貸出、鑑賞授業の内容相談などの協力を行っている。

貸出日	粘土貸出 団体名	人数
5月25日	焼津市立大井川西小学校	25
7月2日	藤枝市立西益津小学校	100
7月16日	静岡サレジオ幼稚園	58
7月23日	十七夜山浜川保育園	14
10月6日	エンゼル幼稚園	290
11月11日	静岡県立静岡南部特別支援学校	30
1月6日	藤枝市立藤枝小学校	17



貸出日	レプリカ等貸出 団体名	人数
4月18日	静岡県立御殿場特別支援学校	44
7月3日	静岡県立藤枝特別支援学校	32
7月9日	富士市立鷹岡小学校	206
9月23日	静岡県立藤枝特別支援学校	16
10月31日	埼玉県行田市立忍中学校	200
12月11日	静岡県立御殿場特別支援学校	34
1月12日	静岡県立富士特別支援学校	17
2月2日	静岡市立清水第七中学校	222



### ■アートカード貸出

平成27年度より、当館収蔵作品48作品をカードにしたアートカードの貸出を開始した。当館に団体観覧を計画している学校の事前学習や、学校の図画工作科・美術科での鑑賞能力トレーニング題材としてなど、目的や対象に応じて、様々な形態で楽しみながら美術作品に対する興味関心を高められるツールとなっている。

アートカード貸出開始前の平成26年度から教員研修等で実演や紹介をし、図工・美術科教員の研究授業や実践発表の題材として扱われることも出てきたので、学校現場への認知が浸透して利用数が年々増加している。

貸出日	団体名	人数
7月3日	静岡県立藤枝特別支援学校	32
7月15日	静岡県立清水南高等学校芸術科	20
12月9日	静岡県立藤枝特別支援学校	20
2月13日	静岡女子高等学校	45



## 講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数制限を行う等の対策をとり実施した。

### ■特別講演会

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
4月11日	ストーリーズ展 特別講演会「名品を手にいれる 静岡県立美術館所蔵 草間彌生《無題(No.White A.Z.)》を中心に」	石坂泰章氏（サザビーズジャパン代表取締役会長兼社長）	講堂	55人
5月30日	忘れられた江戸絵画史の本流展 特別講演会「江戸時代絵画の底流—江戸狩野の復権」	並木誠士氏(京都工芸繊維大学特定教授・美術工芸資料館館長)	講堂	46人
7月10日	古代エジプト展 特別講演会「古代エジプト人の思想と宗教：信仰と死生観」	近藤次郎氏（早稲田大学文学学術院教授・早稲田大学エジプト学研究所所長、展覧会監修者）	講堂	65人
11月20日	移動美術展（浜松市美術館） 講演会「風景と人間、それとも人間の風景か」	木下直之（当館館長）	浜松市美術館 講座室	30人

## 美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、展覧会に関わった外部講師、当館館長および学芸員による講座を開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数制限を行う等の対策をとり、実施した。

### ■美術講座

開催日	演題	講師	場所	参加者数
4月29日	ストーリーズ展 美術講座「石田徹也の作品は海外でどのように紹介されたか」	川谷承子（当館上席学芸員）	講座室	25人
5月2日	ストーリーズ展 美術講座「和田英作と曾宮一念 二つの絶筆」	泰井良（当館上席学芸員）	講座室	25人
5月8日	ストーリーズ展 美術講座「野島青茲《塑像》—3人の作家をめぐる物語」	石上充代（当館学芸課長）	講座室	25人
5月9日	ストーリーズ展 館長美術講座「作品について <sup>わたし</sup> 館長が知っていること」	木下直之（当館館長）	講堂	90人
6月6日	忘れられた江戸絵画史の本流展 館長美術講座「江戸絵画の表と奥について」	木下直之	講堂	47人
6月13日	忘れられた江戸絵画史の本流展 美術講座「巨大組織・江戸狩野派の厚みと広がり—その魅力の深層に迫る」	野田麻美（当館上席学芸員）	講堂	55人
8月1日	古代エジプト展 館長美術講座「古代エジプトの肖像をめぐる物語」	木下直之	講堂	67人
8月7日	古代エジプト展 学芸員スライドトーク ※講座室から講堂に変更	新田建史（当館上席学芸員）	講堂	53人
8月14日	古代エジプト展 学芸員スライドトーク ※講座室から講堂に変更	新田建史	講堂	38人

### ■フロア・レクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について当館学芸員が解説した。

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
5月29日	企画展 忘れられた江戸絵画史の本流	野田麻美（当館上席学芸員）	展示室	18人
6月26日	企画展 忘れられた江戸絵画史の本流	野田麻美	展示室	20人

## 対外活動

### ■講座等

南美幸：「『古代』を描く—18世紀南イタリアを中心に」  
(美術史(西洋)Ⅱ 特別講義)

【静岡文化芸術大学】1月20日

川谷承子：「柳澤紀子 for coming 関ヶ原」展対談

【せきがはら人間村生活美術館】5月22日

「川邊耕一展Floating ー森・種ー」オープニングトーク

【Hirano Art Gallery】12月11日

出張美術講座

【静岡県立清水南高等学校】1月18日

野田麻美：「忘れられた江戸絵画史の本流—江戸狩野派について」(地域創造演習ⅡA)

「県立美術館の仕事—忘れられた江戸絵画史の本流展について」(地域文学文化基礎論Ⅰ)

【静岡大学】5月25日

「江戸狩野派概論」(芸術学研究Ⅰ・Ⅱ)

「江戸狩野派による雪舟受容を巡る問題について」(芸術学研究Ⅰ・Ⅱ)

「倣古図／模本研究の方法と実践—江戸狩野派を事例として」(芸術学研究Ⅰ・Ⅱ)

「日本美術の展覧会企画について—地方県立美術館の学芸員の仕事」(芸術理論)

【広島市立大学】10月28日、29日

植松篤：公開講座シンポジウム「ミュージアムは誰とつながるのか—過去・現在・未来—コレクションの地域社会における意義を考える—」

【静岡文化芸術大学】11月14日

貴家映子：出張美術講座

【不二聖心女子学院高等学校】9月8日(オンライン授業)

浦澤倫太郎：「小杉文庫について」(地域の人と文字文化)

【静岡大学】7月5日、12日

出張美術講座

【静岡市立富士見小学校】12月1日

### ■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のもとに以下の事業を行った。

1 役員会・総会のオンライン審議および書面決議  
令和3年5月17日(月)～28日(金)

2 研修会・講習会の実施

「突撃! とんりのミュージアム@沼津市明治資料館」

日時：令和4年1月26日(水)

会場：沼津市明治資料館

内容：協会事業を加盟館園から発案出来る体制を目指し、県内学芸員の情報共有を進めるための相互インタビューの試み。

「博物館の動画制作」

日時：令和4年2月22日(火) 13:30～16:00

会場：静岡県立美術館

内容：新型コロナウイルス感染症の流行に伴う社会情勢の変化によって、博物館園でも様々な情報発信の仕方が求められるようになっており、収蔵品の解説や展覧会の紹介を行なう動画の配信は、多くの館が取り入れ、博物館が行う普及事業の一つとして定着しつつある。一方で、予算や人員が限られる中、費用やマンパワーに見合うだけの閲覧数を確保する、効果的かつ効率的な動画制作のノウハウを確立するのは容易ではない。本講習会では、興味深い動画を数多く配信し、多くの閲覧数を獲得している館園等から、企画の立て方や具体的な制作方法を学んだ。

「なぶんけんチャンネルの動画制作について」

講師：馬場基氏・垣中健志氏(独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所)

「水族館における動画制作と配信」

講師：大竹純也氏(浜名湖体験学習施設ウォット)

3 地域セミナーの開催

・三島市郷土資料館「三島市郷土資料館ふるさと講座「地域の文化財めぐり」」

・裾野市立富士山資料館「富士山ネットワーク推進委員会加盟園連携・広報活動事業「ぐるりんコンテスト」入選作品集・カレンダーの作成及び配布」

・公益財団法人佐野美術館「宮西達也先生 来館記念イベント」

・ベルナル・ビュフェ美術館「手で見るビュフェ」

・月光天文台「第25回 宇宙と天文の講演会 微生物研究者になった天文少年」

4 静岡県博物館協会研究紀要 第45号の刊行

5 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営、リニューアル

6 防災事業の実施

- ・加盟館園目録等データバックアップ事業：平成27年  
3月から継続
  - ・災害時連絡網稼働
  - ・防災用資材配備
- 7 広報及び情報交換  
随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。
- 8 事業推進グループによる事業の推進
- ・事業推進グループ会合 2回開催  
令和3年7月21日（水）、令和4年2月22日（火）

■その他

石上充代：ふじのくに芸術祭 企画委員会委員、美術部  
門美術展審査員  
ふじのくに子ども芸術大学実行委員会委員

村上敬：静岡市立芹沢銈介美術館協議会委員

川谷承子：浜松市美術館美術資料審査委員

奥村祐喜：静岡県消防設備協会防火ポスター審査会

## ロダン館展示・イベント

### 1. ロダン館コンサートに係るCD・動画の制作

#### ■趣旨

平成26年度、ロダン館開設20周年を一層活性化させるためのキックオフ事業として、地域や大学等と連携した「ロダンウィーク」事業を開催した。ロダン作品32体を擁し、国内唯一の常設展示を行う当館の活性化と賑わい作りを目的にした「ロダンウィーク」は、例年事業として定着しつつある。

令和3年度は工事期間中のため、「ロダンウィーク」は開催しなかった。しかし、毎年ロダン館で行ってきたコンサートにおいて、ロダン彫刻にインスピレーションを受けて生まれた長谷川慶岳氏作曲の音楽作品群をCDに録音するとともにロダン館の映像を組み合わせたいとの提案が、演奏者である静岡大学非常勤講師後藤友香理氏よりあり、ロダン館において撮影、録音を実施した。

#### ■概要

- (1) 撮影日時 令和3年9月7日(火)  
録音日時 令和4年3月15日(火)、16日(水)
- (2) 場 所 ロダン館

#### 曲目

Hommage à Debussy (ピアノ、フルート)  
壺をもつキャリアティード  
エピローグ  
地獄の門の前に立つ (ピアノ、朗読)  
ソナチネ  
バラの髪飾りの少女  
題名のない2つの絵  
プロローグ

#### 演奏

後藤友香理 (ピアノ)  
古川はるな (フルート)  
宮城嶋遥加 (朗読)  
長谷川慶岳 (作曲)

今回撮影、録音された素材をもとに制作される動画が一般に公開されることで、コンサート以外の場でも継続的にこれらの楽曲を鑑賞できるようになった。また、12月に行われた後藤氏の演奏会において、会場内のスクリーンにロダン作品の映像を映し出して曲目解説に使用され、音楽を通じた彫刻作品の普及につながった。



▲録音の様子

### 2. 静岡デザイン専門学校ファッションデザイン科による卒業制作

#### ■趣旨

静岡デザイン専門学校ファッションデザイン科の卒業制作の映像撮影を、ロダン館で行った。

#### ■概要

- (1) 撮影日時 令和4年1月18日(火)
- (2) 場 所 ロダン館

ファッションデザイン科3年(10名)がデザイン制作したオリジナル衣装18体を学生モデルが着装し、ウォーキング風景ほか、静止で作品のディテールなどを撮影した。

制作された映像が卒業制作発表会で上映されるとともに、同校のホームページに掲載され、ロダン館のPRにつながっている。





▲撮影の様子

## 美術館ボランティア・広報サポーター

### ■美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の昭和60年から募集と研修を始め、昭和61年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との懸け橋となるべく活動を続けている。平成21年には組織改革と再募集を行い（「静岡県立美術館年報 平成21年度」p.82～84を参照）、平成22年4月からは、3年の任期制を導入したうえで新体制により再始動した。

本年度は、平成31（令和元）年度から始まる任期の3年目に当たり、年度当初は計132名が登録されていた。新型コロナウイルス感染症の状況は収束せず、前年度に引き続き、学校グループ、ギャラリーツアーグループ、タッチツアーグループの活動は休止となった。それ以外のグループについては、感染対策を講じながら可能な範囲で活動した。活動休止を受け、代替活動として図書閲覧室グループへの他グループからの参加を受けつけ、「SNS広報」という活動を新規に立ち上げ、希望者にご活動いただいた。

また、本来であれば、本年度が任期の最終年度となり、ボランティアを再募集するところであるが、先行きの見えない状況であり、また、ボランティアにご希望の活動をしていただけてないことを鑑み、特例として、希望者は任期を1年延長できることとした。結果として、令和4年度の活動には102名の方々のご希望があった。

その他、ボランティア総会を8月22日に予定し、準備をしていたが、感染状況悪化のため中止となった。

#### ・活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として活動する。そのために次の3つを活動方針として定めている。

- (1) 来館者サービス充実
- (2) 美術館運営支援
- (3) 地域連携推進

#### ・活動内容、グループ

##### (1) 全ボランティア共通の活動

当館ボランティアは、それぞれが属する地域、家庭、職場などにおいて、当館の情報を提供することにより、美術館の広報活動の一翼を担うとともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たしている。この活動を促進するために、当館では、企画展ごとにその内容を、いち早く知ってもらうためのボランティア向け内覧会を開催している。これは原則として各会期の最初の休館日に、展示室において担当学芸員が展覧会概要や作品解説を行う

ものであった。本年度は、講堂で概要を説明した後、自由観覧とする方式にて実施した。

##### (2) 各グループの活動

現在7つのグループに分かれて活動している。図書閲覧室グループのみ、他グループとの兼任を可としている。

##### ①図書閲覧室グループ 43名

図書閲覧室御受付が主な活動。閲覧室において利用者の請求に応じて閉架図書の出納業務を行う。また、開催中の企画展に合わせて、関連図書コーナーを閲覧室内に設置している。工事休館中は、書庫整理や書籍の所在確認、データ入力などを行った。代替活動として他グループから希望のあった人数は、6名であった。

##### ②学校グループ 26名

学校などの団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもたち話し相手などを行う。子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見方を引き出す。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止

##### ③実技室グループ 16名

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室イベントは、絵画のワークショップやねんど開放日など多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業等、労務が多い。そのため、ボランティアのマンパワーが大変有益となっている。

##### ④ギャラリーツアーグループ 13名

展示室において一般来館者と対話しながら作品を鑑賞する。解説形式は当館学芸員の行うフロアレクチャーなど様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく形式を採る。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止。

定例会を行い、作品の知識を深める活動を実施。

##### ⑤タッチツアーグループ 9名

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチツアー」のガイド役を行う。身体障がい者対応や彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチツアー」の申込みがあった場合に、参集して活動する。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止

## ⑥資料整理グループ 37名

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。全国の美術館、博物館などから送付されるポスター・チラシを整理、掲示し、一般来館者へ情報提供を行う。また作家からの個展のダイレクトメールなどを分類の上、専用のキャビネットに保管するとともに、データベース化を行うことにより、貴重なアーカイブを形成し、学芸員の研究活動にも利用されている。本年度、これまでのデータベースから、「静岡県立美術館デジタルアーカイブ」と当館が呼称しているクラウド型データベースへ移行、情報公開するため、これまでのデータをさかのぼって追加入力を行った。これらは膨大な時間と手間のかかる作業であり、ボランティアの力が大いに発揮されている。

## ⑦地域連携・草薙ツアーグループ 6名

「地域と美術館を結ぶ」ことを目的として、様々な活動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館プロムナードにある「杉山彦三郎記念茶畑」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、お茶摘みイベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため茶畑管理を除き活動休止

### ・規約、ルール

館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」に基づいて活動している。報酬、旅費、などの支給はない。ただしボランティア保険については美術館が負担している。ボランティアの自己研修と広報活動のために、展覧会は無料で観覧することができる。また企画展ごとに休館日を利用してボランティアを対象とする内覧会を実施している。

### ・組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は行っておらず、ボランティア会長や代表などは置いていない。

### ・活動頻度

基本的に一人が月2回以上活動することとし（募集基準）、実際はグループごとに頻度や時間を定めている。

### ・募集、登録、活動期間

より多くの方がボランティアに参加できるようにする

ため、原則として3年ごとに美術館ボランティアの募集を行う。ただし、美術館ボランティア募集に係る人数、期間、活動内容、資格その他の基準は、その都度美術館が定め、募集要項に記載する。本年度は上述の通り、任期を1年延長することとなった。募集は令和4年度に行う予定である。

### ・ボランティア総会

日時：8月22日（日）13：30～15：20

会場：当館講堂

内容：1 活動報告（13：30～14：20）

各グループ5分程度の発表

2 木下直之館長による講演（14：20～15：20）

「美術館がひらく世界—35年前と1年前を振り返る」

※新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

### ■広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度から「地域サポーター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、サポーター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域サポーター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をサポーターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報サポーター」とし、新たに募集を行った。（令和3年度末時点「広報サポーター」登録者数37名）

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同サポーターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

## 友の会活動

### ■諸会議

- ・理事会・評議員会

日時：5月28日（木）

場所：静岡県立美術館 講座室

- (1) 役員異動について
- (2) 令和2年度事業報告、決算報告
- (3) 令和3年度事業計画案、予算案
- (4) その他

新型コロナウイルス感染症拡大のため書面表決とし、結果確認のため代表者により会議

- ・会長・副会長への事業報告会

日時：10月12日（火）

場所：静岡県立美術館 講座室

- (1) 事業中間報告
- (2) 友の会文書保存期間の規定制定（案）

日時：3月15日（火）

場所：静岡県立美術館 講座室

- (1) 事業報告
- (2) 令和4年度事業について
- (3) 35周年記念事業計画及び予算（案）
- (4) その他

- ・静岡県立美術館5カ年計画報告会参加

日時：3月15日（火）

場所：静岡県立美術館 講座室

参加人数：12名

「静岡県立美術館5カ年計画～創造的で多様性に富んだ社会の実現～」について館長より聴取

- ・事業委員会

静岡県立美術館 講座室等 12回開催

- ・会報委員会

静岡県立美術館 会議室等 13回開催

- ・友の会35周年記念準備会議

静岡県立美術館 講座室等 2回開催

### ■実技講座

- ・実技講座「写真を撮ろう：基本講座」

日時：11月26日（金）

場所：静岡県立美術館 講座室

講師：中村明弘氏（写真家）

参加人数：15名

### ■講演会（イベント）等の開催

- ・企画展ごと会員向けレクチャー

- (1) 「ストーリーズ」

日時：4月29日（木・祝）

参加人数：12名

- (2) 「忘れられた江戸絵画史の本流」

日時：6月26日（土）

参加人数：16名

- (3) 「古代エジプト文明展」

日時：8月7日（土）

参加人数：13名

- ・木下直之館長講座

- (1) 「柳宗悦と民藝運動」

浜松の日本民藝美術館をめぐって

- ①事前学習会：「民藝とは何か？」

日時：5月25日（火）

場所：静岡県立美術館 講座室

参加人数：18名

- ②現地見学

日時：6月20日（日）

場所：浜松市美術館「遠州の民藝」展

－浜松城

－高林家（旧日本民藝美術館）

参加人数：19名

- ③事後学習会：「民藝とは何だったのか？」

日時：7月4日（日）

場所：静岡県立美術館 講座室

参加人数：15名

- (2) 「遠州横須賀で江戸の祭りを考える」

- ①レクチャー1「祈りと飾り」

日時：2月21日（月）

場所：静岡県立美術館 講座室

参加人数：19名

- ②レクチャー2「江戸の祭り」

日時：3月22日（火）

場所：静岡県立美術館 講座室

参加人数：21名

- ③現地見学「遠州横須賀三熊野神社大祭」

日時：4月2日（土）

※新型コロナウイルス感染症拡大による来場制限のため翌年に延期

- ・友の会ひろば

美術館工事休館中のため中止

### ■研修旅行

- ・「現代美術を楽しむ旅へ」

愛知県美術館、せきがはら人間村

日時：5月27日（木）日帰り旅行

※コロナ感染緊急事態宣言発令や最少催行人数に満たないなどの事情により中止

- ・木下直之館長講座「柳宗悦と民芸運動」浜松の日本民藝美術館をめぐって 現地見学（既述）

#### ■美術館支援事業

- ・各種実技支援事業

#### ■情報資料の作成と提供

- ・友の会だより「プロムナード」発行（各900部）
  - (1) 第103号（4月10日発行）  
アトリエ訪問 造形作家・あしざわまさひと氏
  - (2) 第104号（10月15日発行）  
アトリエ訪問 陶芸作家・前田直紀氏
- ・情報の提供
  - (1) ニュース「アマリリス」郵送（4回）
  - (2) 催事の情報提供
  - (3) 美術館内掲示板の有効活用
  - (4) 友の会ホームページ  
会員の投稿掲載

#### ■キッズアートプロジェクトしずおか支援

- ・静岡県内の小学生を対象に配布する「ミュージアムパスポート」の作製や事業活動へ協賛

#### ■その他の事業

- ・会員勧誘キャンペーン  
新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
- ・提携等県内美術館との連携  
提携美術館（静岡市美術館、駿府博物館）を始めとする県内美術館（静岡市立芹沢銈介美術館）が開催する企画展のチラシを会員に配布するとともに、招待券10組を抽選により会員に提供。

## ■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年5月25日  
改正 平成14年6月16日  
改正 平成20年2月27日  
改正 平成24年2月28日  
改正 平成27年4月1日  
改正 平成29年4月1日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、親子(キッズ)会員、学生会員、シニア会員、及び賛助会員とする。

(1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、シニア会員を選択することができる。

(2) 高校生・専門学校生・大学生は、学生会員とする。

(3) 会員資格の有効期限中における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年間延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず返還しないものとする。

2 各種講座、見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけてもらうものとする。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なければならない。

- 2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。ただし、軽微な変更については、この限りではない。

(事業報告及び収支決算)

第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| (1) 会長             | 1人    |
| (2) 副会長            | 1人    |
| (3) 理事(会長及び副会長を含む) | 10人以内 |
| (4) 評議員            | 15人以内 |
| (5) 監事             | 2人    |

- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事及び評議員は、監事を相互に兼ねることができる。

(役員職務)

第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
- 4 評議員は、評議員会を構成する。
- 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

(役員任期)

第18条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(専門委員会)

第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。

- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。

(事務局)

第20条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。

(顧問)

第21条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べるができる。
- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。

第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。

- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。

(会議の権能)

第24条 理事会は、この会則に別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。

- 2 評議員会は、この会則に別に定めるもののほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評議員会の意見を聴かななければならない。

(会議の開催)

第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。
- 2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。
  - (1) 会長が必要と認めたとき。
  - (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。

(会議の定足数)

第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

(会議の議長)

第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。

(会議の議決)

第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面の決議等)

第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもつ

て表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。

第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 構成員の現在数
- (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
- (4) 議決事項
- (5) 議決の経過の概要及びその結果
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員のうちから、当該会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印しなければならない。

(賛助会員)

第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。

2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

(会則の変更)

第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。

(解散)

第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得たときに解散する。

2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決によりその用途を定めるものとする。

(雑則)

第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関して必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

附 則

この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。

附 則

この変更は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。
- 2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任されるものとする。ただし、その任期は、第18条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この変更は、平成24年2月28日から施行する。

附 則

この変更は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この変更は、平成29年4月1日から施行する。



別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特典の種類	会員の種類					
	一般会員	親子 (キッズ会員)	シニア会員	特別会員	学生会員	
1 県立美術館主催の企画展招待券	5枚	5枚	5枚	5枚	2枚	
2 企画展ごと招待券	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚	
3 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○	
4 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○	
5 友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○	○	○	
6 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等、企画展ごとのフロアレチャー、友の会主催の事業に参加可能	○	○	○	○ (同伴1名まで)	○	
7 会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」・カフェ「ロダン」の飲料料金が会員本人のみ1割引	○	○	○	○	○	
8 会員証提示により、県立美術館内のミュージアムショップの利用補助	○	○	○	○	○	
9 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待				○ (同伴1名まで)		

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係) 年会費

会 員 区 分	年 会 費
一般会員	(1名) 5,000円
親子(キッズ会員)	(1名) 3,000円
シニア会員(70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	(1口) 50,000円

## 広報活動（ホームページを含む）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、各メディアを通じた広報活動を行ってきた。平成8年度には公式ホームページを開設し、その後もリニューアルを繰り返して、展覧会等に関する広報の要となっている。近年ではSNSも複数運用し、幅広い対象に情報発信を行っている。

ここでは、ポスター・チラシなど主要な広報活動とともに、ホームページの運営やSNSの活用について記載する。

### ■主要な広報活動

- ・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り（JR掲示専用のポスターを展覧会ごとに製作）
- ・ホームページへの情報掲載
- ・展覧会ごとにプレスリリースを作成し、各メディアへ提供するとともにウェブサイトに掲載
- ・展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・広告掲載、テレビスポット放映
- ・特集紙面、番組への協力
- ・ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hiほか）
- ・ボランティア向け内覧会の実施
- ・広報サポーターへの情報提供  
（ポスター・チラシを送付し、口コミでの広報を依頼）
- ・学校に対する学校関係イベント情報の提供

### ■広報委員会

総務課、学芸課、文化政策課の担当職員から構成され、不定期に館内で会議を開き、アマリリスの編集などを主な業務としてきた。平成29年度に活動内容を大幅に見直し、より戦略的に広報活動を行う方針となった。

現在は、アマリリスの編集に加え、各展覧会の広報サポート、次年度年間スケジュールの製作を行っている。

今年度は「忘れられた江戸絵画史の本流」展の広報などに取り組んだ。

### ■ホームページ

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

当館ホームページは、平成8年度末に開設された。平成28年度までの累計アクセス数は4,078,414件であった。平成28年度末のホームページリニューアルに伴い、アクセス数の集計方法も変更となり、現在はGoogle Analyticsを使用している。

今年度はアクセス数が前年に比して大きく減少した。9月から約半年にわたって休館したため、展覧会・イベ

ント情報への需要が減少したためとみられる。閲覧に使用された機器のオペレーティングシステムの割合は、iOSとAndroidで75%を超えており、大部分がスマートフォンからのアクセスとなっている。

令和3年4月1日～令和4年3月31日の実績

ユーザー	291,457
セッション	401,835
ページビュー数	938,877

（参考）

令和2年4月1日～令和3年3月31日の実績

ユーザー	402,991
セッション	622,591
ページビュー数	1,460,987

平成31年4月1日～令和2年3月31日の実績

ユーザー	270,865
セッション	399,026
ページビュー数	1,085,837

### ・リニューアル

平成28年度、適切なスマートフォン表示への対応を主目的としたウェブサイトのリニューアルを行い、平成29年3月30日に新ウェブサイトを公開した。平成29年度末には館蔵品データベースの公開も実現した。今年度はデジタルアーカイブの創設が最も大きな変更点となった。併せて観光デジタル情報プラットフォームへの対応に際し、SSL化を行い、URLも変更となった。

### ・ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、ホームページ上でのアンケートを実施している。回答は専用のメールフォームで行う。ウェブサイトリニューアル後、回答数が大幅に減少している。

### ■ブログ

<http://blog.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/official/>

「静岡県立美術館ブログ ぶらりプロムナード」を平成23年より公開してきた。近年はイベントの事後報告を行うことが多かったが、一昨年度からコロナ禍のため、多くのイベントが中止となり、更新がほぼ止まっていた。更にSNSの比重が高まっていることもあり、今年度末をもってブログの更新を完全に停止し、今後は過去の記事をウェブサイト内で閲覧できるようにした。

## ■SNS

現在、下記3種のSNSを運用している。展示作品の紹介やワークショップの記事を随時掲載。更新は総務課担当職員を中心に行っている。

- Facebook

<https://www.facebook.com/shizuokakenbi/>  
平成26年7月導入。

- Instagram

<https://www.instagram.com/shizuokakenbi/>  
平成28年度「蜷川実花」展より導入。

- Twitter

<https://twitter.com/shizuokakenbi>  
平成29年度「アートのなぞなぞ」展会期途中より導入。

# デジタルアーカイブによる情報発信



静岡県立美術館デジタルアーカイブとは当館ウェブサイト上で公開している収藏品、蔵書、現代美術関連資料を対象とした検索システム、および高精細画像、ヴァーチャルリアリティ（以下VR）、動画などの総称である。

令和2年度、当館では、国が創設した「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を受けて静岡県が定めた「文化施設等のデジタル化・安全安心対策事業費」等を活用して「デジタルアーカイブ」を製作することにより、オンラインでの情報発信活動を拡充する方針を決定した。

そこで同年度に、作品等検索システム、高精細画像、VR等の製作をはじめとした具体的な事業計画を立案し、各事業者と契約を結んだ。

令和3年度に入ると、計画に基づいてシステムやコンテンツの製作が進められ、令和4年3月に完成を迎え、同年4月1日より公開が開始された。本項ではこのデジタルアーカイブを構成する各事業について紹介する。

## ■デジタルアーカイブ・ポータルページ

<https://spsmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/>

各コンテンツを集約した、デジタルアーカイブの中心となるウェブページ。検索システムの検索窓、作家別インデックス、高精細画像、VR、コレクション選、動画へのリンクなどを擁する。ページ制作は株式会社NOKIOO（浜松市）、デザインはJicca Design（静岡市）が担当した。

## ■収藏品等検索システム

<https://jmapps.ne.jp/spsmoa/>

早稲田システム開発株式会社の製品であるI. B. Museum SaaS（以下IBMS）を導入し、新規にシステムを製作した。旧システムからの移行支援はフューチャーイン株式会社静岡支店（静岡市）が担当した。

従来の当館ウェブサイト上の収藏品検索システムは、平成29年度に製作されたもので、CMSにより構築されていた。これは館職員がデータに加除訂正を直接行うことができ、使い勝手の良いものではあったが、国産データベースソフト「桐」を利用した収藏品データベースからは完全に独立していたため、情報の更新作業などは、それぞれ個別に行う必要があった。

このたび導入したIBMSは、館外にある専用のサーバー上で、収藏品等に関するデータを保存するクラウド型のサービスであり、公開機能も備えている。

更に項目の種類を独自に設定した複数のデータベースを一括して管理できるため、作品だけでなく、図書など

に関するデータベースも並行して運用することが可能である。

このIBMSの特性を活かし、収藏品、蔵書、そして現代美術関連資料のデータベース管理および公開を一体化したシステムを構築した。更にこれらを対象に横断検索を行う機能を実装しているため、作品や作家に関する情報をより多角的に提供することも可能としている。

なお、全くの非公開ではあるが、寄託品データベースについても併せて移行を行った。

#### ・収藏品

当館の全収藏品を網羅したデータベース。これまで館内において「桐」によって管理してきた収藏品データを、IBMSに移行させた。そして、これらのデータのうち基本的項目について、学芸課での約半年間にわたる校正作業や解説文追加作業を経て、デジタルアーカイブ上で公開した。

更に収藏品画像データについても、新規撮影を含む更新作業を実施した。まずこれまでローカル環境で管理してきたデジタル画像データをIBMS上に移行させた。次にポジフィルムのみが存在する作品は、これをスキャンしてデジタル画像を作成した。加えて400件ほどの作品を対象に、カメラマンに依頼して新規のデジタル撮影を行い、画像にトリミングを施したうえで登録した。

#### ・図書

当館の蔵書に関するデータベース。従来「桐」によって管理してきた図書目録、雑誌目録、逐次刊行物目録のうち、図書目録をIBMSに移行させた。このうち、単行本や図録を中心とした約20,000冊分の書誌情報を、校正をかけたうえで公開した。校正作業は株式会社図書館スタッフ（東京都）が担当した。今後は雑誌や逐次刊行物および新規に受け入れる図書についても、順次登録される見込みである。

#### ・現代美術関連資料

現代美術作家の画廊等での展示記録に関するデータベース。当館ではボランティアによって、全国各地の画廊や作家などから当館宛に送付された展示案内などのダイレクトメール類（このたびこれらを「現代美術関連資料」と名付けた）の整理・保存作業が開館以来続けられてきた。現在、この作業は資料整理グループが担当し、平成26（2014）年度からは各資料に記載されている作家名や会場名、会期などのデータがExcelに入力されている。しかしながら、これらのデータを一般に公開する仕組み

が整わず、その活用方法が長らく懸案事項であった。

今回、これまでデータ化された6140件分をまとめてIBMSに登録し、各作家の展示記録についてのデータベースとして公開した。更に今年度後半の工事休館期間からは、平成25（2013）年以前に受け入れた資料も対象となり、今後も新規受入分と並行して登録作業がボランティアによって行われていく見込みである。なお、資料原本の一般公開を行う予定は今のところない。

#### ■高精細画像

[https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/digital\\_archive/taiga/](https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/digital_archive/taiga/)  
当館コレクション中の逸品である池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》（重要文化財）の高解像度画像。作品撮影、画像編集およびウェブページ制作は凸版印刷株式会社が担当した。

打合せや下見を経て、11月に2日間かけて作品撮影を実施。左右隻それぞれについて、画面を細かく分割撮影した後、データを1枚の画像に合成した。ウェブサイト上では、任意の場所を自由に拡大して閲覧することができる。

#### ■VR

[https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/digital\\_archive/roodin/](https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/digital_archive/roodin/)  
オーギュスト・ロダン《地獄の門》のVRコンテンツ。作品に対する3D計測、テクスチャ撮影、3Dモデルおよびウェブページ制作は凸版印刷株式会社が担当した。打合せや下見を経て、11月に3日間をかけてロダン館にて計測・撮影作業を実施した。公開用のプラットフォームにはSketchfabが用いられている。実際の展示空間では不可能な角度や高度を含む、様々な視点からの観察を疑似体験させるとともに、モデルの各所に部分解説を付けることで、作品理解の補助となるツールを目指した。

#### ■コレクション選

以前よりホームページ内にバラバラに点在していた収藏品を紹介するコンテンツを、デジタルアーカイブの中に再構成したもの。リンクの貼り換え作業などはNOKIOO（浜松市）が担当した。下記の4種のコンテンツから構成されるが、「伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》」以外は、いずれも作品の個別紹介部分に、IBMS内の該当する詳細ページへのリンクを設け、情報の集約を図った。

#### ・風景の交響楽

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/symphony/>  
平成18（2006）年に発行した収藏品をテーマ別に紹介する名品集を、ウェブページ化したコンテンツ。

- ・ロダン館

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/exhibition/rodin/>  
かつて当館ホームページ本体とは異なる独自のフォーマットで製作されたロダン館特設ページを改装したもの。ロダン館やブリッジギャラリーに設置されている彫刻作品を紹介。

- ・プロムナード

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/exhibition/outdoor/>  
当館敷地内にある彫刻プロムナードに設置された作品を紹介。

- ・伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/jakuchu/>  
人気の高い同作について、基本情報や直近の展示情報を紹介するページ。Google Artにて公開中の高精細画像へのリンクも掲載。

## ■スペシャル動画

年度後半に新たにデジタルアーカイブ構想に加わったコンテンツ。次の4種6本の動画を制作・公開した。

- ・中村宏インタビュー

収蔵作家でもある浜松市出身の中村宏氏へのインタビュー動画。前後編からなる。

収録日…令和4年1月18日（火）

撮影・編集…（株）らくだスタジオ（東京都）

会場提供協力…練馬区立美術館

画像提供協力…板橋区立美術館、高松市美術館、東京国立近代美術館、練馬区立美術館、FUMA CONTEMPORARY ART、宮城県美術館

- ・森村泰昌×木下直之 館長対談

収蔵作家でもある森村泰昌氏と当館館長との対談動画。前後編からなる。

収録日…令和4年1月26日（水）

撮影・編集…（株）らくだスタジオ（東京都）

画像提供協力…3331 Arts Chiyoda、セゾン現代美術館、森村泰昌事務所

- ・静岡県立美術館 紹介動画

ロダン館をはじめとした内観や館外のプロムナードの風景を撮影した映像。

撮影・編集…（株）クラフト（静岡市）

- ・静岡県立美術館 空から望む静岡県立美術館

ドローンを用いて上空より当館周辺一帯を空撮した映像。

撮影・編集…（株）クラフト（静岡市）

## ■観光デジタル情報プラットフォームへの対応

同プラットフォームは県の観光振興課が中心となって開発と普及を推進しており、県の各施設にも対応が求められた。当館では同プラットフォームを利用し、周辺の観光スポットを表示させる機能を、デジタルアーカイブ内「風景の交響楽」や「プロムナード」に実装させた。

# 美術館ニュース「アマリリス」

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4判8ページ、オールカラー

第141（春）号 2021年4月1日発行

- p.1 表紙 丹羽勝次《NO HOOKS》／上席学芸員 植松篤
- p.2 TOPICS コレクションについて館長が知っていること／館長 木下直之
- p.3 新収蔵品の紹介／各ジャンル担当者
- p.4 EXHIBITION 「ストーリーズ～作品について学芸員が知っていること」／上席学芸員 川谷承子
- p.5 EXHIBITION 「忘れられた江戸絵画史の本流—江戸狩野派の250年」／上席学芸員 野田麻美
- p.6-7 研究ノート 真贋論の行方—添帖のこと／上席学芸員 野田麻美
- p.7 本の窓『野の古典』／安田登著、紀伊國屋書店出版部、2021年／上席学芸員 村上敬
- p.8 美術館問わず語り モーツァルトのこと(2)～私にとっての「古代への情熱」展／前副館長 櫻井昌明

第142（夏）号 2021年7月1日発行

- p.1 表紙 ハイム・スーチン《カーニュ風景》／主任学芸員 貴家映子
- p.2 TOPICS コレクションについて館長が知らなかったこと／館長 木下直之
- p.3 TOPICS ガンダーラ展の思い出と誇り／常葉大学教育学部教授、常葉ギャラリー館長 堀切正人
- p.4 EXHIBITION 「国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 天地創造の

神話」／上席学芸員 新田建史

- p.5 EXHIBITION 「構図をめぐって 縦に積む／横に広げる／奥に進む」／上席学芸員 村上敬
- p.6-7 研究ノート 白髪一雄《屋島》について／上席学芸員 植松篤
- p.7 本の窓『ラバ通りの人びと』ロベール・サバティエ作、堀内紅子／松本徹訳、福音館書店、2005年／主任学芸員 貴家映子
- p.8 美術館問わず語り 作品にこめられた想い／副館長 伏見光博

第143（秋）号 2021年10月1日発行

- p.1 表紙 児島虎次郎《酒津の庭（睡蓮）》／前上席学芸員 村上敬
- p.2-3 TOPICS なぜ風景の美術館なのか・なぜ風景と人間なのか／館長 木下直之
- p.4 EXHIBITION 「静岡の「県立美術館」と浜松の「市立美術館」—双方の使命とその融合—」／浜松市美術館学芸員 島口直弥
- p.5 EXHIBITION 移動美術展 静岡県立美術館超名品展 風景と人間／上席学芸員 植松篤
- p.6-7 研究ノート 木村武山《羽衣》における天女の図像について／学芸課長 石上充代
- p.7 本の窓『土偶を読む 130年間解かれなかった縄文神話の謎』竹倉史人著、晶文社、2021年／上席学芸員 植松篤
- p.8 美術館問わず語り 風景が結んだご縁 主任学芸員 貴家映子

第144（冬）号 2022年1月3日発行

- p.1 表紙（上）狩野栄信・（下）狩野養信《唐



第141（春）号



第142（夏）号



第143（秋）号



第144（冬）号

- 
- 画流書手鑑》より「(倣徽宗) 桃鳩図」、  
「(倣夏永) 楼閣山水図」／上席学芸員 野  
田麻美
- p. 2 TOPICS 浜松の人浜松を歩いてみると／  
館長 木下直之
- p. 3 TOPICS コロナ禍のボランティア活動に  
ついて／上席学芸員 植松篤
- p. 4 - 5 REPORT 2021 (令和3) 年度の大規模  
修繕について／上席学芸員 新田建史
- p. 6 - 7 研究ノート 温泉と絶景—熱海本陣・今井  
半太夫家と画家たちの交遊—／主任学芸員  
浦澤倫太郎
- p. 7 本の窓 『公の時代』 卯城竜太、松田修  
著、朝日出版社、2019年／上席学芸員 川  
谷承子
- p. 8 コロナ禍と休館を通じて／主幹 奥村祐喜



## 新たな広報チャンネルの開拓

### 【ストーリーズ ～作品について<sup>わたしたち</sup>学芸員が知っていること】

- ・学芸員が中心となり当館SNSで展覧会の記事をアップロード
- ・公民館での展覧会講座の実施（5/13 参加者79名）
- ・静岡大学地域創造学環1年生対象「新入生セミナー」での企画展PR（5/10）

### 【忘れられた江戸絵画史の本流—江戸狩野派の250年】

#### 【江戸狩野派の古典学習—その基盤と広がり】

- ・江戸狩野派奥絵師・表絵師の人気投票イベント「推しメンに投票！江戸狩野派総選挙～あなたはだれを推しますか？～」の実施（展示室ラウンジ前）
- ・静岡県立中央図書館2階エントランスホールでの選挙イベントポスターサテライト展示
- ・当館ミュージアムショップの他、「BOOKSHOP TRAVELLER」、本屋ちゃんECサイトでの図録の販売
- ・共同通信PRワイヤーを利用した国内メディア向けオンラインプレスリリースの配信
- ・ARTPRを利用したアート系メディア向けオンラインプレスリリースの配信
- ・静岡新聞アットイベント・観光ページへの展覧会広報バナーの掲出
- ・ジオロケーションテクノロジー「どこどこad」を利用した展覧会広報バナーの掲出
- ・池上本門寺『本門寺の狩野派展』（令和3年4月3日～6月27日）との相互割引の実施
- ・静岡県内の寺院（日蓮宗本門寺系）14ヶ所への招待状・広報物の発送
- ・草薙の新規配布先（病院、美容院など）や静岡県博物館協会加盟館への広報物の発送
- ・静岡県立大学の学生に向けたメールでの広報
- ・静岡大学での企画展PR（5/25 第1回：8名 第2回：約60名）
- ・ポスター配布キャンペーン（B2ポスターを3枚配布）

### 【国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 天地創造の神話】

- ・共催者のしずおか朝日テレビを通じてspotCM・お天気フィラーを放映
- ・古代エジプト展公式SNS・ウェブサイトでの記事をアップロード

### 【その他】

- ・デジタルアーカイブ・館長プロデュース動画について、

ARTPRを利用したアート系メディア向けオンラインプレスリリースの配信

- ・共同通信PRワイヤーを利用した国内メディア向けオンラインプレリリースの配信
- ・県内の小・中・高・特別支援学校への当館企画展の広報誌を配布

## 施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
昭和61	93,918	8,005	10,000		
62	95,635	9,911	10,000		
63	112,528	10,346	14,714		
平成元	98,806	12,474	11,937		
2	101,477	11,432	8,274		
3	91,342	13,755	8,545		
4	109,287	14,442	9,499		
5	95,903	10,927	9,308		
6	108,004	12,060	9,159		
7	73,254	10,717	7,015		
8	109,076	9,487	8,621		
9	87,436	10,615	6,486	4,257	
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299
17	69,357	11,762	4,626	4,904	289
18	81,657	10,700	5,087	8,891	499
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344
23	53,147	10,535	2,444	3,033	238
24	43,157	9,475	1,916	1,689	182
25	48,483	8,763	2,146	1,908	188
26	41,201	8,646	823	1,539	186
27	59,350	10,932	712	2,852	185
28	42,386	8,743	1,043	1,405	227
29	35,774	7,827	574	1,446	157
30	28,058	6,452	430	1,096	86
令和元	31,896	5,286	925	782	149
2	15,067	2,692	1,617	412	0
3	9,452	1,688	458	212	0
合計	2,478,945	358,158	191,695	143,448	5,429

3 年 度 月 別 内 訳	4	550	448	60	30	0
	5	2,182	230	29	71	0
	6	2,612	222	107	22	0
	7	2,789	335	88	45	0
	8	1,319	453	137	43	0
	9	0	0	37	1	0
	10	0	0	0	0	0
	11	0	0	0	0	0
	12	0	0	0	0	0
	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0

## 令和3年度 県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	4/20(火)	4/25(日)	6	AB	無	'21現代書作家展・しずおか	毎日新聞静岡支局	550
2	5/11(火)	5/16(日)	6	AB	無	第57回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	828
3	5/18(火)	5/23(日)	6	AB	無	第37回一基書展	一基会	479
4	5/25(火)	5/30(日)	6	AB	無	「富士山の絵」展 - 静岡県文化プログラム -	静岡県文化協会	875
5	6/1(火)	6/6(日)	6	A	無	静岡形象派展	形象派美術協会静岡支部	223
6	6/8(火)	6/13(日)	6	A	無	第8回 島田杉浦カメラユーザー写真展	杉浦 立芳	985
7	6/8(火)	6/13(日)	6	B	無	静岡三軌展2021	静岡三軌会	590
8	6/22(火)	6/27(日)	6	AB	無	第48回 二科会写真部静岡支部公募展	一般社団法人二科会写真部 静岡支部	741
9	6/29(火)	7/4(日)	6	AB	無	フォトセッション展	遠藤 幸廣	292
10	7/6(火)	7/11(日)	6	AB	無	第32回静岡独立展	静岡独立美術協会	520
11	7/13(火)	7/18(日)	6	AB	無	第49回静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	857
12	7/20(火)	7/25(日)	6	AB	無	第47回静岡県フレミッシュ織展、第12回静岡裂織公募展	静岡県フレミッシュ織教室	798
13	7/27(火)	8/1(日)	6	AB	無	第85回静岡県版画協会展	静岡県版画協会	597
14	8/17(火)	8/22(日)	6	AB	無	第70回静岡県水彩画協会展	静岡県水彩画協会	1,117
合 計								9,452

## 来館者のアクセス満足度

利用交通機関について、令和3年度のアンケート集計結果によると、「自家用車」が68.6%と最も高く、次いで「JR」12.8%、「静鉄電車」7.3%の順になっている。

アクセス環境の満足度については、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は55.7%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は67.8%であった。

自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られているために、週末などに利用者が集中してしまうと近くの駐車場から順次満車になり、離れた駐車場になると美術館までの徒歩区間が長い上り坂であることがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学の職員駐車場を借用して美術館来館者用に充てるなど、引き続き自家用車利用者の利便性の向上に努めて行きたい。

公共交通機関の利用者については、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から当館までは上り坂となっているため、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、アクセスに満足してもらえない主要な要因であると思われる。お客様からアクセスについて電話等で照会があった際には、路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って来ることができることを案内しているものの、バス運行は、1時間に1本であるため利便性が高いとは言い難い。令和3年度は観覧者数が多く見込まれた「古代エジプト展」においては、バス運行会社に依頼し、運行本数を増やし来館者の利便性を図った。

## 令和3年度主要記事

- 4月6日 企画展「ストーリーズ ～作品について<sup>わたしたち</sup>学芸員が知っていること」(～5月16日)
- 4月6日 収藏品展「新収藏品展」(～5月16日)  
特別講演会「名品を手に入れる 静岡県立美術館所蔵 草間彌生《無題 (No.White A.Z.)》を中心に」石坂泰章氏(サザビーズジャパン 代表取締役会長兼社長)(4月11日)  
美術講座「石田徹也の作品は海外でどのように紹介されたか」川谷承子(4月29日)  
美術講座「和田英作と曾宮一念 二つの絶筆」泰井良(5月2日)  
美術講座「野島青茲《塑像》—3人の作家をめぐる物語」石上充代(5月8日)  
館長美術講座「作品について<sup>わたし</sup>館長が知っていること」木下直之(5月9日)
- 5月18日 特別展示「江戸狩野派の古典学習 —その基盤と広がり」(～6月27日)
- 5月22日 企画展「忘れられた江戸絵画史の本流」(～6月27日)  
特別講演会「江戸時代絵画の底流—江戸狩野の復権」並木誠士氏(京都工芸繊維大学特定教授・美術工芸資料館)(5月30日)  
館長美術講座「江戸絵画の表と奥について」木下直之(6月6日)  
美術講座「巨大組織・江戸狩野派の厚みと広がり—その魅力の深層に迫る」野田麻美(6月13日)  
学芸員によるフロアレクチャー 野田麻美(5月29日、6月26日)
- 6月29日 収藏品展「構図をめぐる—縦に積む／横に拡げる／奥に進む」(～9月5日)
- 7月10日 企画展「国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 —天地創造の神話」(～9月5日)  
特別講演会「古代エジプト人の思想と宗教：信仰と死生観」近藤次郎氏(早稲田大学文学学術院教授・早稲田大学エジプト学研究所所長、展覧会監修者)(7月10日)  
館長美術講座「古代エジプトの肖像をめぐる話」木下直之(8月1日)  
学芸員によるスライドトーク 新田建史(8月7日、14日)
- 7月16日 第三者評価委員会
- 9月6日 改修工事による全館休館(～4月1日)
- 11月13日 移動美術展「静岡県立美術館 超名品展 風景と人間」(～12月19日)  
館長講演会 浜松市美術館「風景と人間、それとも人間の風景か」木下直之(11月20日)  
美術館協議会
- 11月16日
- 通年 創作週間(通算21日間)  
実技講座(通算2日間)  
ロダン館デッサン会(通算8日間)  
ちょこっと体験(通算5日間)  
わくわくアトリエ(通算3日間)  
ねんど開放日(通算2日4回)  
えのぐ開放日(通算0日0回)  
美術館教室(通算10日間)

ストーリーズ～作品について<sup>わたしたち</sup>学芸員が知っていること

4月6日(火)～5月16日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	西暦(和暦)	技法	寸法(mm)	所蔵者
<b>1章 「名品」の軌跡</b>								
1	伊藤若冲	1716-1800 (正徳6-寛政12)	樹花鳥獸図屏風	18世紀後半	(江戸時代)	紙本着色	右隻137.5×355.6 左隻137.5×366.2	静岡県立美術館
2	伊藤若冲	1716-1800 (正徳6-寛政12)	白象群獣図	18世紀後半	(江戸時代)	紙本着色	122.9×73.1	個人蔵
3	伊藤若冲	1716-1800 (正徳6-寛政12)	花鳥蔬菜図押絵貼屏風	1760	(宝暦10)	紙本墨画	各図134.5×49.7	個人蔵
4	草間彌生	1929-(昭和4-)	無題 (No.White A.Z.)	1959	(昭和34)	キャンヴァス、油彩	232.5×359.0	静岡県立美術館
5	草間彌生	1929-(昭和4-)	最後の晩餐	1981	(昭和56)	ミクスト・メディア (テーブル1、イス6、 綿布、綿、既製品ほか)	テーブル:107 ×215×108 椅子:各80×45 ×54	静岡県立美術館
6	ドナルド・ジャッド	1928-1994	無題	1990		黒のアノダイズド・ アルミニウム、プロ ンズ色のプレキシグ ラス(10ユニット)	各15.2×68.5 ×61.0	静岡県立美術館
<b>2章 徳川ゆかりの画家、近代を生きる</b>								
7	徳川慶喜	1837-1913 (天保8-大正2)	風景	1868-1877頃	(明治初期)	紙、油彩	31.0×45.0	静岡県立美術館
8	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	静物写生	1875	(明治8)	紙、鉛筆	33.1×51.5	静岡県立美術館
9	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	海底に遺る日清勇士の髑 髏	1899	(明治32)以前	板、漆、油彩	43.6×82.8	静岡県立美術館
10	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	巨岩海浜図	1912-26頃	(大正期頃)	板、油彩	43.5×174.0	静岡県立美術館
11	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	波	1913頃-27	(大正2頃-昭和2)	キャンヴァス、油彩	60.6×152.0	静岡県立美術館
12	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	梅に親子雀	1912-1923	(大正元-大正12)	絹、油彩	42.4×133.0	静岡県立美術館
13	小林清親	1847-1915 (弘化4-大正4)	東京新大橋雨中図(4/27- 5/16展示)	1876	(明治9)頃	紙、多色刷木版	24.2×35.8	静岡県立美術館
14	小林清親	1847-1915 (弘化4-大正4)	海運橋 第一銀行雪中(4/6- 4/25展示)	1876	(明治9)頃	紙、多色刷木版	24.4×36.5	静岡県立美術館
関連 出品	小林清親	1847-1915 (弘化4-大正4)	東京両国百本杭眺之図(4/6- 4/25展示)	1879	(明治12)	紙、多色刷木版	24.4×36.0	静岡県立美術館
15	小林清親	1847-1915 (弘化4-大正4)	猫と提灯(4/27-5/16展 示)	1877	(明治10)	紙、多色刷木版	33.5×46.0	静岡県立美術館
16	小林清親	1847-1915 (弘化4-大正4)	川中島合戦・龍虎墨竹図 屏風	1910	(明治43)	表:絹本金地着色 裏: 紙本墨画淡彩	各166.0×358.8	静岡県立美術館
<b>3章 二人の画家 静岡への想い 和田英作、曾宮一念</b>								
17	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	富士	1918	(大正7)	キャンヴァス、油彩	60.6×80.2	静岡県立美術館
18	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	日本平望嶽台	1939	(昭和14)	キャンヴァス、油彩	45.0×52.8	個人蔵
19	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	写生帖(三保の富士)	1911	(明治44)	紙、鉛筆	12.6×17.6	静岡県立美術館
20	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	写生帖(天女)	制作年不詳		紙、水彩	28.0×18.4	静岡県立美術館
21	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	スケッチ(天女)	1915	(大正4)頃	紙、鉛筆	115.8×76.4	静岡県立美術館
22	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	下絵(天女)	1915	(大正4)頃	紙、墨	133.8×76.6	静岡県立美術館

No.	作者	生没年	作品名	制作年 西暦(和暦)	技法	寸法(mm)	所蔵者
23	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	写生帖(三保の富士)	1916(大正5)	紙、水彩	11.0×18.0	静岡県立美術館
24	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	写生帖(富士(佐野))	1920(大正9)	紙、水彩	10.6×35.2	静岡県立美術館
25	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	写生(富士連作4点)	1920(大正9)	紙、水彩	各18.0×27.0	静岡県立美術館
26	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	写生(富士)	1920(大正9)頃	紙、水彩	23.5×17.1	静岡県立美術館
27	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	写生帖(富士(河口湖))	1933(昭和8)	紙、鉛筆	28.6×24.4	静岡県立美術館
28	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	写生帖(富士(吉田))	1937(昭和12)	紙、鉛筆	13.9×36.6	静岡県立美術館
29	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	スケッチブック(羽衣伝説)	1939(昭和14)	紙、鉛筆	23.2×31.9	静岡県立美術館
30	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	風景	1923(大正12)	キャンヴァス、油彩	60.5×61.0	静岡大学
31	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	種子静物	1934(昭和9)	キャンヴァス、油彩	60.6×72.7	静岡県立美術館
32	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	スペインの野	1968(昭和43)	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0	静岡県立美術館
33	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	毛無連峯	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7	静岡県立美術館
34	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	毛無山	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	31.0×41.0	個人蔵
<b>4章 語り継ぎたいエピソード</b>							
35	北川民次	1894-1989 (明治27-平成元)	山村初春(高草山風景)	1941(昭和16)	キャンヴァス、油彩	60.5×72.5	静岡県立美術館
36	北川民次	1894-1989 (明治27-平成元)	タスコの祭	1937(昭和12)	キャンヴァス、テンペラ	178.1×267.0	静岡県立美術館
37	小糸源太郎	1887-1978 (明治20-昭和53)	早春	1940(昭和15)	キャンヴァス、油彩	50.5×60.5	静岡県立美術館
38	小糸源太郎	1887-1978 (明治20-昭和53)	東海	1975(昭和50)	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0	静岡県立美術館
39	小栗哲郎	1904-2000 (明治37-平成12)	夕陽	1934(昭和9)	キャンヴァス、油彩	65.5×91.0	静岡県立美術館
40	中村岳陵	1890-1969 (明治23-昭和44)	残照	1961(昭和36)	紙本着色	94.5×120.0	静岡県立美術館
41	野島青茲	1915-1971 (大正4-昭和46)	塑像	1952(昭和27)	紙本着色	209.0×148.8	静岡県立美術館
42	伊藤隆史	1933-1997 (昭和8-平成9)	生き物	1958(昭和33)	合板、油彩	72.0×92.0	静岡県立美術館
43	伊藤隆史	1933-1997 (昭和8-平成9)	現代人A	1959(昭和34)	合板、油彩	140.0×91.0	静岡県立美術館
44	伊藤隆史	1933-1997 (昭和8-平成9)	現代人	1960(昭和35)	合板、油彩	152.0×91.0	静岡県立美術館
45	ジョアン・ミッチェル	1925-1992	湖	1955頃	キャンヴァス、油彩	203.2×254.5	静岡県立美術館
<b>5章 掛井五郎と静岡</b>							
46	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	習作-7(静岡の農村)	1949(昭和24)	紙、鉛筆、水彩	25.7×33.3	作家蔵
47	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	習作-8(静岡の夕暮れ)	1949(昭和24)	紙、クレヨン	17.5×25.2	作家蔵
48	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	習作-9(静岡実家の夾竹桃)	1949(昭和24)	紙、水彩	35.7×25.5	作家蔵
49	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	習作-10(静岡の風景)	1950(昭和25)	紙、墨	21.8×30.8	作家蔵
50	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	習作-11(静岡の田舎)	1950(昭和25)	紙、墨	21.8×30.8	作家蔵

No.	作者	生没年	作品名	制作年 西暦(和暦)	技法	寸法(mm)	所蔵者
51	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	習作-12(静岡の田舎)	1952(昭和27)	紙、鉛筆、水彩	25.2×36.1	作家蔵
52	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	習作-13(駿河湾)	1952(昭和27)	紙、鉛筆、水彩	25.1×36.0	作家蔵
53	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	習作-14(静岡の風景)	1952(昭和27)	紙、墨	24.3×33.5	作家蔵
54	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	座る	1972(昭和47)	ブロンズ	43.0×29.0×28.0	作家蔵
55	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	アジアの女	1978(昭和53)	ブロンズ	68.0×65.0×50.0	作家蔵
56	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	バンザイ・ヒル ドローイング-1	1976(昭和51)	紙、インク	41.0×33.4	作家蔵
57	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	バンザイ・ヒル ドローイング-2	1976(昭和51)	紙、インク	40.9×33.5	作家蔵
58	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	バンザイ・ヒル ドローイング-3	1976(昭和51)	紙、インク	40.8×33.5	作家蔵
59	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	バンザイ・ヒル ドローイング-4	1976(昭和51)	紙、インク	40.8×33.5	作家蔵
60	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	バンザイ・ヒル	1976(昭和51)	石膏	132.0×57.0×23.0	作家蔵
61	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	南アルプス ドローイング-1	1978(昭和53)	紙、インク	39.6×54.6	作家蔵
62	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	南アルプス ドローイング-2	1978(昭和53)	紙、インク	39.6×54.6	作家蔵
63	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	南アルプス ドローイング-3	1978(昭和53)	紙、インク	31.4×41.6	作家蔵
64	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	南アルプス ドローイング-4	1978(昭和53)	紙、インク	31.4×41.6	作家蔵
関連 出品	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	南アルプス 母に捧げる 1/2	2010(平成22)	紙、墨	35×181	作家蔵
関連 出品	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	南アルプス 母に捧げる 2/2	2010(平成22)	紙、水彩	35×186	作家蔵
65	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	裸婦	1979(昭和54)	石膏	52.5×38.0×43.0	作家蔵
66	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	ポーズしています	1983(昭和58)	石膏	36.0×28.0×18.0	作家蔵
67	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	翼を持った女	1983(昭和58)	石膏	76.0×40.0×35.0	作家蔵
68	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	山桃の実る頃	1987(昭和62)	カードボード、水彩	178.0×53.0×4.0	作家蔵
69	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	母の存在	1991(平成3)	キャンヴァス、油彩	227.3×181.8	一般財団法人掛井五郎財団
70	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	休息	1992(平成4)	ブロンズ	92.0×300.0×120.0	一般財団法人掛井五郎財団
71	掛井五郎	1930-2021 (昭和5-令和3)	休息のドローイング	1992(平成4)	紙、インク	30.0×38.2	作家蔵
<b>6章 石田徹也とその足跡</b>							
72	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	ピアガーデン発	1995(平成7)	紙、アクリル	51.0×78.5	静岡県立美術館
73	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	居酒屋発	1995(平成7)	紙、アクリル	51.0×78.5	静岡県立美術館
74	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	SLになった人	1995(平成7)	紙、アクリル	85.8×60.7	静岡県立美術館
75	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	(無題1)	1995(平成7)	板、アクリル	72.8×103.0	静岡県立美術館
76	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	飛べなくなった人	1996(平成8)	板、アクリル	103.0×145.6	静岡県立美術館



No.	作者	生没年	作品名	制作年 西暦(和暦)	技法	寸法(mm)	所蔵者
77	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	社長の傘の下	1996(平成8)	板、アクリル	103.0×145.6	静岡県立美術館
78	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	燃料補給のような食事	1996(平成8)	板、アクリル	145.6×206.0	静岡県立美術館
79	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	(無題2)	1997(平成9)頃	板、アクリル	103.0×145.6	静岡県立美術館
80	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	トイレへ逃げこむ人	1996(平成8)	板、アクリル	103.0×145.6	静岡県立美術館
81	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	兵士	1996(平成8)	板、アクリル	145.6×103.0	静岡県立美術館
82	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	引き出し	1996(平成8)	キャンヴァス、アクリル	59.4×42.0	静岡県立美術館
83	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	クラゲの夢	1997(平成9)	板、アクリル	103.0×145.6	静岡県立美術館
84	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	めばえ	1998(平成10)頃	板、アクリル	145.6×206.0	静岡県立美術館
85	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	市場	1999(平成11)	板、アクリル	206.0×145.6	静岡県立美術館
86	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	彼方	1999(平成11)	板、アクリル	145.6×206.0	静岡県立美術館
87	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	(無題3)	2000(平成12)頃	キャンヴァス、アクリル	194.0×162.0	静岡県立美術館
88	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	(無題4)	2000(平成12)頃	キャンヴァス、アクリル	194.0×162.0	静岡県立美術館
89	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	(無題5)	2001(平成13)	キャンヴァス、アクリル	45.5×53.0	静岡県立美術館
90	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	(無題6)	2001(平成13)頃	キャンヴァス、アクリル	130.0×162.0	静岡県立美術館
91	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	(無題7)	2004(平成16)頃	キャンヴァス、アクリル、油彩	145.5×194.0	静岡県立美術館
92	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	(無題8)	2005(平成17)頃	キャンヴァス、アクリル、油彩	91.0×116.7	静岡県立美術館

# 忘れられた江戸絵画史の本流 —— 江戸狩野派の250年

前期：5月22日（土）～6月6日（日） 後期：6月8日（火）～6月27日（日）

No.	作者名	作品名	材質・技法	員数	所蔵	展示期間
<b>第一章 基盤形成—奥絵師の活躍</b>						
特別 出品	狩野探幽守信	富士山図	紙本墨画淡彩	一幅	静岡県立美術館	
1	狩野永真安信	竹梅図屏風	紙本墨画淡彩	六曲一双	日照軒コレクション	前期
2	狩野永真安信	山水図屏風	紙本墨画淡彩	六曲一双	日照軒コレクション	後期
3	狩野右京時信	山水図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	
4	狩野永叔主信	円相山水図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	
5	狩野永叔主信	春景山水図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
6	狩野永叔主信	吉野山図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
7	狩野永叔主信	倣狩野元信 柿本人麻呂図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
8	狩野永真憲信	富士山図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	
9	狩野永真憲信（季信）	狩野探幽原本 倣古名画卷（模本）	紙本著色	一卷	日照軒コレクション	巻替
10	伝狩野探信守政	寿老人・竹梅図	絹本著色/墨画	三幅対	日照軒コレクション	
11	狩野探雪守定	富士山図	紙本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
12	狩野探常守富	富士山図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
13	狩野探林守美	三皇図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	
14	狩野古川常信	十二ヶ月和歌歌意画帖	紙本墨書/墨画淡彩	一帖	日照軒コレクション	場面替
15	狩野栄川古信	獅子舞図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
16	狩野栄川院典信	山水図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
17	狩野栄川院典信	柳に千鳥図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
18	狩野栄川院典信	倣銭選 花鳥図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
19	伝狩野随川岑信	波濤雲龍図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
20	狩野随川甫信	猪・狸・虎図	絹本淡彩	三幅対	日照軒コレクション	
21	狩野常川幸信	陶淵明図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
<b>第二章 全国展開—江戸狩野派早期の傍流の実力者たち</b>						
22	桃田柳栄	富士山図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
23	片山尚景	梅孔雀・桐鳳凰図屏風	紙本著色	六曲一双	日照軒コレクション	
24	池田涼珉	富士山図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
25	清原雪信	富士山図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
26	久隅胖幽	竹虎図	紙本墨画	一幅	日照軒コレクション	
27	清水洞郁	孔子図	紙本著色	一幅	日照軒コレクション	
28	狩野常祥	松孔雀・竹鷄図屏風	紙本著色	六曲一双	日照軒コレクション	
29	狩野常辰	群仙図屏風	紙本著色	六曲一双	日照軒コレクション	
<b>第三章 巨大化と多様化—表絵師の体制確立と展開</b>						
30	狩野洞雲益信	楼閣図屏風	紙本著色	六曲一双	日照軒コレクション	左右隻を半期 ずつ
31	狩野洞雲益信	富士山図屏風	紙本墨画淡彩	六曲一双	日照軒コレクション	
32	狩野洞春美信	寿老人・山水図	絹本著色	三幅対	日照軒コレクション	
33	狩野洞春美信	瀑布図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	前期

No.	作者名	作品名	材質・技法	員数	所蔵	展示期間
34	狩野洞白愛信	倣狩野元信 天拝布袋図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	前期
35	狩野洞白愛信	寿老人・鶴図	絹本著色	三幅対	日照軒コレクション	後期
36	狩野洞白愛信	東方朔・西王母図屏風	紙本著色	六曲一双	日照軒コレクション	
37	狩野春笑亮信	山水図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	
38	狩野梅栄知信	琴棋書画図屏風	紙本墨画淡彩	六曲一双	日照軒コレクション	
39	狩野休碩友信	山水図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	
40	狩野玉燕季信	瀟湘八景図巻	紙本墨画	一卷	日照軒コレクション	巻替
41	狩野休圓清信	花鳥人物押絵貼屏風	絹本墨画淡彩	六曲一隻	日照軒コレクション	
42	狩野休山是信	諸葛孔明図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
43	狩野休山徳信	雲龍・風神雷神図	絹本墨画淡彩	三幅対	日照軒コレクション	
44	狩野休圓為信	富士山図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
45	狩野伯圓方信	倣狩野探幽 美人奏楽図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
46	狩野即誉種信	寿老人福祿寿図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	
47	狩野即誉種信	梅鷹図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
48	狩野即誉種信	白鷗図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
49	狩野寿石敦信（秀信）	琴棋書画・群仙図屏風	紙本墨画淡彩	六曲一双	日照軒コレクション	
50	狩野洞元邦信（生信）	西湖・金山寺図	絹本墨画淡彩	二幅対	日照軒コレクション	
51	狩野洞琳波信	流水に梅鳥図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
52	狩野洞琳波信	牡丹図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
53	狩野大学氏信	官女図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
54	狩野柳雪秀信	鍾馗図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
55	狩野柳伯定信	山水図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	
56	狩野梅雲為信	虎図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	
57	狩野友甫宴信	鷹狩図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
58	狩野友甫宴信	瀑布・水辺茅屋図	絹本著色	二幅対	日照軒コレクション	
<b>第四章 変化と飛躍—奥絵師様式の刷新</b>						
59	狩野伊川院栄信	倣柏子庭 石菖図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	
60	狩野伊川院栄信	牡丹図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
61	伝狩野伊川院栄信・ 狩野晴川院養信	富士山登龍図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	
62	狩野晴川院養信	倣狩野元信 富士三保松原図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	
63	伝狩野勝川院雅信	松鶴図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
64	狩野勝川院雅信	山水図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	
65	狩野勝川院雅信	倣雪舟 福祿寿図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	
66	狩野勝川院雅信	松図屏風	紙本金地墨画	六曲一双	日照軒コレクション	
67	狩野祐清英信	鷹図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
68	狩野祐清英信	卯花に杜鵑図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
69	狩野祐清英信	雲龍図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	
70	狩野祐清英信	寿老人図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
71	狩野祐清邦信	竹梅図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
72	狩野祐清邦信・ 狩野永恵立信	花鳥図屏風	紙本著色	六曲一双	日照軒コレクション	
73	狩野永恵立信	（倣雪舟）梅潜寿老図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	

No.	作者名	作品名	材質・技法	員数	所蔵	展示期間
74	狩野永恵立信	(傲高然暉) 山水図屏風	紙本金地墨画	二曲一隻	日照軒コレクション	
75	狩野探信守道	唐子遊印図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
76	狩野探信守道	円相傲古図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	
77	伝狩野融川寛信	瀑布図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	
78	狩野融川寛信	柳に黄鳥図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
79	狩野舜川昭信	牡丹図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
80	狩野董川中信	鷹狩図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
81	狩野勝川院雅信・ 狩野董川中信・ 狩野永恵立信・ 狩野探淵守真・ 狩野探原守経	寄合書図	紙本著色	一幅	日照軒コレクション	
82	狩野勝川院雅信・ 狩野探淵守真・ 狩野永恵立信	日本三景図	絹本墨画金泥引	一幅	日照軒コレクション	
83	狩野勝川院雅信・ 狩野玉圓永信・ 狩野春貞房信・ 狩野宗益景信・ 狩野素川寿信・ 狩野勝玉昭信・ 狩野探龍守玉・ 狩野探原守経	山水人物花鳥押絵貼屏風	絹本墨画/著色	八曲一隻	日照軒コレクション	
<b>第五章 江戸狩野派の終焉? - 江戸後期表絵師の躍動</b>						
84	狩野洞益春信	春秋山水図	絹本著色	二幅対	日照軒コレクション	
85	狩野洞白陳信	山水図屏風	紙本金地墨画	六曲一双	日照軒コレクション	
86	狩野洞春秀信	傲円山心挙 寿老人図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	前期
87	狩野洞春秀信	白鳩図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	後期
88	狩野春貞與信	孔門十哲図	紙本著色	一幅	日照軒コレクション	
89	狩野了承賢信	諸葛孔明図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
90	狩野探玄守明	黄石公図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
91	狩野探玄守明	近江八景図屏風	紙本墨画淡彩	四曲一双	日照軒コレクション	左右隻を半期 ずつ
92	狩野探龍守玉	牧牛図	絹本墨画淡彩	一幅	日照軒コレクション	前期
93	狩野探龍守玉	春景山水図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	後期
94	狩野探龍守玉	張良吹簫図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
95	狩野素川章信	寿老人・鶴図	絹本淡彩	三幅対	日照軒コレクション	
96	狩野素川章信	山水図	絹本墨画	二幅対	日照軒コレクション	前期
97	狩野素川章信	夏冬山水図	絹本淡彩	二幅対	日照軒コレクション	後期
98	狩野洞琳由信	傲狩野元信 山水図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
99	狩野洞琳由信	雷神図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
100	狩野洞琳由信	(傲雪村) 鍾馗図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
101	狩野柳雪匡信	菊図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
102	狩野寛静良信	富士山図	絹本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
103	狩野寛静良信	孔雀牡丹図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
104	笹山伊成栄博	閑羽図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
105	永峯伊水栄吉	(傲芸阿弥) 観瀑図	紙本淡彩	一幅	日照軒コレクション	
106	永峯伊水栄吉	円相山水図	紙本著色	一幅	日照軒コレクション	

No.	作者名	作品名	材質・技法	員数	所蔵	展示期間
107	猪原伊鶴栄昌・ 笹山伊成栄博・ 早瀬伊迪栄甫・ 橋本伊貞栄邦・ 伊雪	倣宋元名画図	絹本著色/墨画	一幅	日照軒コレクション	
108	狩野探賞守静	倣用田 栗鼠図	絹本墨画	一幅	日照軒コレクション	
109	狩野探水守常	西王母図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
110	狩野探水守常	(倣雪舟) 梅潜寿老図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
111	前村洞和愛徳	東方朔図	紙本墨画	一幅	日照軒コレクション	

# 江戸狩野派の古典学習 ―― その基盤と広がり

前期：5月18日（火）～6月6日（日） 後期：6月8日（火）～6月27日（日）

No. 指定	作者名	作品名	材質・技法	員数	所蔵	展示期間
<b>第一章 古典名画を写す―江戸狩野派の縮図・模本・直模作品</b>						
1	狩野探幽守信	王冕原本 墨梅図	絹本墨画	一幅	個人蔵	
2	狩野探幽守信	雪舟原本 山水図	絹本淡彩	一幅	個人蔵	
3	狩野探幽守信	雪舟原本 破墨山水図	紙本墨画	一幅	個人蔵	
4	狩野古川常信	常信縮図（和漢人物図巻）	紙本著色／墨画	一卷	東京藝術大学	巻替
5	伝狩野古川常信	常信縮図（和漢人物図巻）	紙本淡彩／墨画	一卷	東京藝術大学	巻替
6	◎ 狩野探幽守信	臨画帖	絹本／紙本・著色／墨画／淡彩	二帖	個人蔵	場面替
7	狩野古川常信・狩野栄川古信・狩野養川院惟信・狩野晴川院養信	唐絵手鑑 第1帖	絹本／紙本・著色／墨画／淡彩	一帖（四帖のうち）	東京国立博物館	場面替
8	狩野伊川院栄信	唐絵手鑑 第4帖	絹本／紙本・著色／墨画／淡彩	一帖（四帖のうち）	東京国立博物館	場面替
9	狩野晴川院養信	唐画帖	紙本著色／墨画淡彩	一帖	滴水軒記念文化振興財団	場面替
10	狩野古川常信	流書手鑑	紙本墨画／淡彩	一卷	東京国立博物館	後期
11	狩野栄川古信	雪舟原本 山水長巻	紙本墨画淡彩	一卷	東京国立博物館	後期
<b>第二章 古典名画に倣う―江戸狩野派の倣古図とその展開</b>						
12	狩野探幽守信	倣宋元名画卷	絹本著色／墨画	一卷	個人蔵	巻替
13	狩野探幽守信	倣古八景図巻	絹本淡彩／墨画	一卷	個人蔵	前期
14	江戸狩野派	狩野探幽原本倣古名画卷（模本）	紙本墨画／淡彩	一卷	板橋区立美術館	巻替
15	江戸狩野派	狩野探幽原本学古図帖（模本）	紙本墨画／淡彩	一卷	日照軒コレクション	巻替
16	狩野古川常信	和漢流書手鑑	絹本著色／墨画	二帖	個人蔵	場面替
17	松野梅山	倣狩野探幽 鳥窠和尚図	絹本著色	一幅	日照軒コレクション	
18	鶴澤探山	倣古図巻	絹本著色	一卷	日照軒コレクション	巻替
19	狩野永真安信・狩野古川常信・狩野探信守政・狩野洞雲益信・狩野探雪守定	名画集	絹本著色	一帖	静岡県立美術館	場面替
20	狩野伊川院栄信・狩野晴川院養信	唐画流書手鑑	絹本著色／墨画	一帖	静岡県立美術館	場面替
21	狩野伊川院栄信	楼閣山水図屏風	絹本著色	二曲一隻	静岡県立美術館	
22	狩野董川中信	倣狩野元信 山水図	絹本著色	一幅	個人蔵	
23	狩野晴川院養信	東方朔・山水図	絹本著色	三幅対	静岡県立美術館	
特別出品	狩野探美守貴	縮図帖	紙本墨画／淡彩	一帖	日照軒コレクション	

◎・・・重要文化財

# 国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 — 天地創造の神話

7月10日（土）～9月5日（日）

No.	作品名	時代	出土地	材質、技法	寸法 (cm)
プロローグ すべては海から始まった					
1	3匹の魚とロータスを描いた浅鉢	新王国時代・第18王朝、前1450～前1400年頃	テーベ	ファヤンス	高さ3.7、直径10
第1章 天地創造と神々の世界					
2	シュウ神とテフヌウト女神の頭部を装飾したメニトのおもり	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ14.2 奥行2 幅5.5
3	ゲブ神を象徴する雁のついた杖の上部の装飾	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ10.7 幅3 奥行5
4	有翼の女神、おそらくヌウト女神の形のミイラの装飾	プトレマイオス時代初期、前332～前246年頃	アブシール・アル=マラク	裏打ちされた布、彩色	高さ16 幅28 厚さ2
5	背面にジェド柱を持つオシリス神の小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	ベンハ（?）	方解石	高さ21.5 幅7.2 奥行10.5
6	ホルス神に授乳するイシス女神の小像	末期王朝時代・第26王朝、前664～前525年頃	テーベ西岸、シェイク・アブド・アル=クルナ地区	ファヤンス	高さ9.7 幅3.2 奥行6.1
7	手にアंक（生命の象徴）を持つセト神を描いたオストラコン	新王国時代・第19～20王朝、前1292～前1070年頃	ディール・アル=マディーナ	礫、彩色	高さ6.5 幅4.8 厚さ2.7
8	有翼のイシス女神に保護された、ミイラ姿のオシリス神の小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ17.5 幅5.2 奥行8.4
9	ホルス神に授乳するイシス女神の小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ26 幅6.7 奥行8.5
10	ハヤブサの姿をしたホルス神の小像	プトレマイオス時代、前323～前30年頃	出土地不詳	金	高さ3.8 幅1.5 奥行3.8
11	ナイルの神の像（上半部）	中王国時代・第12王朝、前1976～前1794年頃	マディーナト・アル=ファイユーム、クロコディオポリスのセベク神殿	黒色花崗閃緑岩	高さ70 幅49 奥行37
12	ひざまずき供物を捧げるナイルの神ハピ	第3中間期・第25王朝（クシュ王朝）、前710～前650年頃	マディーナト・ハブ、アメン神妻シェブエンウベト2世の神殿型墓	砂岩	高さ85 幅39.5 厚さ6.5
13	ライオン頭の神マヘスの座像	プトレマイオス～ローマ支配時代、前332～後313年頃		青銅、金	高さ60 幅20 奥行32
14	コンス神像（上半部）	新王国時代・第19王朝、ラメセス2世治世、前1279～前1213年頃	ジルジャ	花崗岩	高さ66.5 幅22 奥行21
15	セクメト女神座像	新王国時代・第18王朝、アメンヘテプ3世治世、前1388～前1351年頃	テーベ東岸、カルナク神殿複合体・ムウト神殿域	花崗閃緑岩	高さ211 幅49 奥行102
16	セクメト女神座像	新王国時代・第18王朝、アメンヘテプ3世治世、前1388～前1351年頃	テーベ東岸、カルナク神殿複合体・ムウト神殿域	花崗閃緑岩	高さ203 幅54 奥行98
17	セクメト女神立像（上半部）	新王国時代・第18王朝、アメンヘテプ3世治世、前1388～前1351年頃	テーベ東岸、カルナク神殿複合体・ムウト神殿域	花崗岩	高さ85.5 幅47 奥行41
18	バステト女神座像	末期王朝時代・第26王朝、ネコ2世治世、前610～前595年頃	出土地不詳	青銅	高さ22.5 幅8.7 奥行17
19	腹ばいになる山犬の姿をしたアヌビス神像	新王国時代・前1550～前1070年頃	出土地不詳	木、彩色	高さ26.6 幅9.8 奥行54.2
20	日輪を戴くエジプト・マングースの小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ22 幅5.5 奥行5
21	ネフェルテム神の小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅、全鑄造、ガラス象嵌	高さ30.7 幅6 奥行10.9
22	パピルスの茂みの中にあるヘフ神の装飾を施した聖油を塗るための匙	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	ファヤンス、青彩色	高さ8.8 幅5.5 奥行2.1
23	座ったヒヒの護符	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	ファヤンス	高さ4.6 幅2.3 奥行2.9
24	ハヤブサ頭のワニの小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	蛇紋岩、暗緑色	高さ5.5 幅3.8 奥行21.2

No.	作品名	時代	出土地	材質、技法	寸法 (cm)
25	ミン・クヌム神あるいはアメン・ラー神の小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ32 幅12 奥行23.5
<b>第2章 ファラオと宇宙の秩序</b>					
26	アメンエムハト3世と思われる礼拝する王の立像	中王国時代・第12王朝、アメンエムハト3世治世、前1853～前1806	出土地不詳	花崗閃緑岩（花崗岩）	高さ65 幅19.7 奥行31
27	ハトシェブスト女王のスフィンクス像（胸像）	新王国時代・第18王朝、ハトシェブスト女王治世、前1479～前1458年頃	テーベ西岸、アル＝ディーラ・アル＝バハリ	珪化砂岩（珪岩）	高さ97 幅88 奥行77
28	ハトシェブスト女王あるいはトトメス3世のスフィンクス像頭部	新王国時代・第18王朝、ハトシェブスト・トトメス3世治世、前1479～前1425年頃	出土地不詳	石	高さ18.5 幅116 奥行13
29	礼拝するヒヒの姿をしたトト神とアメンヘテプ3世	新王国時代・第18王朝、アメンヘテプ3世治世、前1388～前1351年頃	ヘルモポリス・マグナ	赤色花崗岩	高さ134（台座を含む） 幅52 奥行68.5
30	トットアंकアメン（ツタンカーメン）王の前で腰をかがる廷臣たちのレリーフ	新王国時代・第18王朝、トットアंकアメン王治世、前1333～前1323年頃	サッカラ、ウニス墓地、ホルエムヘブ墓	石灰岩	高さ42 幅23 厚さ3
31	エジプト人と「アジア人」を描いたセティ1世王墓のブロック	新王国時代・第19王朝、セティ1世治世、前1290～前1279年頃	テーベ西岸、王家の谷・東谷、セティ1世王墓（KV17）	石灰岩、彩色	高さ104.5 幅75.6 奥行41.9
32	二重冠を被ったハヤブサで表されたホルス神の小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	ベンハ	青銅	高さ26 幅8.5 奥行23
33	王に授乳する女神の立像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ17.7 幅4.2 奥行6
34	聖水を注ぐハヤブサ頭のホルスの小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ10.1 幅2.4 奥行5
35	聖水を注ぐトキ頭のトト神の小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ12.3 幅2.9 奥行5.1
36	トキの姿をしたトト神、2匹のヒヒとマアト女神を伴う祠堂	末期王朝時代、前664～前332年頃	テル・アル＝アマルナ、大住居O 49.01、ホール	青銅、一部鍍金、中空 鑄造	高さ10.6 幅5.8 奥行13.5
37	神々に供物を捧げるトットアंकアメン（ツタンカーメン）王と妃を描いたアーキトラヴ	新王国時代・第18王朝、トットアंकアメン王治世、前1333～前1323年頃	メンフィス／サッカラ	石灰岩	高さ65 幅103 厚さ12
38	アメン・ラー神に供物を捧げるトトメス3世を描いたアメンエムハトのステラ	新王国時代・第18王朝、トトメス3世治世、前1479～前1425年頃	テーベ西岸、アル＝アサーシーフ	珪岩	高さ62.5 幅36 厚さ18
39	ラー・ホルアクティ神に供物を捧げるトトメス3世を描いたステラ	新王国時代・第18王朝、トトメス3世治世、前1479～前1425年頃	ヘリオポリス、おそらく太陽神殿域	石灰岩	高さ106.5 幅64 厚さ13.5
40	サティス女神とアヌキス女神に捧げられたプトレマイオス1世の供物盤	プトレマイオス時代、プトレマイオス1世ソテル治世、前304～前282年頃	エレファンテネ	黒色花崗岩	高さ16 直径79.5
41	メンフィスのプタハ大司祭の系譜のあるレリーフ破片	第3中間期・第22王朝、前946～前736年頃	メンフィス／サッカラ	石灰岩	高さ45 幅90 厚さ5.5
42	メンフィスのプタハ大司祭の墓出土のレリーフ	新王国時代・第19王朝、ラメセス2世治世、前1279～前1213年頃	メンフィス／サッカラ	石灰岩	高さ58 幅94 厚さ12
43	王の書記ホリのステラ	新王国時代・第20王朝、ラメセス8世治世、前1126～前1125年頃	アビュドス	石灰岩、彩色	高さ100 幅65 厚さ15
44	神官の頭部	末期王朝時代・第30王朝、前380～前342年頃	出土地不詳	花崗岩	高さ22 幅13.5 奥行18.3
45	神官で天文観測官タイタイの立像	新王国時代・第18王朝、アイ王治世、前1323～前1319年頃	出土地不詳	硬砂岩・石灰岩	高さ27.5 幅8 奥行12.5
46	ナクトミンと母メレトセゲルの像	新王国時代・第19王朝、前1292～前1186年頃	ヘリオポリス（?）	黒色花崗岩	高さ32 幅20 奥行11.5
47	メニトのおもり（ハトホル女神の宗教儀式の道具）	新王国時代・第18王朝、アメンヘテプ3世治世、前1388～前1351年頃	テル・アル＝アマルナ、大住居O 47.11	青銅、金に象嵌	高さ11.1 幅3.8 厚さ0.4
48	ライオンの上に立つベス神の装飾のある柄のハトホル女神のシストルム	プトレマイオス～ローマ支配時代、前332～後313年頃	ギリシャ、スパルタ	青銅、全鑄造	高さ24 幅3.9 奥行3.4
49	デモティックが記された香炉	プトレマイオス時代、前323～前30年頃	出土地不詳	青銅	高さ10.6 幅7 奥行45.7
50	2本のオベリスクが立つ様式化された神殿の模型	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅、全鑄造	高さ14.5 幅8.5 奥行9.1



No.	作品名	時代	出土地	材質、技法	寸法 (cm)
51	神格化されたイアスマス・ネフェルトイリと思われる王妃の立像	新王国時代・第19王朝、ラムセス2世治世、前1279～前1213年頃	出土地不詳	硬砂岩	高さ55.5 幅12 奥行15
52	ヒヒを肩に乗せ、ひざまずく男性の像	新王国時代・第19王朝、前1292～前1186年頃	出土地不詳	石灰岩	高さ61.5 幅25 奥行39
53	カルナク神殿のアメン神官ホルの方形彫像	第3中間期・第22王朝、オソルコン2世治世、前875～前837年頃またはオソルコン3世治世、前790～前762年頃	テーベ東岸、カルナク神殿複合体	硬砂岩	高さ31 幅16.5 奥行21
54	アメン神を表す牡羊の頭を抱えた男性の座像	第3中間期・第22王朝、オソルコン2世治世、前875～前837年頃	テーベ西岸、ラムセウム	石灰岩、彩色	高さ48 幅22 奥行31
55	ハトホル女神あるいはイシス女神に供物を捧げる女性を描いた奉納ステラ	末期王朝時代・前664～前332年頃	テーベ	硬砂岩	高さ10 幅7.5
56	呪術的なステラ（ワニに載った子供のホルス）	末期王朝時代・第30王朝～プトレマイオス時代初期、前380～前200年頃	出土地不詳	凍石、暗緑色	高さ19.5 幅10.9 奥行6.7
57	バタイコスの護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初期、前664～前250年頃	出土地不詳	ファイアンス、胆力色	高さ8 幅3.8 奥行2.4
58	ベス神の小像	新王国時代・第18王朝、前1550～前1292年頃	テル・アル＝アマルナ（?）	ファイアンス、暗青色	高さ8.6 幅4.5 奥行4
59	ベス神の象嵌	末期王朝時代、前664～前332年頃	アシュル（イラク）	ガラスペースト	高さ16.8 幅8.2 奥行2.2
60	壺とライオンの背後の祈る人物が表現された供物卓	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ5.9 幅3.1 奥行5.3
61	マアト女神の像を抱えた神官がひざまずいている小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ7.2 幅2.2 奥行3.3
62	バビルスの巻物を持つ神格化されたイムヘテブの座像	第3中間期・第25王朝（クシュ王朝）、前746～前655年頃	出土地不詳	青銅	高さ13 幅4.5 奥行9.5
63	プタハメス墓のピラミディオン	新王国時代・第18王朝、アメンヘテブ3世治世、前1388～前1351年頃	サッカラ、ウニス墓地、プタハメス墓	黒色花崗岩	高さ39.5 幅43 奥行41
64	太陽讃歌が記されたネフェルヘテブのレリーフ	新王国時代・第18王朝、アメンヘテブ3世治世、前1388～前1351年頃	テーベ西岸、おそらくネフェルヘテブ墓	石灰岩、彩色	高さ28.5 幅27.5 厚さ6
65	太陽の船に乗るスカラベを描いたパネヘシのペクトラル（胸飾り）	新王国時代・第20王朝、前1186～前1070年頃	出土地不詳	青色ファイアンス、赤色ガラス、釉薬付凍石	高さ10.6 幅10.2 厚さ2.6
66	創造の卵を持つスカラベとして表現された原初の神プタハ	第3中間期・第25王朝（クシュ王朝）、前746～前656年頃	出土地不詳	石灰岩	高さ43 幅25.5 奥行17
67	ネフェルトイティ（ネフェルティティ）王妃あるいは王女メリトアテンの頭部	新王国時代、第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテブ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、住居P 47.02、19室	珪化砂岩（珪岩）、彩色	高さ29 幅14.9 奥行16.5
68	アクエンアテン王の頭部を描いたレリーフ断片	新王国時代、第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテブ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ	白色石灰岩	高さ15.5 幅11.5 厚さ3.2
69	アテン神の2つのカルトゥーシュを持ち上げるアクエンアテンを描いた奉納タブレット	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテブ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	出土地不詳	方解石、彩色	高さ9 幅4.2 厚さ1.3
70	アテン神の初期名を刻したレリーフ	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテブ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、住居N 49.06	石灰岩、彩色	高さ20 幅16 厚さ5.5
71	ネフェルトイティ（ネフェルティティ）王妃立像	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテブ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、住居P 47.02、19室	石灰岩、彩色	高さ40.5 幅8 奥行17
72	アクエンアテン王とネフェルトイティ（ネフェルティティ）王妃を描いたステラ断片	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテブ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ	石灰岩、彩色	高さ12.5 幅9.5 厚さ1.4
73	アクエンアテン王の立像胴部	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテブ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	出土地不詳	石灰岩	高さ36 幅14.2 奥行13
74	供物卓の前のアクエンアテン王とネフェルトイティを描いたステラ	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテブ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、住居N 51.06、中庭	石灰岩、彩色	高さ11.9 幅8.6 厚さ2.2
75	アクエンアテン王とネフェルトイティ（ネフェルティティ）王妃の娘である王女の頭部	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテブ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、住居O 49.13	砂岩	高さ14.7 幅11.7 奥行14

No.	作品名	時代	出土地	材質、技法	寸法 (cm)
76	王女の立像	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテプ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	出土地不詳	硬石膏	高さ7.5 幅2.5 奥行2.4
77	棺台の上のトトメス王子の小像	新王国時代・第18王朝、アメンヘテプ3世治世、前1388～前1351年頃	メンフィス／サッカラ (?)	凍石	高さ5 幅9.8 奥行4.4
78	小鳥を掴んだ手を表現した彫像断片	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテプ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ	珪岩	高さ4.5 幅7.1 奥行3.5
79	ハヤブサの頭部をもつ儀仗の破片	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテプ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、大 中庭P 47.02-03	方解石	高さ9.4 幅4.1 奥行4.9
80-1	植物文様が施された青色彩文土器	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテプ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、大 住居O 49.01	土器、彩色	高さ50 直径31
80-2	植物文様が施された青色彩文土器	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテプ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	出土地不詳	土器、彩色	高さ58 直径31
<b>第3章 死後の審判</b>					
81	ジェドコンスイウエスアンの『アムドゥアト書』	第3中間期・第21王朝、前1070～前946年頃	出土地不詳	パピルス巻物、彩色	縦23.5 長さ124
82	タレメチュエンバステトの『死者の書』	ブトレマイオス時代初期、前332～前246年頃	出土地不詳	パピルス巻物、彩色	縦36.3 長さ413.4 (82・83・84、巻物の全長)
83	タレメチュエンバステトの『死者の書』	ブトレマイオス時代初期、前332～前246年頃	出土地不詳	パピルス巻物、彩色	
84	将軍のステラ	ブトレマイオス時代初期、前332～前246年頃	出土地不詳	パピルス巻物、彩色	
85	王の書記サアセトの人型棺蓋	新王国時代・第19王朝、ラメセス2世治世、前1279～前1213年頃	アシュート、サアセト墓	赤色花崗岩、彩色	高さ55 幅80 長さ225
86	樹木の女神を描いたカーメスのステラ	新王国時代・第19王朝、前1292～前1186年頃	アビュドス	石灰岩	高さ129 幅68 厚さ13
87	ネスコンスパケレドという名の女性ノカルトナーージュ棺	第3中間期・第23王朝、前756～前712年頃	テーベ西岸	カルトナーージュ、彩色	高さ32 幅43 長さ165
88-1	タイレトカブという名の女性の人型棺・外棺(蓋)	第3中間期末期～末期王朝時代初期・第25～26王朝、前746～前525年頃	テーベ西岸	下塗りされた木、彩色	高さ68 幅78 長さ213
88-2	タイレトカブという名の女性の人型棺・外棺(本体)	第3中間期末期～末期王朝時代初期・第25～26王朝、前746～前525年頃	テーベ西岸	下塗りされた木、彩色	高さ52 幅78 長さ208
89-1	タイレトカブという名の女性の人型棺・内棺(蓋)	第3中間期末期～末期王朝時代初期・第25～26王朝、前746～前525年頃	テーベ西岸	下塗りされた木、彩色	高さ28 幅53 長さ178.5
89-2	タイレトカブという名の女性の人型棺・内棺(本体)	第3中間期末期～末期王朝時代初期・第25～26王朝、前746～前525年頃	テーベ西岸	下塗りされた木、彩色	高さ20 幅53 長さ178.5
90-1	タシュリトエンアメンという名の女性のミイラのカルトナーージュ(胸部)	ブトレマイオス時代、前323～前30年頃	出土地不詳	裏打ちされた布、彩色、 鍍金	高さ9 幅42.5 長さ84
90-2	タシュリトエンアメンという名の女性のミイラのカルトナーージュ(足部)	ブトレマイオス時代、前323～前30年頃	出土地不詳	裏打ちされた布、彩色、 鍍金	高さ21.5 幅14.5 長さ16
90-3	タシュリトエンアメンのミイラ・マスク	ブトレマイオス時代、前323～前30年頃	出土地不詳	裏打ちされた布、彩色、 鍍金	高さ23 幅21 長さ23.5
91	デモティックの銘文のあるパレメチュシグのミイラ・マスク	ローマ支配時代、後50～後100年頃	メイル	亜麻布、プラスター、 ガラス、部分的に鍍金	高さ42 幅31 長さ56
92-1	人頭の蓋のタバケトエンタアシュケトのカノボス容器	第3中間期・第22王朝、タケロト2世治世、前841～前816年頃	シェイク・アブド・アル＝ クルナ地区、タバケトエン タアシュケト墓	石灰岩、彩色、記銘	高さ35.5 幅13.5 奥行13.5
92-2	ヒヒ頭の蓋のタバケトエンタアシュケトのカノボス容器	第3中間期・第22王朝、タケロト2世治世、前841～前816年頃	シェイク・アブド・アル＝ クルナ地区、タバケトエン タアシュケト墓	石灰岩、彩色、記銘	高さ35 幅13.5 奥行13.5
92-3	山犬頭の蓋のタバケトエンタアシュケトのカノボス容器	第3中間期・第22王朝、タケロト2世治世、前841～前816年頃	シェイク・アブド・アル＝ クルナ地区、タバケトエン タアシュケト墓	石灰岩、彩色、記銘	高さ38.5 幅13.5 奥行15.5

No.	作品名	時代	出土地	材質、技法	寸法 (cm)
92-4	ハヤブサ頭の蓋のタバケトエンタ アシュケトのカノボス容器	第3中間期・第22王朝、タケロト2世 治世、前841～前816年頃	シェイク・アブド・アル＝ クルナ地区、タバケトエン タアシュケト墓	石灰岩、彩色、記銘	高さ35 幅13.5 奥行13.5
93	ロータス花卉ペンダントのネッ クレス	新王国時代、前1550～前1070年頃	テーベ (?)	青色ファイアンス	長さ56
94	円盤形ビーズとガラス製丸形ビー ズ、さまざまな護符のついたネッ クレス	第3中間期、前1070～前664年頃	マトマール、墓708	ファイアンス、ガラス、 骨、石	長さ43
95	ハトホル女神の象徴のある柄鏡	新王国時代・第18王朝、 前1550～前1292年頃	テーベ	青銅、一部鍍金、ガラ ス象嵌	高さ25.3 幅13.5 厚さ2.6
96	背中にミイラを載せて運ぶワニの 小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	デルタ、ティマイ・アル＝ イムディード	花崗岩	高さ9 幅10.5 奥行27
97	山犬頭のアヌビス神小像	第3中間期～末期王朝時代、 前1070～前525年頃	テーベ	青銅、全鑄造、鉄、金 に象嵌	高さ12.7 幅4.9 奥行4.8
98	祠堂形のベクトラル	新王国時代、前1550～前1070年頃	メンフィス/サッカラ	蛇紋石	高さ6.7 幅7.5 厚さ0.9
99-1	有翼スカラベ形のミイラの護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	暗青色ファイアンス	長さ5.3 幅4 厚さ1.9
99-2	有翼スカラベ形のミイラの護符 (左翼)	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ2.8 幅9.1 厚さ0.6
99-3	有翼スカラベ形のミイラの護符 (右翼)	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	暗青色ファイアンス	長さ2.7 幅9.3 厚さ0.6
100-1	日輪を戴くハヤブサ頭の襟飾りの 左側端部分	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ4.9 幅5.1 厚さ0.9
100-2	日輪を戴くハヤブサ頭の襟飾りの 右側端部分	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ5 幅5.1 厚さ0.9
101	イシス女神の護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ6.3 幅0.9 厚さ1.3
102	ネフティス女神の護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ6.3 幅1 厚さ1.2
103	ホルス神の4人の息子、ケベフヌ ウエフ神の護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ5.9 幅1 厚さ1.3
104	ホルス神の4人の息子、ハピ神の 護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ5.8 幅0.9 厚さ1.1
105	ホルス神の4人の息子、イムセティ 神の護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ5.9 幅0.9 厚さ1.1
106	ホルス神の4人の息子、ドゥアム ウトエフ神の護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ5.8 幅1 厚さ1.3
107	ブタハ神の護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	淡緑色ファイアンス	長さ6 幅1 厚さ1.1
108	ミイラのビーズ・ネット	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク 墓14、3室	暗青色、淡緑色ファ イアンス	長さ10.5 幅11 厚さ0.5
109-1	ウジャト眼の護符 (右)	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、 アメンヘテプ4世/アクエンアテン王 治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、住 居N 51.03、納屋	青色ファイアンス	長さ4.4 幅6.3 厚さ1
109-2	ウジャト眼の護符 (左)	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、 アメンヘテプ4世/アクエンアテン王 治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、住 居N 51.03、納屋	青色ファイアンス	長さ4.2 幅5.6 厚さ0.8
110	人間の頭のついたハート・スカラ ベ	新王国時代、前1550～前1070年頃	出土地不詳	蛇紋石	高さ5 幅7.4 奥行10.6
111	心臓形の護符	末期王朝時代～プトレマイオス時代初 期、前664～前250年頃	アブシール・アル＝マラク、 通称「ヘリシェフ神官の集 団墓地」、17b室	碧玉、緑色	高さ3.1 幅2.4 厚 さ1.4
112	バケドゥのシャブティ像	新王国時代・第19王朝、前1292～前11 86年頃	サッカラ、ネクロポリス	凍石	高さ22.2 幅8 奥 行5.8
113	ブタハメスのシャブティ像	新王国時代・第19王朝、前1292～前11 86年頃	サッカラ、ウニス墓地、プ タハメス墓	石、黒色	高さ22.6 幅7.2 奥 行6.3
114	ウアフのシャブティ像	新王国時代・第19王朝、前1292～前11 86年頃	テーベ西岸	石灰岩、彩色	高さ33 幅10.2 奥 行8

No.	作品名	時代	出土地	材質、技法	寸法 (cm)
115	普段着をまとったシャブティ像	新王国時代、前1550～前1070年頃	メンフィス／サッカラ	蛇紋石、灰緑色	高さ20 幅7.5 奥行5
116	上部がまるくなった棺形のシャブティ・ボックス	第3中間期末期～末期王朝時代初期・第25～26王朝、前746～前525年頃	出土地不詳	下塗りされた木、彩色	高さ21 幅27 奥行15
117	死者を描いたミイラの覆い布	ローマ支配時代、後1～2世紀頃	アクミーム (?)	亜麻布、彩色	縦104 幅98
118	クワイトエンブタハの偽扉	古王国時代・第5～6王朝、前2479～前2191年頃	メンフィス／サッカラ (?)	石灰岩	高さ113 幅79 厚さ10.5
119	ラー神とハトホル女神の神官であったマアケルウプタハの供物台	古王国時代・第5～6王朝、前2479～前2191年頃	サッカラ、S916、マアケルウプタハ墓	方解石、彩色	奥行54 幅102.5 高さ13
120	王の書記ウブアアウトメスのステラ	新王国時代・第18王朝、前1550～前1292年頃	メンフィス／サッカラ	石灰岩	高さ161 幅86 厚さ12.5
121	神々を礼拝する死者とその家族を描いたカマのステラ	新王国時代・第19～20王朝、前1292～前1070年頃	メンフィス／サッカラ	石灰岩	高さ119 幅68 厚さ13
122	しゃがんで果物を食べるサルの特徴	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	緑色ファイアンス	高さ7.3 幅2.7 奥行3.2
123	4匹の子猫と横たわる猫の小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ3.9 幅12.3 奥行6
124	かがんだ野ウサギの小像	中王国時代・第12王朝、前1976～前1794年頃	カフン	青色ファイアンス	高さ3.7 幅3 奥行7.9
125	背中に有翼スカラベとハゲワシが彫刻されたトガリネズミの小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ5.7 幅2.7 奥行12.7
126	さまざまな砂漠の動物たちを描いたベヘヌウカー墓のレリーフ	古王国時代・第5王朝、ウセルカフ王治世、前2479～前2471年頃	サッカラ、ベヘヌウカー墓	石灰岩、彩色	高さ29.5 幅45.5 厚さ8.5
127	沼地で鉚突き漁をする死者を描いたレリーフ	古王国時代・第5～6王朝、前2479～前2191年頃	サッカラ、ネクロポリス	石灰岩、彩色	高さ105.5 幅138 厚さ9
128	パピルスの茂みを船で航行する死者ヘテベットのレリーフ	古王国時代・第6王朝、前2322～前2191年頃	アル＝ギーザ、ヘテベット墓	石灰岩、彩色	高さ38 幅74 厚さ8
129	ウナギとヘビの混合した姿をした動物で装飾された青銅製の動物の棺	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ2.3 幅2.7 奥行25.5
130	カエルの形のスカラボイド	新王国時代・第18王朝・アマルナ時代、アメンヘテプ4世／アクエンアテン王治世、前1351～前1334年頃	テル・アル＝アマルナ、住居P 49.03	黄色ファイアンス	高さ0.9 幅1.1 奥行1.2
131	カエルの形の護符	新王国時代・第18王朝末期、前1388～前1292年頃	出土地不詳	ファイアンス	高さ1.4 幅1 奥行0.8
132	カエルの形の護符	新王国時代、前1550～前1070年頃	出土地不詳	凍石	高さ1.1 幅1.3 奥行1.6
133	2匹のカエルの形の護符	新王国時代、前1550～前1070年頃	出土地不詳	凍石	高さ1.2 幅1.8 奥行2.1
<b>エピソード オシリスの予言</b>					
134	アテフ冠を被ったオシリス神の小像	末期王朝時代、前664～前332年頃	出土地不詳	青銅	高さ39 幅10.5 奥行8

# 収蔵品展

## 新収蔵品展

4月6日(火)～5月16日(日)

No.	作者名	作品名
1	狩野常信	波涛・花鳥図屏風
2	狩野周信	西湖図 ★
3	狩野典信	山水図(以古図)
4	狩野惟信	山水図押絵貼屏風
5	狩野栄信	春秋山水花鳥図
6	狩野栄信・養信	唐画流書手鑑 ★
7	村松以弘	山水図 ★
8	大岡雲峰	日金山富嶽眺望図
9	福田半香	溪山真楽図
10	平井顕斎	山水図
11	平井顕斎	鴈門急雨図
12	小栗哲郎	裏のみかん山
13	小栗哲郎	龍爪山下の群落 ★
14	中川一政	風景(池袋の麦畑)
15	柏木俊一	道
16	カール・ドービニー	川岸の風景 ★
17	シャルル＝フランソワ・ドービニー	綱を引っ張る見習水夫(『アトリエ舟で行く』より)
18	シャルル＝フランソワ・ドービニー	舟での昼食(『アトリエ舟で行く』より)
19	シャルル＝フランソワ・ドービニー	漁網を仕かける(『アトリエ舟で行く』より)
20	シャルル＝フランソワ・ドービニー	アトリエ舟(『アトリエ舟で行く』より)
21	シャルル＝フランソワ・ドービニー	蒸気船(『アトリエ舟で行く』より)
22	ダレン・アーモンド	LIKE LOVE WE SELDOM KEEP ★

★は新収蔵品

5月18日(火)～6月27日(日)は「江戸狩野派の古典学習－その基盤と広がり」展を開催。(出品目録はp.84参照)

## 構図をめぐって一縦に積む／横に広げる／奥に進む 6月29日(火)～9月5日(日)

No.	作者名	作品名
1	小糸源太郎	春雪
2	藤田嗣治	モンルージュ、パリ
3	柏木俊一	道
4	和田英作	富士

5	河合新蔵	富士山
6	岡鹿之助	献花
7	曾宮一念	自画像
8	鳥海青児	はにわ
9	原勝郎	バガテル公園、パリ
10	小林猶治郎	夜櫻
11	児島虎次郎	酒津の庭(水蓮)
12	曾宮一念	風景
13	和田三造	風景
14	清水登之	セーヌ河畔
15	岡鹿之助	観測所
16	里見勝蔵	静物
17	児島善三郎	箱根
18	小出権重	静物
19	小林猶治郎	静物
20	田村一男	北越大雪
21	太田喜二郎	帰り路(樵婦帰路)
22	川村清雄	波
23	海老原喜之助	かぜ
24	佐伯祐三	ラ・クロッシュ
25	川村清雄	海底に遺る日清勇士の櫓
26	川村清雄	梅に親子雀

## 名品コーナー

No.	作者名	作品名
		4月7日(火)～5月16日(日)
	結城素明	赤壁横江 (個人蔵)
	小糸源太郎	春雪
	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
		5月18日(火)～6月27日(日)
	今村紫紅	宇津の山路
	菅井波	Masse Noire
	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流

---

6月29日(火)～9月5日(日)

---

新海竹太郎 農夫

---

柳原義達 道標・鳩

---

淀井敏夫 波・群

---

特に記載のあるものを除き、すべて当館所蔵

# 移動美術展

## 静岡県立美術館超名品展 風景と人間

(会場：浜松市美術館 会期：11月13日(土)～12月19日(日))

番号	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)
はじめに						
1	難波田龍起	1905-1997 (明治38-平成9)	ミクロの世界	1966 (昭和41)	キャンヴァス、油彩、エナメル	162.1×130.3
2	児島善三郎	1893-1962 (明治26-昭和37)	箱根	1937 (昭和12) 頃	キャンヴァス、油彩	90.7×115.2
3	坂田一男	1889-1956 (明治22-昭和31)	祭壇の男	1926 (大正15)	キャンヴァス、油彩	80.0×60.0
第一章 天						
4	ユベール・ロベール	1733-1808	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーリ	1761	板、油彩	39.1×43.8
5	アシル=エトナ・ミシャロン	1796-1822	廃墟となった墓を見つめる羊飼	1816	キャンヴァス、油彩	81.0×100.0
6	ヨーハン=バルトールト・ヨンキント	1819-1891	オンフルール近郊の街道	1866	キャンヴァス、油彩	58.4×78.4
7	クロード・モネ	1840-1926	ルーアンのセヌ川	1872	キャンヴァス、油彩	49.2×76.2
8	須田国太郎	1891-1961 (明治24-昭和36)	筆石村	1938 (昭和13)	キャンヴァス、油彩	97.0×145.5
9	田村一男	1904-1997 (明治37-平成9)	北越大雪	1976 (昭和51)	キャンヴァス、油彩	145.5×89.4
天と地をつなぐ富士						
10			富士曼荼羅図	17世紀初 (江戸初期)	紙本淡彩	131.0×67.0
11			富士三保松原図屏風	16世紀後半 (室町時代)	紙本金地着色	各137.5×329.4
12	谷文晁	1763-1840 (宝暦13-天保11)	富士山図屏風	1835 (天保6)	紙本墨画群青引	163.1×363.2
13	椿椿山	1801-1854 (享和元-嘉永7)	山海奇賞図巻	1830 (文政13)	紙本淡彩	13.5×466.5
14	狩野永岳	1790-1867 (寛政2-慶応3)	富士山登龍図	1852 (嘉永5)	絹本墨画	179.0×87.0
15	司馬江漢	1747-1818 (延享4-文政元)	駿山薩陀山富士遠望図	1804 (文化元)	絹本油彩	78.5×146.5
16	歌川貞秀	1807 (文化4) -?	大日本富士山絶頂之図 (11/28まで展示)	1857 (安政4)	紙、木版、色摺	各37.8×25.7
17	歌川芳幾	1833-1904 (天保4-明治37)	富士山北口女人登山之図 (11/30から展示)	1860 (万延元)	紙、木版、色摺	各36.0×25.1
18	平木政次	1859-1943 (安政6-昭和18)	富士	1897 (明治30)	キャンヴァス、油彩	44.0×67.0
19	五姓田義松	1855-1915 (安政2-大正4)	富士	1905 (明治38)	キャンヴァス、油彩	46.8×101.5
20	和田英作	1874-1959 (明治7-昭和34)	富士	1918 (大正7)	キャンヴァス、油彩	60.6×80.2
21	石川直樹	1977 (昭和52) -	Mt. Fuji #38	2008 (平成20)	C-print	90.0×112.0
22	石川直樹	1977 (昭和52) -	Mt. Fuji #41	2008 (平成20)	C-print	90.0×112.0
第二章 地						
23	藤田嗣治	1886-1968 (明治19-昭和43)	モンルージュ、パリ	1918 (大正7)	キャンヴァス、油彩	41.0×33.5
24	佐伯祐三	1898-1928 (明治31-昭和3)	ラ・クロッシュ	1927 (昭和2)	キャンヴァス、油彩	52.5×64.0
25	ジャン=バティスト=カミーユ・コロ	1796-1875	メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュアール付近	1862	板、油彩	40.5×54.0
26	カミーユ・ピサロ	1830-1903	ライ麦畑、グラット=コックの丘、ポントワーズ	1877	キャンヴァス、油彩	60.3×73.7
27	ジョアン・ミロ	1893-1983	シウラナの教会	1917	キャンヴァス、油彩	46.3×55.1
28	長谷川潔	1891-1980 (明治24-昭和55)	南仏風景	1920-30年代 (大正末-昭和)	キャンヴァス、油彩	54.0×65.0
29	柏木俊一	1894-1971 (明治27-昭和46)	道	大正時代 (1912-1925)	キャンヴァス、油彩	37.5×45.5

30	北川民次	1894-1989 (明治27-平成元)	山村初春(高草山風景)	1941 (昭和16)	キャンヴァス、油彩	60.5×72.5
31	金山平三	1883-1964 (明治16-昭和39)	千曲川 (信濃路の春)	1956-64 (昭和31-39)	キャンヴァス、油彩	41.0×53.0
32	鳥海青児	1902-1972 (明治35-昭和47)	張家口	1939 (昭和14)	キャンヴァス、油彩	41.0×53.0
33	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	スペインの野	1968 (昭和43)	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0
34	野口謙蔵	1901-1944 (明治34-昭和19)	虹の風景	1941 (昭和16)	キャンヴァス、油彩	50.3×60.7
<b>地と人をつなぐ物語</b>						
35			曾我物語 富士巻狩・仇討凶 屏風	17世紀中頃 (江戸前期)	紙本金地着色	各156.8×356.6
36	菊池容斎	1788-1878 (天明8-明治11)	蒙古襲来之図	1862 (文久2)	絹本淡彩	161.2×83.2
<b>第三章 人</b>						
37	鳥海青児	1902-1972 (明治35-昭和47)	はにわ	1959 (昭和34)	キャンヴァス、油彩	45.7×38.0
38	ポール・ゴー ギャン	1848-1903	家畜番の少女	1889	キャンヴァス、油彩	73.3×92.1
39	オーギュスト・ ロダン	1840-1917	パオロとフランチェスカ	1887-89頃	ブロンズ	29.8×59.1×27.0
40	オーギュスト・ ロダン	1840-1917	女のケンタウロスのトルソと 絶望する若者		ブロンズ	31.2×24.5×13.1
41	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	飛べなくなった人	1996 (平成8)	板、アクリル	103.0×145.6
42	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	燃料補給のような食事	1996 (平成8)	板、アクリル	145.6×206.0
43	石田徹也	1973-2005 (昭和48-平成17)	無題6	2001頃 (平成13頃)	キャンヴァス、アクリル	130.0×162.0
44	伊藤隆史	1933-1997 (昭和8-平成9)	現代人A	1959 (昭和34)	合板、油彩	140.0×91.0
45	伊藤隆史	1933-1997 (昭和8-平成9)	現代人	1959 (昭和34)	合板、油彩	152.0×91.0
46	鶴田吾郎	1890-1969 (明治23-昭和44)	余の見たる曾宮君	1922 (大正11)	キャンヴァス、油彩	114.5×91.0
47	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	自画像	1914 (大正3)	キャンヴァス、油彩	45.8×33.6
48	加藤泉	1969 (昭和44) -	無題	2005 (平成17)	キャンヴァス、油彩	91.0×60.3
49	郭徳俊	1937-	クリントンと郭	2003 (平成15)	紙、シルクスクリーン	54.5×41.3
50	郭徳俊	1937-	ブッシュ2001と郭	2002 (平成14)	紙、シルクスクリーン	54.0×36.3
51	郭徳俊	1937-	オバマと郭	2009 (平成21)	紙、シルクスクリーン	51.6×36.8
52	小谷元彦	1972- (昭和47-)	胸いっばいの愛を (Single/girl)	2005 (平成17)	デジタルプリント、ウッド ドフレーム	172.7×122.5
53	森村泰昌	1951- (昭和26-)	批評とその愛人 (1) ~ (7)	1989 (平成元)	カラー写真、額縁	各90.0×106.0
54 *	森村泰昌	1951- (昭和26-)	批評とその愛人 マケット	1989 (平成元)	紙、木、ラス網、粘土、 石膏、アクリルガッシュ	30.0×49.5×29.0
55	ジュリアン・ オビー	1958-	歩いているティナ	2009	映像作品(52インチ液晶 ディスプレイ、PC)	125.7×74.8× 12.5
56	宮島達男	1957 (昭和32) -	LIFE (complex system) - no. 1	2017 (平成29)	LED、IC、イケガミブ ログラムのマイコン、電 気ワイヤ、赤外線センサー、 アクリル板、アルミニウ ムハニカムパネル、ステ ンレススチールフレーム	200.2×320.4× 13.3
57	河原温	1933-2014 (昭和8-平成26)	JAN.24, 1982. "Sunday." "TODAY" Series No.6, 1982.	1982	キャンヴァス、アクリル	20.3×25.4
58	河原温	1933-2014 (昭和8-平成26)	JAN.21, 1988. "Thursday." "TODAY" Series No.1, 1988.	1988	キャンヴァス、アクリル	20.3×25.4
59	河原温	1933-2014 (昭和8-平成26)	APR.2, 1988. "Saturday." "TODAY" Series No.12, 1988.	1988	キャンヴァス、アクリル	20.3×25.4
60	森万里子	1967 (昭和42) -	Higher Being I	2013 (平成25)	Fujiflex プリント、ルー サイト、アルミニウム	122.0×122.0× 7.6
61	清川泰次	1919-2000 (大正8-平成12)	天と地と-56	1956 (昭和31)	キャンヴァス、油彩	213.0×286.0
62	中村宏	1932 (昭和7) -	早来迎機・1	1988 (昭和63)	キャンヴァス、アクリル、 マジックペン	112.0×162.0



63	前田守一	1932-2007 (昭和7-平成19)	作品CB-1 「暗愚」	1959 (昭和34)	紙、木版	177.0×172.0
64	柳澤紀子	1940 (昭和15) -	水邊の庭 I	1998 (平成10)	エッチング、メゾチント、 アクアチント、ルーレット、 手彩色、ペランアルシュ紙に雁皮刷り	60.0×105.0
65	柳澤紀子	1940 (昭和15) -	水邊の庭IX	2003 (平成15)	エッチング、メゾチント、 アクアチント、手彩色、 ペランアルシュ紙に雁皮刷り	102.5×50.0
66	秋野不矩	1908-2001 (明治41-平成13)	たむろするクーラー	1984 (昭和59)	紙本金地着色	94.5×294.0

\* の作品は個人蔵、その他は当館所蔵

## 関係法規

### ■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号  
平成3年3月19日条例第2号  
平成4年3月25日条例第14号  
平成8年3月28日条例第11号  
平成11年3月19日条例第16号  
平成13年7月24日条例第45号  
平成15年3月12日条例第2号  
平成17年7月15日条例第49号  
平成22年3月26日条例第23号  
平成24年3月23日条例第1号  
平成26年3月28日条例第29号  
平成31年3月26日条例第18号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

### 静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認

を受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。
- (3) その他その使用を不相当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

- (1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。
- (2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあつても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。

(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

(追加〔平成24年条例第1号〕)

(協議会の委員)

第14条 委員の定数は、15人以内とする。

2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(一部改正〔平成24年条例第1号〕)

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

**附 則**

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

**附 則 (平成元年3月29日条例第43号)**

1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**附 則 (平成3年3月19日条例第2号)**

1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

**附 則 (平成4年3月25日条例第14号)**

1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**附 則 (平成8年3月28日条例第11号)**

(平成24年3月23日条例第1号)

1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**附 則 (平成11年3月19日条例第16号)**

1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**附 則 (平成13年7月24日条例第45号)**

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

**附 則 (平成15年3月12日条例第2号)**

この条例は、平成15年4月1日より施行する。

**附 則 (平成17年7月15日条例第49号)**

この条例は、公布の日から施行する。

**附 則 (平成22年3月26日条例第23号)**

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

**附 則 (平成24年3月23日条例第1号)**

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

**附 則 (平成26年3月23日条例第29号)**

1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**附 則 (平成31年3月26日条例第18号)**

1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1 (第3条関係)

(一部改正〔平成22年条例第23号〕)

(1) 常設展示

利用区分	観覧料
個人	300円
団体	1人につき 200円

備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。

2 団体とは、20人以上をいう。

3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事とその都度定める額

別表第2 (第5条関係)

利用区分	特別観覧料
模写	1点1日につき 2,000円
模造	1点1日につき 2,000円
撮影	1点1回につき 4,000円
熟覧	1点1日につき 1,000円
原板使用	1点1回につき 3,000円

別表第3（第9条関係）

（一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号・31年18号〕）

(1) 県民ギャラリー

利用区分		使用料
		10時から17時30分まで
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

(2) 講堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時から12時30分まで 7,750円	13時から17時30分まで 14,050円	10時から17時30分まで 21,800円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

（平成3年3月26日静岡県規則第24号）

改正 平成5年3月25日規則第13号  
平成6年3月10日規則第5号  
平成9年3月28日規則第51号  
平成12年3月31日規則第17号  
平成13年7月24日規則第59号  
平成20年3月31日規則第19号  
令和元年7月1日規則第4号  
令和3年3月26日規則第5号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

（趣旨）

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間及び休館日）

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、

その翌日以降の最初の休日でない日）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

（一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕）

（観覧手続）

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

（特別観覧手続）

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（県民ギャラリー等の使用手続）

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（使用の制限）

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

(2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

(3) その他館長の指示等に違反した者

（譲渡等の禁止）

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復ししなければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。

（損害賠償）

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

（観覧料等の減免）

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展

示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料（団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。）をいう。）の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）

(5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕）

（観覧料等の還付）

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

(2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料（使用料）還付申請書を

館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年3月25日規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月10日規則第5号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月28日規則第51号）

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日規則第17号）

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（平成13年7月24日規則第59号）

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第19号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第19号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（令和元年7月1日規則第4号）

1 この規則は、不正競争防止法等の一部を改正する法律（平成30年法律第33号）の施行の日（令和元年7月1日）から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する様式により提出された申請書等とみなす。

3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（令和3年3月26日規則第5号）

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の規定及び様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する規定及び様式により提出されたものとみなす。

3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

様式第1号（第4条関係）

（用紙 日本産業規格A4縦型）  
 （一部改正〔平成6年規則5号・12年17号・令和元年4号〕）  
 特別観覧承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

印

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名				点数
特別観覧の目的						
区分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用	
日時	年 月 日		時から		時まで	
内訳	模写	点	日	円	合 計	円
	模造	点	日	円		
	撮影	点	回	円		
	熟覧	点	日	円		
原板使用	点	回	円			
備考						

様式第2号（第5条関係）

（用紙 日本産業規格A4縦型）  
 （一部改正〔平成6年規則5号・12年17号・令和元年4号〕）  
 県民ギャラリー等使用承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称			
展覧会、講演等の内容			
使用区分	県民ギャラリー（A・B）	講堂	
使用期間	年 月 日（ ） 時 分から		年 月 日（ ） 時 分まで
入場料等の徴収の有無	有・無		円
主催者名			
連絡責任者及び電話			
後援者名			

（注） 展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第3号（第10条関係）

（用紙 日本産業規格A4縦型）  
 （一部改正〔平成6年規則5号・令和元年4号〕）  
 観覧料等減免申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料
申請の理由			
日時	年 月 日（ ） 時 分から		年 月 日（ ） 時 分まで
観覧人員	人		
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員	人		
責任者氏名			
責任者電話番号			
観覧料等	円		
減免申請額	円		

様式第4号（第11条関係）

（用紙 日本産業規格A4縦型）  
 （一部改正〔平成6年規則5号・令和元年4号〕）

特別観覧料  
 使用料 還付申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり特別観覧料の使用料の還付を受けたいので、申請します。

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

**（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）**

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

**附 則**

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

**■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程**

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申込とする。

2 優先予約を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

（申込方法）

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

（設備取り付け等）

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

（物品等の販売）

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

（展示品等の管理）

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

（現状回復義務）

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

（職員の立ち入り）

第10条 管理上必要があると認めるときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

**附 則**

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

**附 則**

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

**附 則**

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

**附 則**

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

**附 則**

この改正は、令和元年12月25日から施行する。

**■静岡県立美術館講堂利用規程**

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12

条に基づき、講堂の管理を適正に行うため、次のとおりこの規定を定める。

(利用範囲)

第2条 講堂は、芸術文化の発表と普及の目的以外での使用は認めない。

2 芸術文化の発表の目的で使用する場合であっても、入場料を徴収する場合は利用できない。

(使用期間)

第3条 使用期間は、1日もしくは半日とする。

2 使用時間は、1日の場合は午前10時から17時30分までとし、半日の場合、午前は、10時から12時30分まで、午後は、13時から17時30分までとする。

(申込期間)

第4条 申込期間は、使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。

2 県民ギャラリーにおいて優先予約を申請する場合のみ、講堂の優先予約を認めるものとする。なお、優先予約の申込期間は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

(備品の管理)

第8条 使用中の備品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(原状回復義務)

第9条 退出時には施設等を原状に復し、美術館の点検を受けなければならない。残留された物品に関しては、美術館は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めるときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

## ■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

- (1) 美術品の選定に関する事。
- (2) その他美術に関する専門的事項に関する事。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

## ■静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

2 委員の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任することができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長



及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が召集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例(昭和60年12月23日条例第38号)第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附 則

- 1 この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

## ■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

- 2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
- 3 委員会に会長及び副会長を置く。
- 4 会長には生活・文化部長、副会長には、文化振興総室長をもってこれに充てる。
- 5 会長は、会務を総理する。
- 6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が召集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

- 2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。
- 3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。
- 4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。
- 5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。
- 6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和2年4月1日から施行する。

別表

スポーツ・文化観光部長 部長代理 文化局長 文化政策課長 美術館副館長
--

## ■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
- (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
- (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

- (1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。
- (2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

## ■静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

- 2 委員の人数は、10名以内とする。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

- 2 委員長は、知事が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。
- 3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。
- 4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。
- 2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 令和2年9月30日)

## ■静岡県立美術館第三者評価委員会運営要領

(趣旨)

第1 この要領は、「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）の運営に関し、静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱（以下「要綱」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。（報償費及び旅費）

第2 委員会及び要綱第5条の委員会及び分科会へ出席した委員には、次のとおり報償費及び旅費を支給する。

(1) 報償費

委員長	12,000円
その他の委員	11,100円
要綱第5条第4項の規定に基づき 会議に出席した者	11,100円

(2) 旅費

県の旅費計算方法に準じて計算した額

2 前項に規定するもののほか、委員会及び分科会における検討に必要な作業、打合せ等を行った委員には、別に定める報償費及び旅費を支給することができる。

(文書等の記号及び番号)

第3 施行する文書等には、次に定めるところにより、記号及び番号を付するものとする。

- (1) 記号は「三評」とする。
- (2) 番号は、別紙文書収発簿により付するものとする。ただし、軽易な文書等については番号を省略し、号外で処理することができる。

(雑則)

第4 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要領は、平成18年9月21日から施行する。

(最終改正 平成24年5月31日)

## 組織・名簿

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常 勤		1人	9人	11人	21人
非 常 勤	1人			4人	5人

### ■美術館協議会委員

日比野 秀 男	掛川市二の丸美術館館長 掛川市ステンドグラス美術館館長
堀 切 正 人	常葉大学教育学部教授
漁 田 俊 子	静岡産業大学経営学部教授
石 川 善太郎	(株)静岡新聞社編集局専任局長
石 塚 正 孝	グランシップ館長
岩 崎 信 男	静岡市立小中学校校長会代表（静岡市立長田西中学校校長）
鈴 木 壽美子	静岡県文化協会会長
曾 根 正 弘	静岡県立美術館友の会会長
立 田 洋 司	地域連携機関（ムセイオン）代表
角 田 裕之介	全国報道機関代表 （NHK静岡放送局長）
富 澤 か な	静岡県立大学国際関係学部准教授
宮 本 宗 明	高等学校美術・工芸教育研究会会長 （県立浜松江之島高等学校校長）
望 月 宏 明	（公社）静岡県観光協会 専務理事

### ■専門委員

木 村 重 圭	元甲南女子大学教授
榊 原 悟	岡崎市美術博物館・おかざき世界子ども美術博物館特任館長 群馬県立女子大学名誉教授
栗 田 秀 法	名古屋大学大学院人文学研究科教授
潮 江 宏 三	京都市立芸術大学名誉教授
建 畠 哲	埼玉県立近代美術館館長 多摩美術大学学長
山 梨 絵美子	千葉市美術館館長

### ■資料評価委員

植 田 基 靖	静岡県スポーツ・文化観光部長
京 極 仁 志	静岡県スポーツ・文化観光部部長代理
紅 野 聖 二	静岡県スポーツ・文化観光部文化局長
室 伏 学	静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課長
伏 見 光 博	静岡県立美術館副館長

### ■職 員

館 長	木 下 直 之
副 館 長	伏 見 光 博
総 務 課 長	飯 田 一 昭
総 務 班 長	福 與 寿 彦
主 任	加 藤 小百合
主 任	大 石 孝 洋
主 事	高 柳 智 穂
管 理 班 長	三 輪 桂
主 任	村 上 能 久
主 任	大 橋 倫 代
主 任	菅 沼 元 詳
学 芸 課 長	石 上 充 代
上 席 学 芸 員	南 美 幸
上 席 学 芸 員	新 田 建 史
上 席 学 芸 員	村 上 敬
上 席 学 芸 員	泰 井 良
主 幹	奥 村 裕 喜
上 席 学 芸 員	川 谷 承 子
上 席 学 芸 員	植 松 篤
上 席 学 芸 員	野 田 麻 美
主 任 学 芸 員	貴 家 映 子
主 任 学 芸 員	浦 澤 倫 太 郎

### ■会計年度任用職員

新 間 教 子
中 島 友 絵
馬 場 夢 乃
堀 池 洋 子

## 歳入・歳出決算

### ■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	5,647
共催展収入	14,673
県民ギャラリー等使用料	2,160
財産売払・貸付・運用収入	2,794
助成金等	51,373
その他	11,033
計	87,680

### ■歳出決算

単位：千円

項 目	金 額
人件費	182,725
管理費	215,095
運営費	38,281
施設管理費	176,814
事業費	58,645
企画展事業費	33,464
常設展事業費	6,683
資料・普及事業費	18,498
館藏品取得費	9,481
施設整備費	317,104
基金積立	143
計	783,193

## 建築・設備概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
所 在 地 敷 地 構 造・規 模	静岡市駿河区谷田53番2号 県文化センター内（約130,000㎡） 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	同左 同左 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕 上	外壁：湿式磁器炔器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、 長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込PC板、吹付タイル 屋根：カラーステンレス葺、トップライト（アル ミ、複層ガラス） 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工 期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
電 気 設 備	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ300 KVA、3φ400KVAモールド型 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800rpm出力300KVA3φ3W6,600V 太陽光発電設備 10KW×2台 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、 充電サイリスタ全自動整流器	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ280K VA、3φ350KVA 契約電力700KW 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800 rpm出力200KVA3φ3W220V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置
弱 電 設 備	舞台調光、舞台音響、ITV監視、入 館者表示、映像資料（ビデオ）、電 話、放送、電気時計、テレビ共聴	弱 電 設 備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、 電話、放送、トイレ呼出表示、調光、 テレビ共聴
防 災、防 犯 設 備	警備センター集中監視複合盤（自火 報、防排煙）、防犯非常錠制御盤、 防災アンプ（360W）、ITV監視装置、 地図式表示版	防 災、防 犯 設 備 同 左
空 気 調 和 設 備	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（150USRT、 40USRT）、温水焚吸収冷温水機（30 USRT）、空気熱源回収型スクリュ ー式ヒートポンプ冷凍機（100USRT）、 プレート式熱交換機（396,300Kcal/h） 蓄 熱 層 冷温水槽550㎡・55㎡、ソーラー用 20㎡ ソーラーパネル 平板型672枚 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民 ギャラリー1系統、その他4系統及 びパッケージ型1台、ファンコイルユ ニット46台、他空冷ヒートポンプパッ ッケージエアコン、ルームエアコン	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（80USRT） 2基、蒸気ボイラー（250Kg/h）2 基、空冷チラーユニット（3.77USRT） プレート式熱交換機（86,000Kcal/h） 冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 0.75㎡
衛 生 設 備	排 煙 機 ロビー系統他3系統3台 給 水 設 備 受水槽30㎡（二槽式）、高架水槽12 ㎡（二槽式） 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋内消火栓	排 煙 機 メイン展示室他2系統4台 給 水 設 備 空調用自動給水装置受水槽 5㎡ 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋外消火栓
昇 降 機 設 備	乗 用 ロープ式11人乗750kg 荷 物 用 油圧式3,000kg	乗 用 油圧式23人乗1,500kg

## ■建設工事費

区分	本館	ロダン館
建築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外構	397,162	—
プロムナード	173,300	—
周辺環境整備	—	268,509
合計	4,373,300	3,684,504

## ■諸室概要

### ・本館

#### 実技室 (114m<sup>2</sup>)

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎月3～4日の創作週間と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

#### 図書閲覧室 (約20席)

当館は図書資料の整備にも力を入れており、これを一般の人々にも利用していただくようと設けられた物である。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

#### レストラン (70席 198m<sup>2</sup>) ・休憩スペース (39席 92.3m<sup>2</sup>)

レストラン「Rodin TERRACE」は、(株)なすびが運営している。

#### ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

#### 諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

#### 展示室 (7室 1,777m<sup>2</sup>)

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部にLED照明があり、壁ごとに調光可能となっている。

令和3年度の改修工事において、天井に配置してあるライティング・ダクトの位置を見直すとともに、LED照明に更新し、より機能的な照明環境となった。

#### 県民ギャラリー (2室 490m<sup>2</sup>)

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展

示パネルが設けられている。

#### 講堂 (262席 305m<sup>2</sup>)

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

16mm映写機2台を常備し、調光、音響調節の設備がある。

#### 講座室 (約30席 71m<sup>2</sup>)

美術に関する講座を行う。収蔵品展では展覧会ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

プロジェクター、音響設備がある。

#### 託児・授乳室 (15.21m<sup>2</sup>)

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 日曜、祝日 (令和3年度は中止)

10:30～15:30 (2時間を限度)

授乳室 開館日全て

10:30～17:30 (夜間開館日は20時まで)

### ・ロダン館

#### ロダンフロア (1,461m<sup>2</sup>)

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう、工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

#### 展示室 (149m<sup>2</sup>)

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールに設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準で、暖房は空調のみである。展示室にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

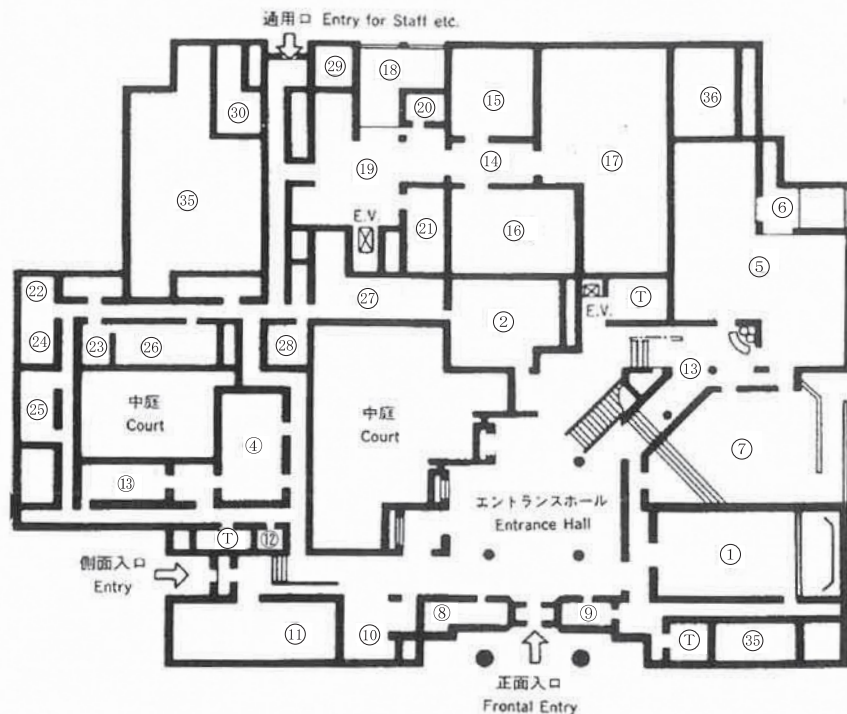
#### ブリッジギャラリー (276m<sup>2</sup>)

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図

■本館

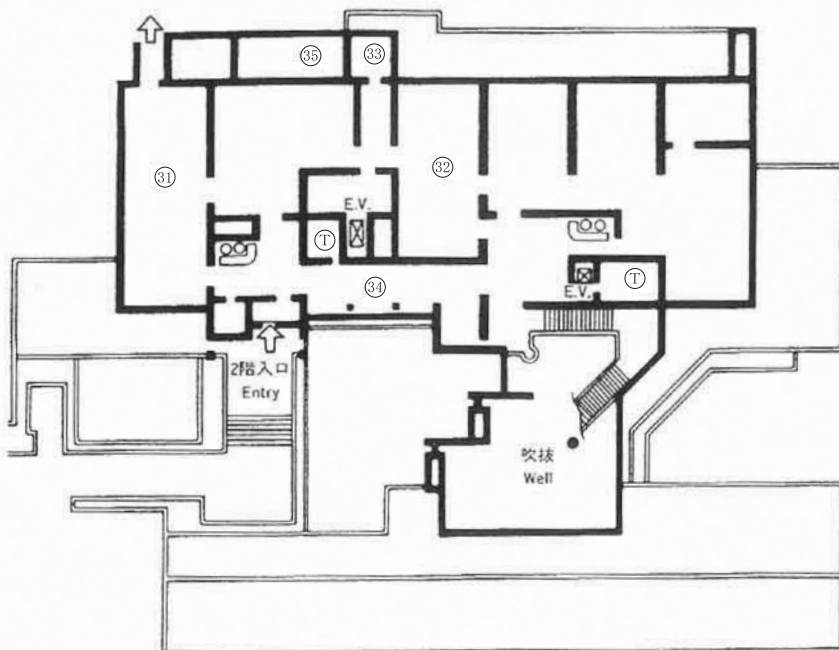
### 1階 First Floor



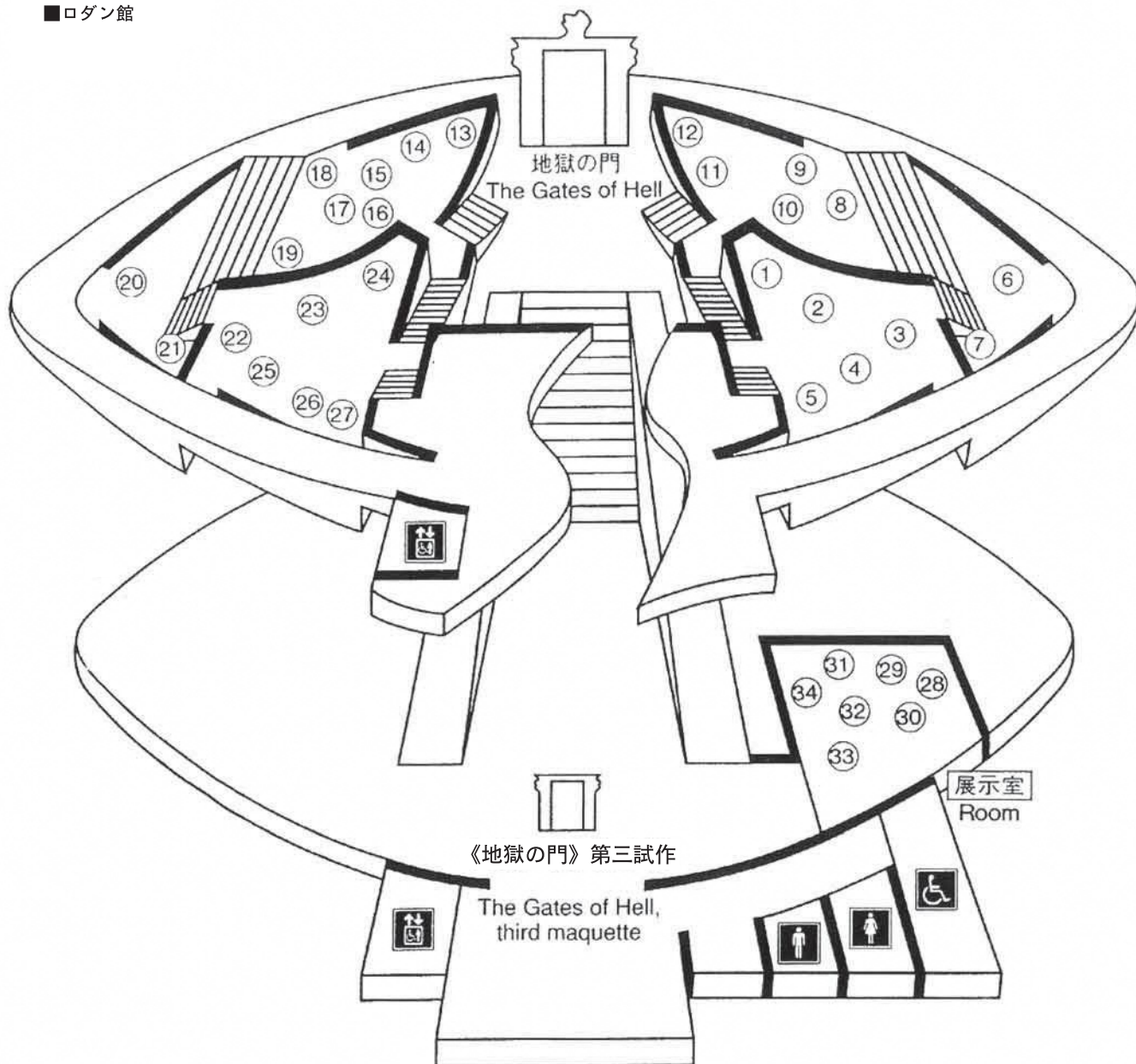
- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ 休憩スペース Rest Space

⑤ (次頁へ)

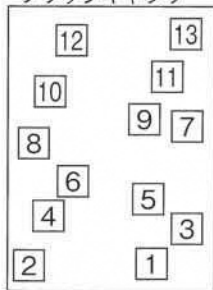
### 2階 Second Floor



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫 1 Storage (1)
- ⑯ 収蔵庫 2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫 3 Storage (3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
  
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
  
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉟ 機械室 Machinery Room
- ㊱ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊲ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator



ブリッジギャラリー



ロダン, A

- ① 《カレーの市民》ジャン・デール
- ② 《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンス
- ③ 《カレーの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレーの市民》アンドリュウ・ダンドル
- ⑥ 《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン=ピエール
- ⑦ 《カレーの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの巨大な頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ パオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 蝨をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者  
女のケンタウロスと女のトルソ  
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアンールパージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと  
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレールの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室

- ㉘ カルポー, J.B. / ナボリの漁師の少年

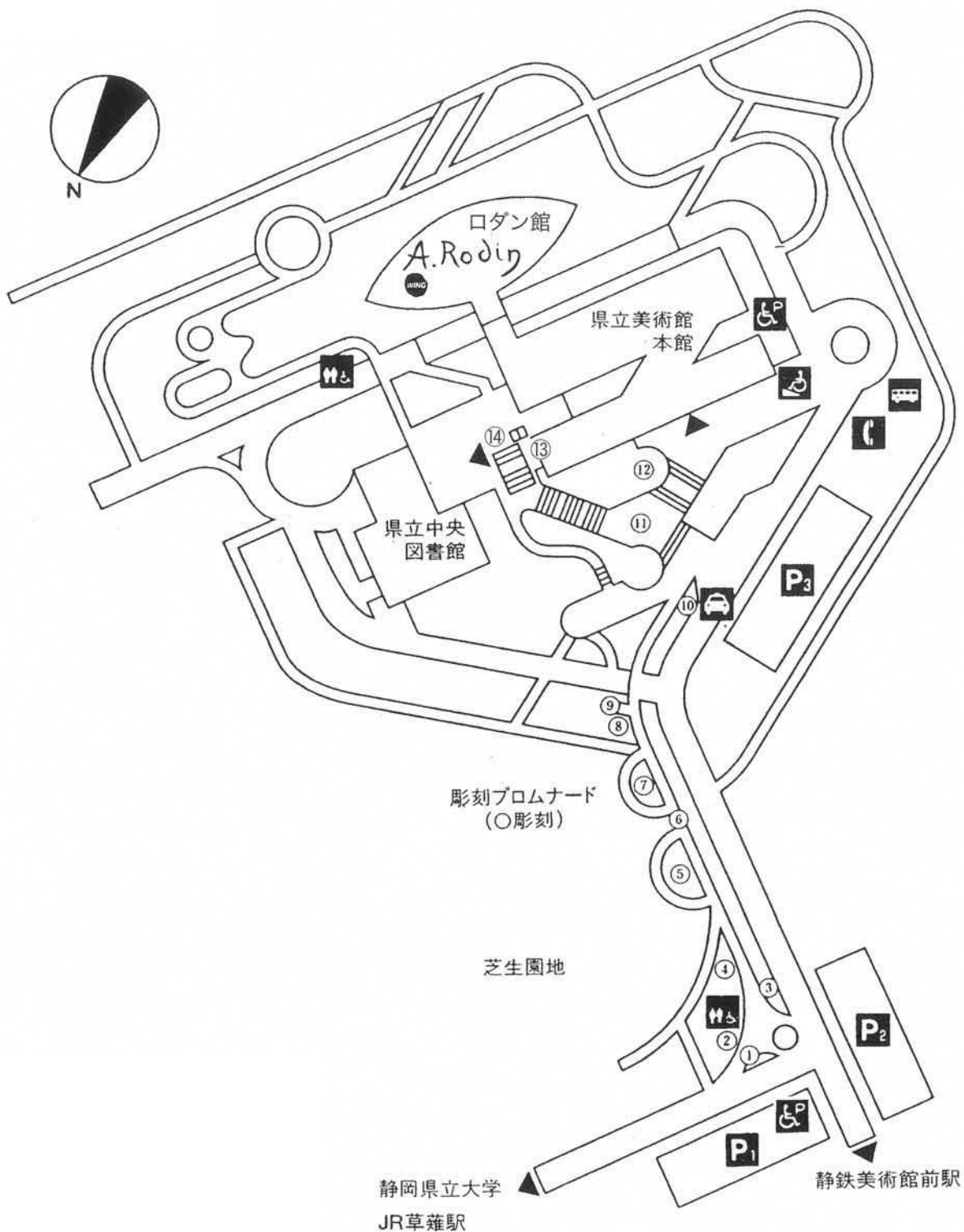
- ㉙ カリエ=ベルーズ, A.E. /  
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A. / パラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J. / 乳を与えるバリの女
- ㉝ フレミエ, E. / 蛇使い
- ㉞ パリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P. / オヴィリ
- ② バルラッハ, E. / 読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H. / 横たわる人体
- ④ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A. / 《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C. / ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシツ, J. / 母と子
- ⑨ ロッソ, M. / 病める男
- ⑩ プールデル, E.A. / アポロンの首
- ⑪ プールデル, E.A. / ロダンの肖像  
のトルソ
- ⑫ マイヨール, A. / 《イル・ド・フランス》  
のトルソ
- ⑬ クローデル, C. / 波 (複製)



■建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークⅡ》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《海の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V-相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線-菱形Ⅱ》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

## 利用案内

- 開館時間 午前10時～午後5時30分  
 (展示室への入室は午後5時まで)  
 [夜間開館] 8月14日(土)、15日(日)、21日(土)、  
 22日(日)、28日(土)、29日(日)、9月  
 4日(土)、5日(日)は午後7時まで開  
 館(入室は午後6時30分まで)  
 ■休館日 毎週月曜日(但し、月曜日が祝日・振替休  
 日の場合は開館し、翌日休館)、年末・年  
 始、その他展示替等のための休館日

### ■収藏品展覧料

一般300円(団体200円)

大学生以下・70歳以上の方は無料

### ■企画展覧料

展覧会名	一般	70歳以上	高校・大学生
ストーリーズ ～作品について学芸員 が知っていること	1,000円 <800円>	500円 <400円>	無料
忘れられた江戸絵画史の本流 —江戸狩野派の250年	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>	無料
国立ベルリン・エジプト 博物館所蔵 古代エジプト展— 天地創造の神話	1,500円 <1,300円>	800円 <700円>	800円 <700円>

\* < >内は前売及び20名以上の団体料金

\*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付  
 を受けている方は、企画展、収藏品展とも無料でご覧いただ  
 けます。

### ■施設利用料

#### (1) 県民ギャラリー

利用区分		使用料 10時～17時30分
入場料を 徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を 徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

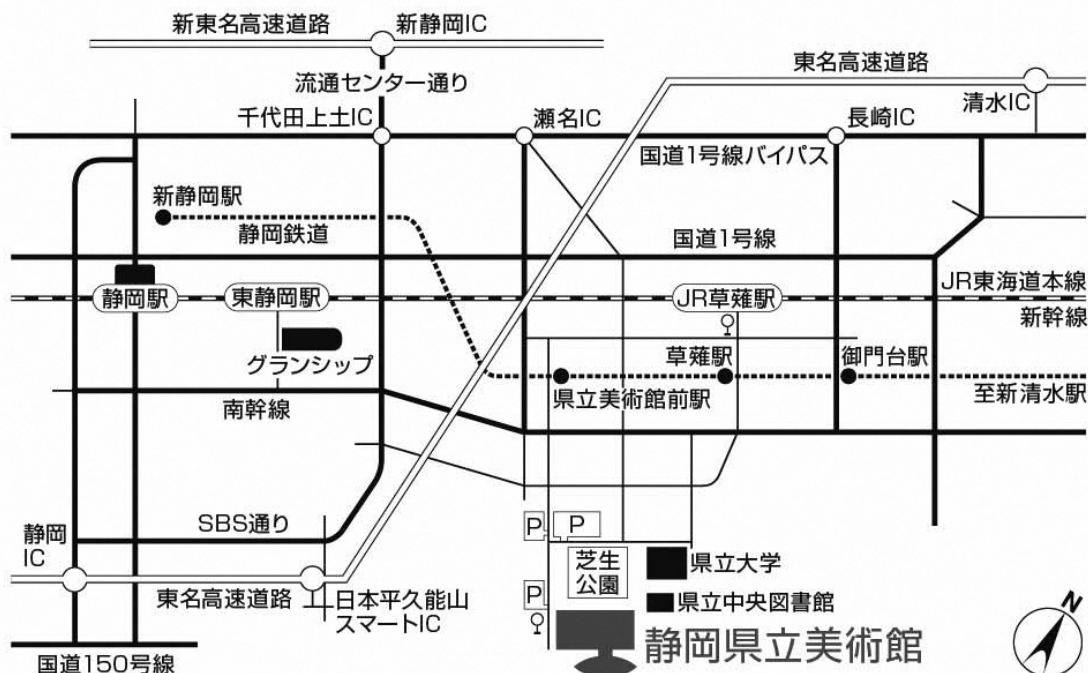
#### (2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,750円	14,050円	21,800円

交通案内 JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス  
 「県立美術館行き」で約6分  
 静鉄「県立美術館前駅」から徒歩で約15分ま  
 たは静鉄バスで約3分  
 JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分ま  
 たは北口から静鉄バスで約30分  
 東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約  
 25分、日本平久能山スマートICから車で15  
 分、新東名高速道路・新静岡ICから車で約  
 25分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

電話番号 総務課 TEL 054-263-5755  
 FAX 054-263-5767  
 学芸課 TEL 054-263-5857  
 FAX 054-263-5742  
 美術館友の会事務局 054-264-0897  
 ミュージアムショップ 054-264-8926



令和3年度  
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館©

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印刷：池田屋印刷株式会社

〒422-8058 静岡県静岡市駿河区中原746-1

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2021

Edited and Published by ©Shizuoka Prefectural Museum of Art

Printed by IKEDAYA Printing Co.,Ltd.,Shizuoka

Printed in Japan 2022





